

令和3年度(2021年度)入学生用

授 業 科 目 概 要



学校 和田実学園
法人

東京教育専門学校

目 次

はじめに	2	障害児保育	76
教育課程表	3	社会的養護Ⅱ	78
教育課程科目配列表	4	子育て支援	80
選択科目の履修方法	5	教育方法論	82
A 法学（日本国憲法）	6	幼児理解と教育相談	85
体育理論	8	健康	88
体育実技	10	言葉	91
外国語コミュニケーション	11	音楽表現Ⅰ	93
情報機器の操作	13	音楽表現Ⅱ	95
健康科学	15	造形表現	97
レクリエーション理論	17	音楽Ⅰ	99
レクリエーション実技	19	音楽Ⅱ	101
B 保育原理Ⅰ	20	F 教育実習（前半分）	103
教育の原理と制度	22	教育実習（後半分）	105
子ども家庭福祉	25	保育実習Ⅰ（保育所）	107
社会福祉	27	保育実習指導Ⅰ（保育所）	108
子ども家庭支援論	29	保育実習Ⅰ（施設）	110
社会的養護Ⅰ	31	保育実習指導Ⅰ（施設）	111
教職・保育者論	33	保育実習Ⅱ	113
C 幼児教育・保育心理学Ⅰ	36	保育実習指導Ⅱ	114
子ども家庭支援の心理学	38	保育実習Ⅲ	116
子どもの理解と援助	40	保育実習指導Ⅲ	117
子どもの保健	42	G 教職・保育実践演習	119
子どもの食と栄養	44	H 保育原理Ⅱ	121
D 保育指導法	46	児童家庭福祉Ⅱ	123
特別支援の理論と方法	49	臨床心理学	125
教育課程と保育計画	52	保育内容演習Ⅱ（造形）	127
保育内容総論	54	保育内容演習Ⅱ（生活）	129
保育内容演習Ⅰ（健康）	57	保育内容演習Ⅱ（音楽）	131
保育内容演習Ⅰ（人間関係）	60	保育内容演習Ⅱ（運動）	133
保育内容演習Ⅰ（環境）	62	音楽Ⅲ	135
保育内容演習Ⅰ（言葉）	65	音楽（ピアノ）	137
保育内容演習Ⅰ（表現）	68	言語Ⅱ	139
E 乳児保育Ⅰ	70	環境	141
乳児保育Ⅱ	72	リトミック・音楽理論	143
子どもの健康と安全	74		

はじめに

学生の皆さんが、幼稚園教諭・保育士養成科で、2年間に学ぶ「教育課程」は、次のような考え方のもとに編成されています。その基本的な考え方を知り、学ぶ目的や学ぶ順序をしっかりと把握して、学習に取り組んでください。

- (1) 教育課程：幼稚園教諭免許と保育士の資格を同時に取得するためには、次の5つの専門に関連した科目を学習し、専門知識、技能を身につけなければなりません。

イ．一般的、基礎的な教養に関する科目

ロ．教育に関する科目

ハ．保育に関する科目

ニ．養護に関する科目

ホ．福祉に関する科目

- (2) 教育課程を構造的に、科目の性格によって分類すると、次のような系列に分けられます。それぞれの系列を構成する科目の詳細は、次頁の「教育課程表」に示されています。

A．教養科目

B．教育の基礎理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目

C．教育の基礎理解に関する科目含む 保育の対象の理解に関する科目

D．教育の基礎理解に関する科目含む 保育の内容・方法等に関する科目

E．道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
保育の内容・方法に関する科目

F．領域に関する科目 大学が独自に設定する科目 保育の内容・方法に関する科目

G．教育実践に関する科目・保育実習

H．教育実践に関する科目・総合演習

I．領域に関する科目 保育に関する科目

- (3) 科目の配列

教育課程表に整理されている科目を、各系列ごとにバランスよく学習することができるように、2年間の4期に分けられ、そのそれぞれに、各系列の科目が配列されています。配列の詳細は、4ページ「教育課程科目配列表」に示されています。

- (4) 各科目の単位を取得するためには、授業に規定回数以上出席し、試験等で合格規準（60 点以上）に達する成績をとることが必要です。

別表1－1 教育課程表（平成31年度入学生～）

教 育 課 程 表

科目区分	必修・ 選択の 別	授業科目	授業 形態	第1学年		第2学年		授業時数合計 (単位数)
				年間授業時数	単位数	年間授業時数	単位数	
A 教養科目	必修	法学（日本国憲法）	講義	30	2			30 (2)
		体育理論	講義	15	1			15 (1)
		体育実技	実技	30	1			30 (1)
		外国語コミュニケーション	演習	30	2			30 (2)
		情報機器の操作	講義	30	2			30 (2)
	選択	健康科学	講義			30	2	30 (2)
		レクリエーション理論	講義	30	2			30 (2)
		レクリエーション実技	実技			45	1	45 (1)
B 教育の基礎理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目	必修	保育原理Ⅰ	講義	30	2			30 (2)
		教育の原理と制度	講義	30	2			30 (2)
		子ども家庭福祉	講義	30	2			30 (2)
		社会福祉	講義	30	2			30 (2)
		子ども家庭支援論	講義			30	2	30 (2)
		社会的養護Ⅰ	講義			30	2	30 (2)
		教職・保育者論	講義	30	2			30 (2)
C 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の対象の理解に関する科目	必修	幼児教育・保育心理学Ⅰ	講義	30	2			30 (2)
		子ども家庭支援の心理学	講義			30	2	30 (2)
		子どもの理解と援助	演習	30	1			30 (1)
		子どもの保健	講義	30	2			30 (2)
		子どもの食と栄養	演習	30	2			30 (2)
D 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の内容・方法に関する科目	必修	保育指導法	演習			30	2	30 (2)
		特別支援の理論と方法	演習	30	1			30 (1)
		教育課程と保育計画	講義			30	2	30 (2)
		保育内容総論	演習	30	1			30 (1)
		保育内容演習Ⅰ（健康）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅰ（人間関係）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅰ（環境）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅰ（言葉）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅰ（表現）	演習	30	1			30 (1)
E 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	乳児保育Ⅰ	講義	30	2			30 (2)
		乳児保育Ⅱ	演習			30	1	30 (1)
		子どもの健康と安全	演習			30	1	30 (1)
		障害児保育	演習	30	2			30 (2)
		社会的養護Ⅱ	演習			30	1	30 (1)
		子育て支援	演習			30	1	30 (1)
		教育方法論	講義	30	2			30 (2)
		幼児理解と教育相談	講義	30	2			30 (2)
		健康	演習	30	1			30 (1)
F 領域に関する科目 大学が独自に設定する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	言葉	演習	30	1			30 (1)
		音楽表現Ⅰ	演習	30	1			30 (1)
		音楽表現Ⅱ	演習			30	1	30 (1)
		造形表現	演習	30	1			30 (1)
		音楽Ⅰ	演習	30	1			30 (1)
		音楽Ⅱ	演習	30	1			30 (1)
		教育実習	実習	90	2	135	3	225 (5)
G 教育実践に関する科目・保育実習	必修	保育実習Ⅰ	実習	90	2	90	2	180 (4)
		保育実習指導Ⅰ	演習	30	1	30	1	60 (2)
		保育実習Ⅱ	実習			90	2	90 (2)
	選択 必修	保育実習指導Ⅱ	演習			30	1	30 (1)
		保育実習Ⅲ	実習			90	2	90 (2)
		保育実習指導Ⅲ	演習			30	1	30 (1)
		教職・保育実践演習	演習			30	2	30 (2)
H 教育実践に関する科目・総合演習	必修	保育原理Ⅱ	講義			30	2	30 (2)
		児童家庭福祉Ⅱ	演習			30	2	30 (2)
		臨床心理学	演習			30	2	30 (2)
		保育内容演習Ⅱ（造形）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅱ（生活）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅱ（音楽）	演習			30	1	30 (1)
		保育内容演習Ⅱ（運動）	演習			30	1	30 (1)
		音楽Ⅲ	演習			30	1	30 (1)
		音楽（ピアノ）	演習			30	1	30 (1)
		言語Ⅱ	演習			30	1	30 (1)
		環境	演習			30	1	30 (1)
		リトミック・音楽理論	演習	30	1			30 (1)
		必修科目数・時数・単位数	48科目	1005	47	705	27	1710 (74)
I 領域に関する科目 保育に関する科目	選択 必修	選択科目数・時数・単位数	19科目	60	3	645	23	705 (26)
		卒業に必要な最低科目数・時間数・単位数	53科目					1920 (83)

選択科目の履修方法

保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲを選択履修のこと。

教育課程 科目配列表

系 列		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
A	必修	法学（日本国憲法） 体育理論	体育実技 外国語コミュニケーション 情報機器の操作		
	選択		AS レクリエーション理論 ^{*1}	AS レクリエーション実技 ^{*1}	AS 健康科学 ^{*1}
B	必修	保育原理Ⅰ 教育の原理と制度 子ども家庭福祉 社会福祉 教職・保育者論		子ども家庭支援論 社会的養護Ⅰ	
C	必修	幼児教育・保育心理学Ⅰ	子どもの理解と援助 子どもの保健 子どもの食と栄養	子ども家庭支援の心理学	
D	必修	特別支援の理論と方法 保育内容演習Ⅰ（表現）	保育内容総論	保育内容演習Ⅰ（健康） 保育内容演習Ⅰ（人間関係） 保育内容演習Ⅰ（環境） 保育内容演習Ⅰ（言葉）	保育指導法 教育課程と保育計画
E	必修	乳児保育Ⅰ	障害児保育 教育方法論 幼児理解と教育相談	子どもの健康と安全 社会的養護Ⅱ 子育て支援	乳児保育Ⅱ
F	必修	言葉 造形表現 音楽Ⅰ	健康 音楽表現Ⅰ 音楽Ⅱ	音楽表現Ⅱ	
G	必修	実習指導 ^{*2}	教育実習（含教育実習指導） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅰ（保育所）	教育実習（含教育実習指導） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習指導Ⅰ（施設）	
	選択				GS 保育実習Ⅱ GS 保育実習指導Ⅱ GS 保育実習Ⅲ GS 保育実習指導Ⅲ
H	必修				教職・保育実践演習
I	選択	IS リトミック・音楽理論		IS 音楽Ⅲ	IS 保育原理Ⅱ IS 児童家庭福祉Ⅱ IS 臨床心理学 IS 保育内容演習Ⅱ（造形） IS 保育内容演習Ⅱ（生活） IS 保育内容演習Ⅱ（音楽） IS 保育内容演習Ⅱ（運動） IS 音楽（ピアノ） IS 言語Ⅱ IS 環境

* 1 “AS” は A 系列の選択科目を示す。“GS” “IS” も同様。

* 2 平常時時間割内に実習指導の時間を開設する。

※ 授業が開講となる期は、変更になる場合があります。

選択科目の履修方法

教育課程表にも記載されていますが、本校の選択科目履修規定は以下のとおりです。

1. 卒業条件を満たすための科目選択方法

G 系列選択科目

保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれか一方を選択履修し、単位を修得する。

I 系列選択科目

音楽Ⅲ、リトミック・音楽理論を含め、選択科目登録説明会の指導要件を満たすこと。

2. レクリエーション・インストラクターの資格を取得するための科目選択方法

- ① A 系列選択科目のうち、レクリエーション理論とレクリエーション実技の両科目を選択履修。
- ② 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、教育実習も履修の上、夏期キャンプ実習および現場実習も参加すること。

3. 救急・蘇生法適任証を取得するための科目選択方法

- ① A 系列選択科目のうち、健康科学を選択履修し、授業に組み込まれている「救急蘇生法に関する講習」を全て受講すること。

4. 乳幼児健康体育指導士

- ① 卒業条件を満たすこと。
- ② I 系列選択科目のうち、保育内容演習Ⅱ（運動）を選択履修し、授業に組み込まれている「乳幼児健康体育指導士に関する講習」を全て受講すること。

5. 科目選択において配慮すべき事項

科目選択については上記方法以外に、下記の点を十分に配慮し、決定してください。

将来の就職を見据えた関連科目の履修

- ・将来、積極的に施設への就職を考える者は、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲを選択すること。
- ・保育所への就職を考える者は、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱを選択すること。

以上のことを十分理解した上で、各人の興味関心、将来の方向性を見据え、本書を熟読し、教科の内容と関連、学習目的を明確にし、これらをバランスよく履修するよう心がけてください。

法学(日本国憲法)

担当 伊東明子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定しています。社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

◇授業全体の内容の概要

基本的な知識の説明と共に、身近な問題や裁判例を取り上げて解説します。DVDなどの映像資料も活用します。はじめて「法学」を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。

授業中にメモを取り、自分の考えをまとめて書く機会を設けます。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加することを希望します。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につけること、現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができるようになることをこの講義の目標とします。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	ガイダンス／法とは何か・法学を学ぶ意味	予習	各回のテーマの中で特に興味のある回とその理由を考えておく。
		復習	授業レジュメや資料のファイリングを行う。
2回目	日本国憲法と基本原理	予習	日本国憲法前文と第 97 条を声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
3回目	人権とは何か／生命・自由・幸福追求権	予習	日本国憲法第 13 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
4回目	法の下での平等	予習	日本国憲法第 14 条、24 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
5回目	人権は誰のものかー子ども・障害者・外国人の人権（1）	予習	日本国憲法第 10, 11, 12 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
6回目	人権は誰のものかー子ども・障害者・外国人の人権（2）	予習	教科書の判例 1「マクリーン事件判決」を声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
7回目	精神的自由権（内心の自由・表現の自由）	予習	日本国憲法第 19, 20, 21 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
8回目	経済的自由権	予習	日本国憲法第 22 条、29 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。

9回目	社会権（生存権、教育権、労働基本権）	予習	日本国憲法第 25, 26, 27, 28 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
10回目	身体的自由権（人身の自由）	予習	日本国憲法第 18, 31, 36 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
11回目	裁判所（司法権）	予習	日本国憲法第 32 条, 76, 78 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
12回目	国民の司法参加	予習	日本国憲法第 79 条 2 項, 82 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
13回目	日本国憲法と平和主義	予習	日本国憲法前文第 2 段落、第 9 条に線を引き、声に出して読んでおく。
		復習	授業レジュメを読み返してわからないところがあればチェックしておき、ファイルする。
14回目	まとめと試験の説明	予習	授業ファイルに全てのレジュメ、資料がそろっているかどうかをチェックする。
		復習	レジュメに自分でメモを正しく取っているかどうかをチェックする。
15回目	教育者として、また一（いち）生活者として、社会の中でいかに日本国憲法を生かして行くかを考える（試験）	予習	授業で配布したレジュメや資料に目を通す。
		復習	授業を通して学んだことを総括する。

◇テキスト

『目で見える憲法＜第 5 版＞』 初宿正典ほか編著 有斐閣

授業で配布するレジュメ

◇参考書・参考資料等

- ・六法（各社発行の簡便なもの）

◇単位認定の方法及び基準

- ・学期末筆記試験（評価の 70%）
- ・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の 30%）

体育理論

担当 北原隆史
田代浩二

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 基礎的教養として体育・スポーツの意義を理解する。
 - 1) 体育・スポーツとは何か、またその意義について理解している。
 - 2) Quality of Lifeとスポーツ・体育の関連とその重要性の背景を理解している。
- (2) 障害者スポーツの現状と課題を理解する。
 - 1) 障害者スポーツの現状と課題またその支援の在り方について理解している。
- (3) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
 - 1) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。
 - 2) 運動発達による子どもの資質・能力への影響とその支援の在り方について理解している。
- (4) 乳幼児の体力とその支援の在り方。
 - 1) 乳幼児期の健康・体力と生活：栄養・休養・運動の重要性とその支援の在り方について理解している。

◇授業の概要

近年の様々な教育的なテーマ「生きる力を育む」「資質・能力」「心を育む：非認知能力」「共生」を体育的な視点から考察し、また体育の在り方の動向とその基本的理論背景について学ぶと共に理論の構築の在り方について学習する。

◇授業計画

	内 容		
1 回目	オリエンテーション：基礎的教養としての体育・スポーツ	予習	講義ガイダンスの事前確認。
		復習	体育・スポーツを学ぶ意義について理解を深める。
2 回目	スポーツと Quality of Life：今日的課題と支援の在り方	予習	各自のスポーツのイメージを膨らませておく。
		復習	スポーツについての新たな発見を整理し、各自がプログラムした運動実践に取り組む。
3 回目	障害者スポーツの現状と課題	予習	パラリンピックについて下調べをする。
		復習	障害者スポーツについて新たな発見や気づきについてまとめる。
4 回目	運動技能獲得の要因と基本的理論	予習	運動スキルについて下調べをしておく。
		復習	運動スキル発達について整理し、各自が取り組んでいる運動実践に活かす。
5 回目	ヘルスプロモーションとは	予習	身近な健康問題と社会の状況について自分のことを中心に考えてみる。
		復習	各自のヘルスプロモーションを考え、構築する。
6 回目	体力と健康	予習	体力について資料を確認しておく。
		復習	把握した各自の体力を基に体力維持向上プログラムを考え、各自のヘルスプロモーションに加える。
7 回目	トレーニングの基本理論	予習	トレーニングとは何か自分なりに考える。
		復習	学習したトレーニング理論に基づき各自のトレーニングを見直し、各自のヘルスプロモーションに活かす。

8回目	乳幼児期の体育指導の在り方3 体育指導計画の在り方を探る	予習	今までのヘルスプロモーション等の取り組みを振り返っておく。
		復習	授業を通し学んだことの総括をする。

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、レポート・課題への取り組みと成果（50%）

体育実技

担当 北原隆史
田代浩二

実技 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 運動・スポーツの文化的価値の多様性について理解する。
 - 1) 人と人との運動的な関わりを通してのコミュニケーションの意義を体験的に理解する。
 - 2) 運動・スポーツに対する肯定的な視座を獲得する。
- (2) 協働的に課題に取り組みながら人と表現工夫することの意義を理解する。
 - 1) 集団での表現活動、発表を通しての身体的表現活動の魅力を理解する。
 - 2) 協働的に取り組むことの教育的な意義を体験的に理解する。
 - 3) 協働的に取り組むことの達成感による帰属意識の高まりと自己肯定感への影響を体験的に理解する。
- (3) 運動・スポーツ文化を伝承する保育者としての基本的資質向上を図る。
 - 1) 運動・スポーツを通しての人間観、人間関係の変化の要因について体験的に理解する。
 - 2) 運動・スポーツを通して支援することの本質について触れる。

◇授業の概要

Comfort Zone（居心地のよい空間）の広がりそこからさらに一步踏み出せる勇気と視点の多様性をテーマにして授業を展開する。そのため、その人なりの運動への関わり方を認め、その人なりのレベルで活動することにより、相互に影響しあう経験を共有する。また、限られた運動環境を活かし、様々な視点から活動を考え工夫することから視点の多様性による可能性の広がりを体験的に学ぶ。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション 保育者にとってのスポーツ・運動の意義
第2回	コミュニケーションゲーム アイスブレイク
第3回	グループコミュニケーション 1
第4回	グループコミュニケーション 2
第5回	リズムに合わせた身体的表現活動 1 創作活動
第6回	リズムに合わせた身体的表現活動 2 発表会準備
第7回	リズムに合わせた身体的表現活動 3 発表会
第8回	長縄飛びによるグループワークトレーニング 1
第9回	長縄飛びによるグループワークトレーニング 2
第10回	様々な長縄飛びのバリエーション
第11回	ニュースポーツ ユニホック 1 基礎的ルールと技術の把握
第12回	ニュースポーツ ユニホック 2 戦術構築の在り方
第13回	ニュースポーツ ユニホック 3 実践練習
第14回	ニュースポーツ ユニホック 4 ユニホックス
第15回	まとめ 授業振り返り

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、課題達成に向けての過程、レポート（50%）

外国語コミュニケーション

担当 国重春江

演習 1年後期

イヴァシュク・イリーナ

◇授業の目的・ねらい

最近、幼児教育の現場でも外国語を使う幼児を相手にすることが多くなり、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力が様々な場面で必要とされると想定される。その能力向上を図る。

◇授業全体の内容の概要

- ①テキスト「保育の英会話」に沿って現場で使う単語や文を学ぶ。
- ②英語での対話練習をする。
- ③英語の子どもの歌を知る。
- ④外国の文化の理解を深める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

将来、保育者としての仕事で要求される英語に対応できるような英語基礎力が身についている。日本と外国の文化の違いを知る。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション クラス選択 Unit 1. 自己紹介、人を紹介する表現	予習	簡単に短い自己紹介文を2文考える。
		復習	授業で学んだ文から2文選び書き加える。
2回目	Unit 2. 挨拶の表現 他	予習	4文の自己紹介文の発表を準備する。
		復習	授業で大切に思った2文を覚える。
3回目	決定クラスで授業 各自クラス決定 Unit 3. 時間の問い方、答え方 大きな数の読み方	予習	60までの数を素早く言えるようにする。
		復習	A.M. P.M. を使った文を2文書く。
4回目	Unit 4. 場所や道順の問い方答え方	予習	文具店レストランの2つのスペルの確認。
		復習	道案内の課題をする。
5回目	Unit 5. 教室や園庭で子どもたちがすること、遊び方の表現	予習	「遊具や遊び」に関する単語を3つ覚える。
		復習	遊びに関しての課題文を覚える。
6回目	Unit 6. 感情や感覚の表現	予習	happy, hungryなどの感情表現を3つ覚える。
		復習	過去形、現在完了形を使い各1文ずつ書く。
7回目	Unit 7. 保育者の一日の仕事 スピーキングテストの練習	予習	Fold the paper in half. を1文覚える。
		復習	覚えた文を使いながら、風船を折る。
8回目	Unit 8. 「料理」「食品」「レシピ」に関する表現 「好き」「嫌い」の問い方答え方	予習	子どもの好きな食べ物3つ英語で考える。
		復習	嫌いな食べ物を勧める1文を書く。

9回目	Unit 9. トイレトレーニングに関する表現	予習	Does anyone need to go potty?を覚える。
		復習	単語「連絡帳」を英語で書けるようにする。
10回目	Unit 10. 子ども同志のトラブルの時の表現 体の部位を表す言葉	予習	Takashi hit my head. を覚える。
		復習	けんかに関する表現の課題をする。
11回目	Unit 11. 子どものけがや病気 医療機関や応急処置に関する表現	予習	I have a headache. を覚える。
		復習	学んだ文中、けがに関する2文を書く。
12回目	Unit 12. 電話連絡に役立つ表現	予習	Hello. This is ○○. を使えるようにする。
		復習	摂氏と華氏を使って2文書く。
13回目	Unit 13. 遠足 日本の伝統的祝祭等に関する表現	予習	12の月と曜日のスペルの確認をする。
		復習	12の月の行事をそれぞれ一つずつ書く。
14回目	テストの時間・教室・伝達 スピーキングテスト練習	予習	テスト準備。
		復習	テスト準備。
15回目	スピーキングテスト	予習	テスト準備。
		復習	15回のレッスンの振り返り。

◇使用テキスト・参考文献

『保育の英会話』赤松直子・久富陽子 著 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

スピーキングテスト (20%)

授業の取り組み (80%)

情報機器の操作

担当 丸林さちや

講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育者にとって必要とされる情報機器の操作とアプリケーションソフトの活用法について、実践を交えながら学ぶ。また情報の取り扱いについても考えていく。

◇授業の概要

現代社会における情報化の進展から、保育現場でも文書管理や個人情報のデータ管理が求められている。園便り等の作成やプレゼンテーションを行い、技術を高める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

メディアリテラシーに触れ情報の取り扱いの重要性を学び、情報機器の操作を習得することを目標とする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	授業のねらい・情報リテラシーとは何か	予習	情報機器の操作のねらいについて理解してくる。
		復習	情報リテラシーについての意義についてまとめる。
2回目	学校行事ポスター作成 ペイント	予習	学校行事のポスター作りにあたり、デザインを考えてくる。
		復習	ポスターに載せる必要がある情報は何か確認する。
3回目	メディアリテラシーの取り組み方	予習	メディアリテラシーについてどのようなイメージを持っているか、考えてくる。
		復習	メディアリテラシーの意義とは何か書き出す。
4回目	クリスマスカード ペイントとPowerPoint	予習	クリスマスカードのデザインを考えてくる。
		復習	作成の目的について振り返る。
5回目	幼稚園保育所におけるおたよりの意義	予習	おたよりにはどのような内容が載っているか、調べてくる。
		復習	内容を読み返しおたよりの意義を考える。
6回目	園だより作成 Word	予習	Wordの操作について各自ができることを思い出してくる。
		復習	レイアウトに伴う操作方法について確認する。
7回目	Excelとは何か	予習	Excelの操作について理解していることを思い出してくる。
		復習	操作方法を確認してくる。
8回目	カレンダー作成 Excel	予習	カレンダー作成に際し、使いたい画像を考えてくる。
		復習	Excelの操作の何が便利だったかまとめておく。
9回目	保育の事務作業を効率よくする工夫	予習	保育の現場で使われているICTは何かを調べてくる。
		復習	ICT利用の実際をまとめる。

10回目	身体測定記録票・写真購入票作成 Excel	予習	乳幼児の身体計測を表やグラフにすることで、どのようなことが読み取れると思うか考えてくる。
		復習	Excelを使った表やグラフの作成方法について振り返る。
11回目	保育現場における情報の取り扱い・著作権	予習	著作権とはどのようなものだと思うか考えてくる。
		復習	保育の現場で守りたい著作権のルールをまとめる。
12回目	動く紙芝居① PowerPoint	予習	保育教材としてPowerPointを使った提示物を作るのにあたり、どのようなものにするか考えてくる。
		復習	今回学んだPowerPointの操作方法を確認しておく。
13回目	動く紙芝居② PowerPoint	予習	作品に工夫を与えたいところを考える。
		復習	作成している内容をさらに良くするため、対象年齢や保育のねらいと照らし合わせる。
14回目	発表の練習とプロジェクト操作	予習	作品を紹介する方法に工夫を加えるよう準備をしてくる。
		復習	作品の最終確認を行う。
15回目	学習のまとめ 作成した動く紙芝居を発表	予習	より良い発表のために、プレゼンテーションのやり方をイメージしてくる。
		復習	他の作品から学んだことを振り返る。

◇使用テキスト・参考文献

プリント

◇単位認定の方法及び基準

課題 30%、発表 70%

健康科学

担当 島本悦次

講義 2年後期

北原隆史 富本靖

◇授業の到達目標及びテーマ

保育者としての健康の保持増進のあり方を理解すると共に乳幼児の健康、安全への具体的な実践力の向上を図る。安全救急処置の具体的な方法について理解し、実践力の向上を図る。

◇授業の概要

受講学生自身、即ち青年期の健康とこれから関わるであろう乳幼児の健康と対応について医療現場および教育関係者からの情報提供と実技指導を行う。また、乳幼児と関わる上で、救急処置および心肺蘇生の理論と実践、および教育現場におけるリスクマネジメントの基礎は欠かせない資質の一つであろう。本授業では、日本医学協会の救急・蘇生法教育部の協力を得て、講義と実習が実施される。

◇授業計画

	内 容		
1回目	オリエンテーション	予習	講義ガイダンスの事前確認。
		復習	健康問題について整理し本授業の意義の理解を深める。
2回目	健康科学の領域	予習	健康科学とは何か下調べをしておく。
		復習	保育者の安全配慮義務について理解を深める。
3回目	領域「健康」の理解と対応	予習	領域「健康」について要領・指針を確認しておく。
		復習	領域「健康」について学んだことを整理し理解を深める。
4回目	体の発達及び運動の発達と対応	予習	今までの実習での事例を振り返っておく。
		復習	体の発達・動作や運動の発達の支援について学んだことを整理する。
5回目	青年期・乳幼児期の健康問題と対応	予習	自分の健康維持のあり方を確認しておく。
		復習	健康問題と具体的な対応のあり方について整理する。
6回目	救急・蘇生法の基礎	予習	救急蘇生法について下調べをしておく。
		復習	救急の現状を理解し講習の意義の理解を深める。
7回目	救急・蘇生法講習（1）小児科救急	予習	小児科救急の現状を調べる。
		復習	乳幼児期の子どもの事故・病気の予防とその対応について保護者に伝えられるように整理する。
8回目	救急・蘇生法講習（2）外科救急	予習	怪我の種類と対応について事前に調べる。
		復習	災害時の保育者の対応について学んだことを整理し理解を深める。
9回目	救急・蘇生法講習（3）内科救急	予習	PCRの基本用語の理解と身近なAEDの設置場所を確認しておく。
		復習	PCRが必要となる心疾患についての理解を深める。
10回目	救急・蘇生法講習（4）保育者をめざす人の救急法	予習	リスクマネジメントについて事前に調べておく。
		復習	怪我の種類と具体的な対応について整理し理解を深める。

11回目	救急・蘇生法講習（５）救急法の実際 （心肺蘇生法、成人、AED）	予習	成人の PCR について資料を確認しておく。
		復習	成人の PCR の具体的なあり方について整理し、理解を深める。
12回目	救急・蘇生法講習（６）救急法の実際 （心肺蘇生法、乳児）	予習	乳児の PCR について資料を確認しておく。
		復習	乳児の PCR の具体的なあり方について整理し、理解を深める。
13回目	救急・蘇生法講習（７）救急法の実際 （気道閉塞の解除）	予習	気道閉塞の対応について資料を確認しておく。
		復習	成人、乳児それぞれの気道閉塞の対応について整理し理解を深める。
14回目	救急・蘇生法講習（８）救急法の実際 （三角巾、止血法、搬送）	予習	三角巾・止血法・搬送について資料を確認しておく。
		復習	三角巾・止血法について実践の復習に取り組みその技能を獲得する。
15回目	まとめ（理論・実技の振り返りと最終確認）	予習	救急・蘇生法講習全体を振り返っておく。
		復習	授業を通し学んだことの総括をする。

◇参考書・参考資料等

日本医学協会の救急・蘇生法講習会テキスト

◇学生に対する評価

筆記試験の成績（80％）授業への取り組み（20％）

レクリエーション理論

担当 熊澤桂子

講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①レクリエーション理論を学び、基礎的知識や指導者論を理解する。
- ②レクリエーションの指導方法、企画方法を体験的に学ぶ。
- ③日本レクリエーション協会公認指導者「レクリエーション・インストラクター」の資格取得を目指す。

◇授業全体の内容の概要

「心を元気にする」を目的にレクリエーションをするための基礎的な知識を学ぶ、またレクリエーションを体験し、その指導方法等、技術を身につける。後半ではグループ活動として、幼児を対象とした活動の企画を行い、準備・実技の発表をする等、理論に裏付けられた指導者としての実践力を身につける。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ・公認指導者として必要な知識の習得と、指導者としての役割心得が理解できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション：レクリエーションゲームの体験、自己紹介	予習	授業科目概要の「到達目標」と半期の「授業概要」に目を通す。
		復習	実施したレクゲームの内容を振り返り、指導方法をメモする。（授業内に指示した「ふりかえりポイント」について、今後の復習では各自がメモをする。）
2回目	レクリエーションとは何か、目的は何か。	予習	授業で指定した自己紹介の「項目内容」を考える。
		復習	自己紹介をとおして、他者からのメッセージをまとめる。
3回目	レクリエーション支援のあり方、レク・インストラクターの役割	予習	第1章レクリエーション概論p10～p14を一読する。
		復習	レクの支援方法、対象者の理解することの大切さを確認する。
4回目	レクゲームの基本①（アイスブレイキングの意義を理解する。）	予習	テキストp66-69「良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング」を一読する。
		復習	アイスブレイキングの意味と、指導者としての心得をまとめる。
5回目	レクゲームの基本②（ホスピタリズムの理解。対象者との信頼関係づくりの方法。）	予習	テキストp58-64「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ」を一読する。
		復習	「ホスピタリティ」の意義について、もう一度自分なりにまとめる。
6回目	レクゲームの基本③（対象者が主体的に参加するための展開方法。手遊びを中心に。）	予習	教育実習前に、自身がやってみたい「手遊び」を練習してくる。
		復習	実際に前でやったことを振り返り、やり方を再考する。仲間が紹介した手遊びをまとめる。
7回目	地域とレクリエーション（地域理解と、地域ニーズを取り入れたレク活動のあり方）	予習	テキストp33-p36「心の元気と地域のきずな」を一読する。
		復習	授業内に作成した「手作りおもちゃ」の手直しをする。
8回目	福祉レクリエーションの考え方と実際（障がいのある子どもへの対応等）	予習	授業内に配布した資料を一読する。
		復習	配慮の必要な子どもたちを含む、レクリエーション支援の留意点をまとめる。

9回目	乳幼児とその親を対象にした子育て支援の活動とレクリエーション	予習	パネルシアターについて、調べてくる。
		復習	パネルシアターの演じ方、内容の選択方法をまとめる。
10回目	レクリエーション活動の企画方法を知る。	予習	グループ対抗ゲームを行うため、安全に配慮した動きやすい服装と、体調管理に努める。
		復習	グループゲームを通しての気づきをまとめる。また編成されたメンバーとやってみたいゲームを模索する。
11回目	レクリエーション事業の企画準備①	予習	実施可能なレク財を調べて、内容を持参する。
		復習	プログラム企画に必要な情報を確認する。
12回目	レクリエーション事業の企画準備②	予習	具体的な企画に向けて、情報を準備する。
		復習	企画の全体をみて、足りない箇所を探る。
13回目	レクリエーション事業の企画準備③	予習	最終準備として、実施に向けた準備を行う。
		復習	次回の発表に向けて、内容の再考と自身の担当部分の確認し、練習をする。
14回目	レクリエーション事業の企画発表	予習	発表に向けて、自己練習と準備物の確認をする。
		復習	各グループと自分たちの企画内容を振り返る。
15回目	まとめ：レクリエーション・インストラクターの心得と役割の理解	予習	授業内で提示した課題をまとめてくる。
		復習	半期を振り返り課題レポートを省察する。

◇使用テキスト・参考文献

『楽しさをとoshした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法』
公益財団法人 日本レクリエーション協会

◇単位認定の方法及び基準

授業での課題の取り組み 20% グループでの企画発表 40% 試験 40%

レクリエーション実技

担当 北原隆史

実技 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

①コミュニケーションワークの実践力の向上を図る②レクリエーション支援者としての他者理解と自己理解へのチャレンジを図る。③ホスピタリティの概念の理解とそれに基づく支援の重要性を実践的に理解する。④レクリエーション活動におけるリスクマネジメントの重要性を理解する。⑤具体的なレクリエーション支援の方法論（企画力、運営力）の向上を図る。

◇授業の概要

レクリエーションに関する理論的な学習をもとにして、より実践的な活動、活用方法（ホスピタリティトレーニング、アイスブレーキングなど）を体験しながら、レクリエーションワークに関する具体的な方法について実践的に学習する。また、その学習を発展させながら豊かな自然環境の中での素晴らしい自然、仲間、そして自分と出会う体験（キャンプ実習）を通して保育者としての基本的な資質の高まりを期待する。レクリエーション理論・実技を履修し、現場実習の単位を取得し、所定の手続きをした者は、レクリエーション・インストラクターの資格が与えられる。

◇授業計画

	内 容
第1回	ホスピタリティの体験的理解
第2回	ホスピタリティの習得
第3回	アイスブレーキング・モデルの体験的理解
第4回	アイスブレーキングの効果を高める支援技術の習得
第5回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法1
第6回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法2
第7回	音楽に合わせた身体活動の実際と支援のあり方
第8回	ニュースポーツ種目の実際と支援のあり方
第9回	障害者のレクリエーション活動の実際と支援のあり方
第10回	乳幼児を対象としたレクリエーション活動の実際と支援のあり方
第11回	キャンプ実習の目的とそのアクティビティの展開方法
第12回	キャンプ実習 リスクマネジメントの方法
第13回	キャンプ実習 プログラム立案方法の習得
第14回	キャンプ実習 レクリエーション支援の実施と改善1
第15回	キャンプ実習 レクリエーション支援の実施と改善2

◇参考書・参考資料等

『楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法』
公益財団法人 日本レクリエーション協会

◇学生に対する評価

授業・課題への取り組みを総合的に評価する。

保育原理 I

担当 兼重祐子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育の意義を理解する。
- ②和田実の幼児教育を理解する。
- ③年齢毎の身体的発達、精神的発達をしっかりと押さえる。
- ④保育所の機能と役割や制度について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

「保育とは何か」という基本的概念を身に付けた上で、保育の意義、保育の歴史、保育方法、保育形態など保育の実践的展開にかかわる問題について取り上げていく。本校創設者である和田実先生の幼児教育について理解を深めていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育者として身に付けておくべき保育の基本、子ども観、保育観、保育の専門性について習得する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内	容
1回目	オリエンテーション ①保育所保育指針における意義と目的②子どもの最善の利益とは③保育の社会的役割と責任	予習 『保育所保育指針』の序章を読んでおくこと。
		復習 『保育所保育指針』の第1章総則の(1)(5)を読み、更に知識を深めること。
2回目	①グループディスカッション、「保育とは何か、指導するとは何か、誰の為の保育か」を考えてみる。②グループごとに発表を行い、保育の意義を理解する	予習 「保育」という言葉の意味を漢字から考え、書きまとめておくこと。
		復習 グループ発表の内容を自分の言葉でまとめておくこと。
3回目	西洋の保育の歴史 フレーベルを中心に	予習 『すてきな保育者をめざして』の海外における保育の歴史から学ぶことを読んでくること。
		復習 フレーベルの生涯を自分の言葉でまとめておく。
4回目	日本の保育の歴史 明治時代から昭和時代前半の保育内容を中心に	予習 『すてきな保育者をめざして』の日本の保育の歴史を読んでくること。
		復習 明治期、大正期、昭和期の保育の流れを振り返り加筆しておくこと。
5回目	和田実の幼児教育について（1） ①和田実の幼児教育の特徴をおさえる。	予習 『すてきな保育者をめざして』の和田実についてを読んでくること。
		復習 和田実の幼児教育の特徴をまとめておくこと。
6回目	和田実の幼児教育について（2）①感化誘導を用いた事例を通して考察する。②和田実の幼児教育のまとめ（DVD）	予習 「感化誘導」の意味を漢字から考え、書きまとめておくこと。
		復習 「感化誘導」を理解し、保育の場面から例文を作成してみる。
7回目	『保育所保育指針』における基本 ①保育所保育における基本原則とは ②保育所保育における基本原則・保育の目標と内容	予習 『保育所保育指針』の(2)～(4)を読んでおくこと。
		復習 事前に配布したプリント作業を行っておくこと。
8回目	年齢別発達課題(1)①3歳児位のDVDを観る②3歳以上児の養護・健康の内容を確認	予習 テキストの第4章、保育の内容の6を読んでおくこと。
		復習 3歳位の子どもが楽しめる運動遊びを考えておくこと。

9回目	年齢別発達課題(2)①4歳児位のDVDを観る②3歳以上児の人間関係・環境の内容を確認	予習	テキストの第4章、保育の内容の7を読んでおくこと。
		復習	4歳位の子どもが楽しめる運動遊びを考えておくこと。
10回目	年齢別発達課題(3)①5歳児位のDVDを観る②3歳以上児の言葉・表現の内容を確認	予習	テキストの第4章、保育の内容の8を読んでおくこと。
		復習	5歳位の子どもが楽しめる運動遊びを考えておくこと。
11回目	子育て支援・保幼少の連携とは(1) ①成立過程と保育の実際を学ぶ	予習	テキストの第7章、保育の場における子育て支援の3を読み予備知識をつけておくこと。
		復習	保育体験学習で見てきた子育て支援の内容を発表に向け、まとめておくこと。
12回目	子育て支援・保幼少の連携とは(2) ①保育体験学習から子育て支援や保幼少の連携の取り組みをグループで話し合い発表する ②PDCAサイクルについて	予習	PDCAサイクルとは何かを調べまとめておくこと。
		復習	テキストの第5章、保育の方法の1を読んで理解を深める。
13回目	様々な保育方法と保育形態 ①宗教保育、モンテッソーリー教育、森のようちえん等様々な保育方法を知る ②異年齢保育、クラス別保育、統合保育等、様々な保育形態について学ぶ	予習	テキストの第5章、保育の方法の3を読んでおくこと。
		復習	様々な保育方法・保育形態を理解できるよう整理しておく。
14回目	幼稚園、保育園、認定こども園の法令の違いを中心に学ぶ	予習	幼稚園・保育園・認定こども園の特徴について調べておく。
		復習	それぞれの園の特徴を押さえ、プリントにまとめておくこと。
15回目	前期のまとめ	予習	幼稚園・保育園・認定こども園の特徴にまとめたプリントを読み返し、加筆しておくこと。
		復習	試験に向け、過去の授業内容の振り返りを行う。

◇テキスト

『改訂版 保育原理の基礎と演習』柴崎正行 編 わかば社 2018年

『すてきな保育者をめざして』兼重祐子 監修 学校法人和田実学園

◇参考書・参考資料等

『幼児教育法』中村五六・和田 實 合著 学校法人和田実学園

◇学生に対する評価

授業中の積極的参加・授業態度（20%）、課題提出（20%）、試験（60%）により総合評価をする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

教育の原理と制度

担当 高橋かほる

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

○教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

全体目標：現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。

（１－１）教育に関する社会的事項

一般目標：社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。

到達目標：１）学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。
２）子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。
３）近年の教育政策の動向を理解している。
４）諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。

（１－２）教育に関する制度的事項

一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的な知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。

到達目標：１）公教育の原理及び理念を理解している
２）公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
３）教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
４）教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

（１－３）教育に関する経営的事項

一般目標：学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。

到達目標：１）公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。
２）学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。
３）学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。
４）教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。

（２）学校と地域との連携

一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。

到達目標：１）地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
２）地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

（３）学校安全への対応

一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

到達目標：１）学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
２）生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

○教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

全体目標：教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

（１）教育の基本的概念

一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。

到達目標：１）教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。

２）子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

（２）教育に関する歴史

一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

到達目標：１）家族と社会による教育の歴史を理解している。

２）近代教育制度の成立と展開を理解している。

３）現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

（３）教育に関する思想

一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

到達目標：１）家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。

２）学校や学習に関わる教育の思想を理解している。

３）代表的な教育家の思想を理解している。

◇授業の概要

「教育とは何だろう」という問いに対して、系統的、集中的に考え、教育への認識を広く深いものにし、認識を再確認する。

学生自身が「教育とは何か」についての考えを深めていくために、１）人間の生涯発達における教育の意義や目的について理解すること ２）日本や諸外国の「子ども観」「教育観」の変遷や教育の歴史について学ぶこと ３）日本や諸外国の教育制度について理解すること ４）現代の教育の現状と教育課題を深めることを目指す。

更に、子どもの教育に携わる者としての在り方について自分自身を振り返り見つめ直す等の時間を設けると共に、実践につなげる力を身に付けていけるよう考え合う。

◇授業計画

	内 容		
1回目	「人間とは何か」「教育とは何か」 教育の本質と教育に関する思想の理解	予習	シラバスに記載された授業の目標、意義、授業の概要等について熟読し、授業に臨むこと。
		復習	保育者を目指すために必要とされる基礎的な知識について、まとめる。
2回目	成長・成熟と「発達」 教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互関係の理解	予習	教育を成り立たせる諸要因について、自分の受けてきた教育を思い出し、振り返る。
		復習	授業を通して気付いたり学んだりしたことを、まとめ、整理しておく。
3回目	子ども観・教育観の変遷 教育に関する社会状況の変化と代表的な教育家の思想	予習	教育観は社会状況の変化と大いに影響があることを知る。代表的な教育家の考えを知って授業の望む。
		復習	代表的な教育の思想家とその考えを知り自分の考えをまとめておくこと。

4回目	教育への権利と「子どもの権利条約」近代教育制度の成立と展開及び教育改革の動向の理解	予習	権利と義務について知り、自分自身の考えや振り返りを持って、授業に臨む。
		復習	子どもの権利について知り、教育改革の動向を学ぶ。学んだことを整理する。
5回目	「学ぶ」ということの意味、自分の「学びの過程」 公教育の原理・理念と現代社会における教育課題の理解	予習	これまで学んだことを振り返り、学びを整理する。公教育と現代社会理解する。
		復習	自分の受けてきた教育とこれからの子ども達への教育の共通点や違いを知る。
6回目	「ともに学ぶ」意味 子どもの生活の変化と学校制度への影響と課題の理解	予習	「ともに学ぶ」ことの意味理解をする。
		復習	子どもの生活変化と学校制度への理解。
7回目	学校の誕生とその歩み（日本・諸外国） 教育制度を支える教育行政の理念の変遷と課題の理解	予習	日本と外国の学校誕生について調べる。
		復習	学校の変遷と課題を整理しておくこと。
8回目	学校のしくみ（制度・法令・等々） 現代公教育制度の法的・制度的仕組みと課題の理解	予習	現代公教育制度の仕組みと課題の理解。
		復習	学校のしくみを理解しておくこと。
9回目	教育課程・カリキュラム 多様な教育の理念や実際の教育及び学校安全への対応の理解	予習	多様な教育について調べ発表すること。
		復習	教育課程・カリキュラムを整理する。
10回目	就学前教育 地域との連携・協働による教育活動の意義及び方法の理解	予習	就学前教育は地域連携等が重要な認識。
		復習	協同・協働の意味を整理すること。
11回目	評価（指導要録等） 教育活動の流れと学校評価の基礎理論の理解	予習	評価とは何かを予め調べておくこと。
		復習	評価の基礎理論を理解し整理しておく。
12回目	教師の支援とは 学級経営の仕組みと効果的方法の理解	予習	教師の支援について、具体的に考える。
		復習	効果的方法の理解を様々な事例で知る。
13回目	個性重視の教育とは 近年の教育政策の動向及び危機管理や事故対応の必要性の理解	予習	個性重視の意味理解をし授業に臨む。
		復習	危機管理や事故対応を整理すること。
14回目	保育者の専門性とは 社会状況の変化を踏まえた指導上の課題の理解	予習	保育者の専門性についてまとめる。
		復習	保育者として指導上の課題をまとめる。
15回目	全体のまとめ 教職員、学校外関係者、関係機関との連携・協働の在り方・重要性の理解	予習	子ども・保育の諸問題を調べてくる。
		復習	授業を通して学んだことの総括をする。

◇テキスト

『「子どもの教育の原理」 保育の明日をひらくために』 古橋和夫 編著 萌文書林

◇参考書・参考資料等

『「学ぶ」ということの意味 子どもと教育』 佐伯 胖 著 岩波書店 1995 年

◇学生に対する評価

提出物（10％）・小テスト（20％）・本試験（70％）により総合的に評価する。

子ども家庭福祉

担当 熊澤桂子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①現代における子ども家庭の課題を知り、その課題に対応する制度・福祉サービスを知る。
- ②子ども家庭に関わる課題（児童虐待や子育て支援、課題のある子ども等）の原因や、それに対応する保育者の役割、他機関との連携を理解し、子どもの健全育成をすすめる子育て支援の動向や展望の理解をする。

◇授業全体の内容の概要

子ども家庭福祉とは何かを理解し、現代社会で子どもや子育て家庭のおかれている状況を学び、また、子どもを取り巻く環境から、その課題に対応した制度・福祉サービスを知ること、保育者としての役割や子ども・保護者へのあり方を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①子どもの権利と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解している。
- ②子ども家庭福祉と保育の関連性や、制度・福祉サービス等、その仕組みを理解している。
- ③子どもを取り巻く社会を理解し、児童家庭福祉の現状と課題について考えられる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	子ども家庭福祉の理念と概念～歴史的な変遷から見る～	予習	教科書p12-13『第1章 駒形貴志物語』を読む。
		復習	「子ども家庭福祉」の言葉の意味を理解する。
2回目	少子化と児童家庭福祉の役割	予習	「少子化」と聞き、思い出すことをいくつか考えてくる。
		復習	「少子化」の意味、保育者として必要な制度、保護者の気持ちをまとめる。
3回目	子ども家庭福祉が担う保育サービスとは	予習	第5章少子化と子育て家庭へのサービス、第5話「祝・長男誕生」を読む。
		復習	子育て支援の意味や、考え方を保育者の視点で理解を深める。
4回目	子ども権利条約と子どもの権利を擁護する考え方(子ども観のとらえ方)	予習	子どもの権利条約について、調べてくる。
		復習	子どもの最善の利益や、意見表明権について、教科書を確認し、理解を深める。
5回目	子ども家庭福祉の法律と行政の仕組み・財政	予習	第3章第3話「児童相談所の職員として」を読み、p 64の1児童福祉法を一読する。
		復習	児童福祉法が作られた理由と、現代社会の変化と共に改正された意味を確認する。
6回目	子ども家庭福祉の実施機関と施設	予習	第4章第4話「新任研修でさまざまな施設へ」を読む。児童相談所について、検索してみる。
		復習	児相の役割をまとめる。児童福祉施設の主な施設名、機能を確認する。
7回目	少子化と子育て支援サービス	予習	第5章1少子化と子育て支援を読む。
		復習	エンゼルプランが始まった日本社会の状況をまとめる。関心のある子育て支援サービスをいくつか挙げてみる。
8回目	母子保健サービスと子ども家庭の支援	予習	乳幼児期の写真や、母子手帳を探してみよう。
		復習	母子保健と、子育て支援サービスの関係を教科書を読みながら確認する。

9回目	児童健全育成活動と子どもの育ち (専門職の支援のあり方)	予習	「健全育成」という言葉を調べる。
		復習	児童館、放課後児童クラブと、子育て支援サービスの関係をレジュメを見ながら復習する。
10回目	多様な保育ニーズへの対応（妊娠期からの切れ目のない支援）	予習	現代の保護者がもつ「育児不安」は、どのようなものがあるか、調べる。
		復習	子育て不安のある親に対するサービスについて、何があるか、教科書を読み、確認する。
11回目	児童虐待とドメスティックバイオレンス	予習	「児童虐待」の新聞報道を探してみる。
		復習	児童虐待や、DVが子どもにどのような影響を与えるかを確認する。
12回目	社会的養護の現状と課題	予習	「里親」「児童養護施設」について、調べる。
		復習	「社会的養護」の意味を文章で書けるようにまとめる。
13回目	障がいのある子どもへの支援	予習	「障がいのある子ども」について、調べてみる。
		復習	障がいのある子どもの保育サービスを整理する。
14回目	非行への対応	予習	「少年非行」について、新聞記事や事件などを調べてみる。
		復習	「配慮を必要とする子ども」と社会的養護の関係についてまとめる。また、試験に向けてレジュメの整理をする。
15回目	まとめ：子ども・子育て支援と子ども家庭福祉の動向と展望	予習	半期の授業のまとめとして、配布されたレジュメ、資料を読み、試験に備える。
		復習	子ども家庭福祉の課題について、自分の意見をまとめてみる。

◇使用テキスト・参考文献

『図解で学ぶ保育「子ども家庭福祉」』直島正樹・河野清志 編著 萌文書林

『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック』 中央法規

◇単位認定の方法及び基準

授業への取り組み姿勢20%、課題の提出等30%、試験50%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来29年間勤務。厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5年）の実績を持つ。

社会福祉

担当 会田明世

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

社会福祉の基礎知識を習得するとともに、社会にとって必要なシステムであることを理解する。また、現代社会における社会福祉の動向や課題を学び、対人援助の専門職になる者としての自覚を促す。

◇授業の概要

社会福祉の意味や概念、歴史、児童家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉等についてそれぞれの分野の考え方や支援の方法などを学ぶ。社会福祉に携わる専門職である保育者に求められている視点、保育者の役割についても考えていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	社会福祉とは 保育者が福祉を学ぶ意義	予習	シラバス、テキストの目次を読む。
		復習	この科目で学ぶ内容を整理する。
2回目	社会福祉の基本理念 現代社会を取り巻く生活問題	予習	社会福祉と人との関係について自分なりに考えノートにまとめる。
		復習	社会福祉と生活との関係について学んだことをプリントにまとめる。
3回目	社会福祉の歴史の変遷 日本や欧米の福祉の変遷と社会的背景	予習	社会福祉の歴史に関するプリントの記入をする。
		復習	欧米・日本の社会福祉の歴史についてプリントにまとめる。
4回目	社会福祉の法律と制度 社会福祉行政と実施機関	予習	社会福祉関連の法律にどのようなものがあるか調べノートにまとめる。
		復習	法律・制度についてプリントにまとめる。
5回目	社会福祉にかかわる行政機関と社会福祉施設 社会福祉の専門職・実施者	予習	自分の住んでいる地域にある役所の場所、福祉施設の種類の調べノートに書く。
		復習	社会福祉専門職の種類と役割についてプリントにまとめる。
6回目	児童家庭福祉 子どもの人権と家庭支援	予習	児童家庭福祉のプリントの記入をする。
		復習	児童家庭福祉の成り立ちと現在の課題についてノートにまとめる。
7回目	障害者福祉 障がいのある人の生活を支えるしくみ	予習	障がい者福祉に関するプリントに記入をする。
		復習	障がいのある方の生活について、レポートにまとめる。

8回目	高齢者福祉 高齢者の保護・医療・介護保険制度	予習	高齢者福祉に関するプリントを記入する。
		復習	高齢者の生活と福祉制度について、理解する。
9回目	社会保障制度の概要 生活保護の基本的な考え方	予習	生活保護制度に関するプリントを記入する。
		復習	生活保護制度の利用について、背景を理解する。
10回目	地域福祉 在宅福祉の推進	予習	地域住民が行っている福祉活動について考え、ノートに書き出す。
		復習	地域福祉の役割について理解する。
11回目	社会福祉における相談援助の理論	予習	自身の相談経験から、相談の意味について考える。
		復習	相談の意義を理解する。
12回目	社会福祉における相談援助の方法と技術	予習	相談援助に関するプリントを記入する。
		復習	ソーシャルワークの意義と方法を理解する。
13回目	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 権利擁護と後見制度	予習	社会福祉における権利とは何か考え、ノートにまとめる。
		復習	権利擁護の意義と方法を理解する。
14回目	少子高齢化社会における子育て支援関係機関との連携	予習	地域にある関係機関について調べ、ノートにまとめる。
		復習	これまでの学びについて確認し、テストに備える。
15回目	社会福祉の動向と展望（まとめ）	予習	テストに向けての学習をする。
		復習	保育者が社会福祉を学ぶ意義を考え、まとめる。

◇使用テキスト・参考文献

『社会福祉と私たちの生活－保育を学ぶ人のために』 小林育子・一瀬早百合 共著 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

授業中の参加態度 10%、レポート 20%、試験 70%により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に 15 年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

子ども家庭支援論

担当 丸林さちや
真木千壽子

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活かした支援の基本を学ぶ。具体的な支援体制を解説し、ニーズに沿った多様な支援を学習する。

◇授業全体の内容の概要

保育者の専門性を活かした子育て家庭への支援とは何かを考え、子どもを中心に位置付けながら保護者と共有することや、地域の中で社会資源を活用する方法を探る。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子ども家庭支援の意義と必要性を理解し、保育者として目の前にいる保護者と何をしていくことが支援につながるのか、考えられることを達成課題とする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	子ども家庭支援の意義と必要性	予習	子ども家庭支援のターゲットの4つの内容を自分の言葉で説明できるようにしてくる。
		復習	公的に子ども家庭支援が必要となった背景についてまとめる。
2回目	子ども家庭支援の目的と機能	予習	子ども家庭支援の目的からポイントを書き出してくる。
		復習	保育所保育指針で示される家庭支援の内容をまとめる。
3回目	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	予習	子どもの事例を読み、気付いたことを書き出してくる。
		復習	保護者への伝え方を工夫するため、性格の短所を長所に変えて書き換える。
4回目	子どもの育ちの喜びの共有	予習	保護者とともに共通した子ども理解をするための3つの観点を読んできく。
		復習	相談を受けること及び保護者の自己決定について、その意義をまとめる。
5回目	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	予習	保育所での事例を読み、気付いたことをまとめる。
		復習	相談内容、背景、保育者の対応を理解する。
6回目	保育者の求められる基本的態度と家庭の状況に応じた支援	予習	保護者との会話を聞き、ポイントを挙げてくる。
		復習	エンパワーメントとは何かをまとめる。
7回目	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	予習	地域の資源について調べてくる。
		復習	保育所が行う地域の資源の活用と自治体・関係機関などの連携・協力について理解する。
8回目	関係機関との連携と子ども家庭支援の内容と対象	予習	児童福祉法の子ども家庭支援の内容・対象・関係機関などを調べてくる。
		復習	関連機関との連携や、子ども家庭支援の内容とその対象者への支援の方法について理解する。
9回目	要保護児童等及びその家庭に対する支援	予習	要保護児童について調べてくる。
		復習	要保護児童とその家庭に対する支援の仕組みについて理解する。

10回目	子ども家庭支援に関する現状と課題	予習	子育て家庭の現状について書き出してくる。
		復習	支援者が把握しておきたい課題をまとめる。
11回目	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	予習	新生児訪問指導の事例を読み、内容を理解してくる。
		復習	社会資源として地域内のつながりについてまとめる。
12回目	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	予習	次世代育成支援の行動計画の策定について調べる。
		復習	子ども・子育て支援新制度についてまとめる。
13回目	支援の実例① 諸外国	予習	ノーバディズパーフェクトの資料から、ポイントを挙げてくる。
		復習	支援内容とその理念についてまとめる。
14回目	支援の実例② 日本	予習	日本での支援の取り組みを調べてくる。
		復習	支援の内容から、何が大切なことかまとめる。
15回目	まとめ 支援の意義と必要性及び保育者の関わり方について自身の意見を表現する	予習	これまでの学習から、自分自身が興味を持てたことを書いてくる。
		復習	全体を総括し、保育者としての子ども家庭支援として保護者と関わる基礎をまとめる。

◇使用資料・参考文献

プリント

『MINERVA はじめて学ぶ子供の福祉4 子ども家庭支援』 倉田哲也・大竹智 編著 ミネルヴァ書房

◇単位認定の方法及び基準

試験 70%、課題 30%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来29年間勤務。厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5年）の実績を持つ。

社会的養護Ⅰ

担当 北川裕子

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

家庭や地域の養育力の低下や虐待問題などをおさえ、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。

社会的養護の基本や制度・実施体系について理解する。

◇授業全体の内容の概要

社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。

子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	社会的養護とは（理念と概念）	予習	シラバスの授業の目的や到達目標、授業概要等を読む。「養護」という言葉でイメージするものを考えておく。
		復習	テキストやプリントで社会的養護とは何か、何のために必要かなど、おさえ直す。
2回目	社会的養護の意義と歴史の変遷① （子どもをとりまく状況）	予習	テキストの「田之上ふみ物語」を読み、社会的養護のイメージを膨らます。印象に残った場面の感想を書く。
		復習	配布プリントやテキスト序章3の子どもをとりまく状況を読み返し、おさえ直す。
3回目	社会的養護の意義と歴史の変遷② （児童虐待）	予習	児童虐待について検索し下調べをする。
		復習	被虐待児に見られる行動とその意味を調べ、育ちの背景から理解する。
4回目	社会的養護の意義と歴史の変遷③ （社会的養護の歴史、児童観の変遷）	予習	テキスト4章（社会的養護の歴史）に目を通し疑問点をまとめておく。
		復習	社会的養護の先駆者について検索し、その思い、役割を深める。
5回目	子どもの権利擁護と社会的養護	予習	テキスト序章4を読み、子どもの権利に目を向ける。
		復習	子どもの権利を守ることを意味を、子どもの権利条約を読み理解を深める。
6回目	社会的養護の基本原則	予習	子どもと接するとき、どのようなことを大切にに関わりたいか考えておく。
		復習	配布プリントを読み返し、養護の基本原則をおさえ直す。
7回目	社会的養護における保育士等の倫理と責務	予習	テキスト8章3倫理の確立に目を通しておく。全国児童養護施設協議会倫理綱領や全国保育士会倫理綱領を調べる。
		復習	配布プリントの倫理に関する事例を読み、自分はどのように考え行動するのか、考える。
8回目	社会的養護の制度と法体系	予習	テキスト1章3、4に目を通し、社会的養護に関わる機関や法律にはどのようなものがあるのか、おさえしておく。
		復習	ハーグ条約に関わる事例にはどのようなものがあるか検索し、条約の趣旨を理解する。
9回目	社会的養護の仕組みと実施体系	予習	テキスト2章3章に目を通し、児童福祉施設の種類をおさえしておく。
		復習	児童福祉施設の内容をおさえ直す。

10回目	社会的養護の対象	予習	子どもをとりまく状況や児童虐待の状況を復習し直し、社会的養護の対象となる子どもについて、考えておく。
		復習	配布する事例絵を読み、社会的養護の対象となる子どもの状況についておさえ直す。
11回目	家庭養護と施設養護	予習	テキスト7章を読み、里親制度について疑問点をまとめておく。
		復習	家庭的養護と家庭養護の違いについて、プリントを読み返し、明確にできるようまとめ直す。
12回目	社会的養護の専門職とその支援内容	予習	テキスト5章1を読み、携わる職員について調べておく。
		復習	携わる各職種の支援内容をまとめ直す。また連携のあり方について考える。
13回目	社会的養護の現状	予習	テキスト5章2、6章を読み、疑問点をまとめておく。
		復習	子どもの家庭への支援について深め、「家族再統合」に向けた支援の事例に取り組む。
14回目	施設等の運営管理	予習	措置制度と利用契約制度の違いについて調べておく。
		復習	第8章やプリントを読み返し、被措置児童等虐待防止や第三者評価、苦情解決の仕組みを理解する。
15回目	今後の課題、まとめ	予習	これまで学んできたことを踏まえ、社会的養護の課題について考えておく。
		復習	社会的養護の役割を考察し直し、保育現場で求められることは何か深める。

◇テキスト

『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田旬哉 他編 萌文書林

◇参考書・参考資料等

「ひと目でわかる分かる児童家庭福祉データブック」全国保育士養成協議会監修
(必要に応じて、授業内でも紹介する。)

◇学生に対する評価

授業貢献度（10%）、提出物（40%）、試験（50%）等による総合評価。

教職・保育者論

担当 近喰晴子

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

○教職への意義及び教員への役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）

全体目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

（１）教職の意義

一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。

到達目標：１）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。

２）進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

（２）教員の役割

一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。

到達目標：１）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。

２）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

（３）教員の職務内容

一般目標：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。

到達目標：１）幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。

２）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。

３）教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

（４）チーム学校運営への対応

一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

到達目標：１）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

◇授業の概要

- ・視聴覚教材を通し、保育者の役割や職務内容を学ぶ。
- ・保育者に必要とされる資質や能力についてグループ討論をする。
- ・乳幼児の育ちを支援する保育者の役割について学ぶ。
- ・保育の振り返りや自己評価の在り方を学ぶ。
- ・保育者のキャリアパスや資質向上のための取り組みについて学ぶ。
- ・多様な専門性を持つ人材・機関と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性について学ぶ。

◇授業計画

	内 容		
1回目	オリエンテーション、保育者を目ざして	予習	シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習	保育者をめざすために必要とされる知識や技能についてまとめる。
2回目	保育者のイメージ、幼児期に出合った保育者の印象	予習	自分自身が現在持っている保育者像を200字程度にまとめ、授業時に発表できるようにしておくこと。
		復習	授業を通し気付いたり学んだ保育者像について、授業時に配布したレジュメに沿ってまとめること。
3回目	児童文化財に描かれた保育者像	予習	保育者について描かれた絵本等を調べ紹介できるようにしておくこと。
		復習	『どうしてそらはあおいの』から保育者の関わり、子どもの気持ちについてまとめる。
4回目	幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育者	予習	学校教育法27条、児童福祉法18条、就学前の子どもに会する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律第14条について調べてくる。
		復習	幼稚園教諭、保育士、保育教諭について学んだことを整理すること。
5回目	保育者の役割や職務内容	予習	これまでの学びからイメージできる保育者の役割や職務についてまとめて授業に臨むこと。
		復習	保育の日課に沿った保育者の仕事を整理する。
6回目	保育者の専門性とは	予習	さまざまな職業の専門性についてまとめてくる。
		復習	保育者の専門性について、授業で学んだことを整理する。
7回目	乳幼児の育ちを支える保育者の役割	予習	乳幼児の発達について調べてくる。
		復習	それぞれの年齢における保育者の特徴的な役割についてまとめる。
8回目	乳幼児の生活や遊びを育てる保育者の役割、要保護児童対策地域協議会等との連携	予習	幼児期に体験した遊びを思い出し、遊びを通し経験したこと、学んだこと等まとめてくる。
		復習	「遊びによる保育」について、三法令の何れかを参考に整理する。
9回目	乳幼児の人権を守る保育者の役割	予習	全国保育士倫理綱領について、調べてくる。
		復習	専門的倫理の必要性、乳幼児に必要な権利についてまとめる。
10回目	保護者支援と保育者の役割	予習	幼稚園や保育所等で行われている保護者支援の実際について調べてくる。
		復習	保育所保育指針第4章に記されていることをまとめる。
11回目	先達者の保育者論	予習	フレーベル、ルソー、倉橋惣三、和田実等の業績について調べてくる。
		復習	『育ての心』の抜粋したものから関心を持った内容についてまとめる。
12回目	保育の振り返りと自己評価	予習	三法令に記された自己評価の考え方についてまとめてくる。
		復習	事例を通し、具体的な評価方法をやってみる。
13回目	キャリアパスと資質向上のための取り組み	予習	保育所保育指針第5章を熟読し、資質向上の必要性について調べてくる。
		復習	キャリアパス研修の内容、方法についてまとめる。
14回目	保育者の生きる姿勢	予習	自分自身が描く子ども観についてまとめてくる。
		復習	保育者として、どのような保育をしたいかまとめる。
15回目	保育の諸問題と保育者のかかわり、児童発達支援センター・小学校等との連携、まとめ 定期試験	予習	新聞、ニュース等で報じられている保育の問題について調べてくる。
		復習	授業を通し学んだことの総括をする。

◇テキスト

『新基本保育シリーズ7 保育者論』公益財団法人児童育成協会＝監修／矢藤誠慈郎・天野珠路＝編集
中央法規出版 2019 年

全社協ブックレット⑧『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育保育要領 幼稚園教育要領』
全国保育士会 著 全国社会福祉協議会

◇参考書・参考資料等

『育ての心』（上・下）倉橋惣三著 フレーベル館 2008 年

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
2017 年

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

定期試験（60％） 授業内レポート（30％） 授業への参加・態度（10％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

幼児教育・保育心理学Ⅰ

担当 吉田梨乃

講義 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

（１）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程

一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。

到達目標：１）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。

２）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（２）幼児、児童及び生徒の学習の過程

一般目標：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

到達目標：１）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。

２）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。

３）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

◇授業の概要

この授業では、子どもの心身の発達および学習の過程について、代表的な理論を学ぶ。また、子どもの心身発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	発達とは何か	予習	本科目のシラバスに示されている授業の目標、概要、授業計画を読み、この科目でどのようなことを学ぶのかをイメージする。
		復習	本科目の授業内容のイメージをつかみ、授業中に指定された教科書の該当ページを読む。
2回目	乳児期の発達	予習	乳児期の子どもについて、知っていることをまとめる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
3回目	幼児期の発達	予習	乳児期の発達的特点を説明できるようにまとめをつくる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
4回目	児童期の発達	予習	幼児期の発達的特点を説明できるようにまとめをつくる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
5回目	青年期の発達	予習	児童期の発達的特点を説明できるようにまとめをつくる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。

6回目	運動発達	予習	赤ちゃんがはいはい、立つ、歩くことができるようになるためには、どのような身体の動きが必要かを考えてくる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
7回目	言語発達	予習	言葉の発達について、どのような過程を経て話することができるようになるか考えてくる。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
8回目	認知発達	予習	子どもらしい考え方とおとなの考え方の違いについて考え、自身の考えを発表できるようにまとめてくる
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
9回目	社会性の発達	予習	コミュニケーションをとるために、必要なことは何かを考える。
		復習	授業中に指定する教科書の該当ページを読み、自分でノートにまとめる。
10回目	動機づけ	予習	自分自身がやる気が出るときはどのような時か、いくつか場面を考えておく。また、幼児期や児童期など発達段階の違いで変化するかを考えておく。
		復習	動機付け理論について、教科書該当ページをもとにまとめる。
11回目	集団づくりー理論	予習	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校などの4月の活動を思い出し、その違いについて考える。
		復習	個々の発達と、同じ年齢、発達段階の集団の発達の支援について復習し、実習や実際に子どもとの関わりをイメージする。
12回目	集団づくりー技法	予習	前回の授業を踏まえ、特に集団の中で子どもの発達を促すために保育者はどのようなことに気をつければよいかを考える。
		復習	個々の発達の支援と、集団を育てる視点の両方を理解し、実習で観察する視点を深める。
13回目	学習評価	予習	これまでの学校生活で、どのような時に、どのような評価を受けたかを思い出し、まとめる。
		復習	保育者として行う、子どもへの評価の意義と方法を理解する。
14回目	生涯発達	予習	乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期、それぞれの発達の特徴を復習し、それぞれの発達段階のつながりをイメージする。
		復習	これまでの授業内容を踏まえ、人間の生涯発達についてまとめておく。
15回目	子どもの主体的な学びを考える 定期試験	予習	試験に備え、これまでの授業内容の復習を行う。
		復習	本科目で学んだことを今後の実習や学習に活かせるようにイメージを持つ。

◇テキスト

『公認心理師のための臨床心理学ー基礎から実践までの臨床心理学概論』

大野博文・奇恵英・斎藤富由起・守谷賢二 編 福村出版 2019 年

◇参考書・参考資料等

授業の中で適宜資料を配布する。

◇学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業で提出するコメントシート（20％）

子ども家庭支援の心理学

担当 丸林さちや
吉田梨乃

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

初期経験の重要性より始まる生涯発達心理学の基礎を学ぶ。家族・家庭の意義や機能を理解し、現代社会の中での課題に取り組む。子どもの精神保健を理解する。

◇授業全体の内容の概要

子どもと家族を結ぶ生涯発達の視座を取り入れ、子どもだった者が家族を形成していく連続性を、現代社会の課題と共に考えていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

生涯発達の視点から個人と家族の発達を理解する。子どもの精神保健に関わる課題と子育て家庭の現状と課題を捉える。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	生涯発達① 乳幼児期から学童期前期にかけての発達	予習	乳児期、幼児期の2つの時期の発達の特徴を整理しておく。
		復習	乳児期、幼児期の2つの時期に必要な支援をまとめる。
2回目	生涯発達② 学童期後期から青年期にかけての発達	予習	学童期（児童期）青年期の2つの時期の発達の特徴を整理しておく。
		復習	学童期（児童期）青年期の2つの時期に必要な支援をまとめる。
3回目	生涯発達③ 成人期・老年期における発達	予習	乳幼児期の発達が、青年期・成人期・老年期の発達にどのような影響を与えるか、その関連性を調べる。
		復習	「社会情動的スキル」について教科書で復習し、まとめておく。
4回目	家族・家庭の意義と機能	予習	家族とは何か、各自のイメージを書き出してくる。
		復習	家族の機能の時代による変化についてまとめる。
5回目	親子関係・家族関係の理解	予習	ロールプレイのためのセリフを読んでくる。
		復習	家族のジェノグラムを通して読み取れることをまとめる。
6回目	子育ての経験と親としての育ち	予習	子どもを持つ保護者の身になって、子育てをしている時にどのようなことに困難を感じそうか考えてくる。
		復習	子育てと就業の両立について、まとめる。
7回目	子育てを取り巻く社会的状況	予習	社旗状況の変化から結婚・子育てに関してどのような影響が出ているのか、グラフを読んでくる。
		復習	子育てを支える社会の機能についてまとめてくる。
8回目	ライフコースと仕事・子育て	予習	性役割分業について調べてくる。
		復習	ライフコースの視点を活かした支援を考える。
9回目	多様な家庭とその理解	予習	様々な家族の形態について理解する。
		復習	多様性に関われるとはどういうことか考える。

10回目	特別な配慮を要する家庭	予習	特別な支援が必要な家庭とはどのような家庭か、その具体例を調べる。
		復習	特別な支援が必要な家庭への具体的な支援方法や制度についてまとめる。
11回目	子どもの生活・生育環境とその影響	予習	乳幼児期に身に付ける基本的な生活習慣とその意義について調べる。
		復習	子どもの生活習慣と家庭環境の関連についてまとめる。
12回目	子どもの心の健康にかかわる問題	予習	子どもに見られる習癖（くせ）で、気になるものにはどのようなものがあるか自身の経験や資料から調べてまとめる。
		復習	気になる子どもの言動の特徴と、それらの特徴、強さ・頻度から考えられる心理的問題について関連付けて整理する。
13回目	子どもと家族の相互性①	予習	保護者への関わり方についてこれまで学んできていることを書き出してくる。
		復習	相談技術について振り返りを行う。
14回目	子どもと家族の相互性②	予習	保護者への関わり方について各自が不安に思うことを書き出してくる。
		復習	各自で行えると思える相談技術をまとめる。
15回目	まとめ 子ども家庭支援の現代社会における課題を総括する。	予習	これまでの内容から質問を書き出す。
		復習	学んできたことを総括し、個々の保護者の心理と社会的背景についての理解をまとめる。

◇使用テキスト・参考文献

『新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学』白川佳子・福丸由佳 編 中央法規 2019 年

◇単位認定の方法及び基準

テスト 80% 課題 30%

子どもの理解と援助

担当 吉田梨乃

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育実践における子どもの体験や学びの過程を理解し、実践のなかで子どもを理解するための方法について具体的に理解する。また、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本を理解する。

◇授業全体の内容の概要

保育実践において、実態に応じた子どもを理解する意義を理解し、具体的に理解するための方法を学ぶ。また、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- 1) 実態に応じた子どもの心身の発達や学びを把握する意義を理解する。
- 2) 子どもを理解するための知識を身につける。
- 3) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	保育における子どもの理解の意義	予習	シラバス、教科書の目次を読み、本科目で学ぶことをイメージして授業に参加する。
		復習	本科目で学ぶことを理解し、「子どもを理解する」ということへの自身の関心を高める。
2回目	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	予習	保護者と保育者の違いについて考えてくる。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
3回目	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	予習	これまでに見たり聞いたりして経験した子どもの行動で、気になる行動にはどのようなものがあるか複数挙げ、まとめておく。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
4回目	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊びと集団における経験	予習	自分自身が幼少期、児童期によく行っていた遊びを思い出す。また、なぜそれをよくしていたのか理由もあわせて考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
5回目	子どもを理解する視点② 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達、環境構成	予習	身近にある幼稚園を複数調べ、園舎の違いを考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
6回目	子どもを理解する視点③ 子ども相互のかかわり、葛藤やつまずき	予習	子ども同士がトラブルを起こすときにはどのような場面の状況があるか考える。また、保育者としてどのような介入ができるかを考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
7回目	子どもを理解する視点④ 環境の変化や移行	予習	幼稚園・保育所と小学校の違いを考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
8回目	子どもを理解する方法① 観察	予習	実習で子どもを観察した時、どのような視点で観察していたかふりかえる。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。

9回目	子どもを理解する方法② 記録	予習	これまでに見たり聞いたりして経験した子どもとのかかわりで、印象に残っている子どもとのエピソードを見つける。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
10回目	子どもを理解する方法③ 省察・評価	予習	保育を行う上で、より良い保育を行うために保育者に必要な資質を考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
11回目	子どもを理解する方法④ 職員間対話・保護者との情報共有	予習	共に働く同僚として、保育者集団の関わりを円滑にするために必要なことを考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
12回目	発達の課題に応じた援助と関わり	予習	発達課題別に支援の方法を変える意義を考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
13回目	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	予習	発達障害や貧困など、個々に課題や困難を感じている子ども、保護者に寄り添うために必要なことは何かを考える。
		復習	授業内で指定した重要語句について、教科書や配布プリントを参考にノートにまとめる。
14回目	発達の連続性と就学への支援	予習	これまでの授業でわからないところや疑問点を整理する。
		復習	これまでの授業で行った内容を全て振り返り、授業内容のつながりを理解する。
15回目	子どもの理解に基づく援助と関わり(試験)	予習	期末試験に向けて、これまでの授業内容を見返し、わからないところがあれば調べておく。
		復習	試験をふりかえり、本科目で学んだことを今後の実習や子どもとの関わりに活かせるようイメージを深める。

◇使用テキスト・参考文献

『教育相談の最前線－歴史・理論・実践－』 斎藤富由起・守谷賢二 編 八千代出版 2016年

◇単位認定の方法及び基準

授業内の課題（50％）、試験（50％）

子どもの保健

担当 小林光子

講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

子どもの心身の健康増進を図るための保健活動について知識を身に着ける。
子どもの健康状態の把握や病気について理解する。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の子どもたちのところとからだの健康を保持・増進するために必要な知識を学び身に着ける。乳幼児期の特徴を理解したうえで、乳幼児期に多い疾患（病気）や症状について学ぶ。また、適切な対応方法についても理解を深める。講義の理解を深めるために資料を配布し、画像教材を活用する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 子どもの発育・発達と保健の意義を理解する。
2. 子どもの健康管理の意義と基本的な方法を理解する。
3. 子どもの健康増進と子育て支援の意義を理解する。
4. 地域保健活動と子育て支援の意義を理解する。
5. 子どもに多い病気の症状や標準的な治療・看護について理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	子どもの健康と保健の意義	予習	『保育所保育指針（平成29年厚労省）』の「第1章総則」「第3章健康及び安全」の頁を読んでおく。
		復習	『子どもの保健』を学ぶ意義について自身の考えをまとめる。
2回目	地域における保健活動	予習	『健やか親子21（第2次）』（厚労省）について調べておく。
		復習	『母子保健』の立場から保育士に求められる役割りを理解する。
3回目	子どもの心身の発育・発達と保健（1）	予習	『母子健康手帳』を用意し記載内容を確認しておく。
		復習	乳幼児期の身体的生理的特徴についてまとめる。
4回目	子どもの心身の発育・発達と保健（2）	予習	田中ビネー・デンバー式発達検査について調べておく。
		復習	乳幼児期の発育・発達の評価について復習する。
5回目	子どもの健康状態とその把握	予習	自身が乳幼児期に罹った病気と症状について確認しておく。
		復習	健康状態の観察ポイントを理解する（ワークシート）。
6回目	子どもに見られる主な症状とその対応（1）	予習	症状について事前学習をしておく（発熱・咳）①。
		復習	早期発見と対応について復習する①。
7回目	子どもに見られる主な症状とその対応（2）	予習	症状について事前学習をしておく（便秘・下痢・嘔吐・発疹）②。
		復習	早期発見と対応について復習する②。
8回目	子どもの疾病の予防と適切な対応	予習	『母子健康手帳』から自身の予防接種状況を確認しておく。
		復習	集団保育の立場から疾病についての理解を深める。

9回目	新生児と先天性の病気	予習	『風疹』罹患による胎児への影響について調べておく。
		復習	『医療的ケア』が必要な児について復習する。
10回目	感染症	予習	「保育所における感染症対策ガイドライン」(2018厚労省)を読んでおく。
		復習	感染症発生要因と感染症対策について復習する(ワークシート)。
11回目	アレルギー疾患	予習	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』(2019厚労省)を読んでおく。
		復習	アレルギー疾患について復習する(ワークシート)。
12回目	さまざまな小児期の疾患(1)呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患	予習	疾患について事前学習をしておく(1)。
		復習	疾患についての理解を深める。
13回目	さまざまな小児期の疾患(2)腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝性疾患、免疫疾患	予習	疾患について事前学習をしておく(2)。
		復習	疾患についての理解を深める。
14回目	さまざまな小児期の疾患(3)血液疾患、悪性新生物、神経・筋疾患	予習	疾患について事前学習をしておく(3)。
		復習	疾患の理解を深める。
15回目	定期試験	予習	試験に向けて授業内容を復習する。
		復習	次年度に向けてノート・プリント類を整理しておく。

◇テキスト

『これだけはおさえない！保育者のための「子どもの保健」』鈴木美枝子 編著 創成社
授業の中で参考資料・参考文献等紹介する。

◇参考文献

『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省 2018年3月
『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 2019年4月
『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加・課題提出(60%)、試験(40%)

子どもの食と栄養

担当 池村多恵子

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

学生自身が正しい食生活を送り、健康で生き生きと保育に役立つ実践力を身につけること。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の食は、体の発育・発達ばかりでなく、心の発達にも大きな役割を果たす。小児の発育・発達と栄養の関係を学び、講義と実習から保育の現場で役立つ実践力を身につける。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

対象となる子どもの状況に適した食生活を提案できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容	
1回目	(講義) 何をどれだけ食べたらいいの？	予習 副読本（何をどれだけ食べたらいいの？）を読んでおく。
		復習 栄養的バランスのとれた食材の取り方を理解する。
2回目	(講義) 献立作成	予習 授業前日1日分（朝・昼・夕・間食）の食べた食材を書き留めておく。
		復習 自分自身にとっての栄養的バランスのとれた食生活を考える。
3回目	(講義) 環境に優しい食生活とは	予習 環境にやさしい食生活をおくる為に、あなたが日常やっていることをまとめておく。（例 エコバックを使うなど）
		復習 環境を考えた暮らし方を考える。
4回目	(実習) 省エネクッキング	予習 お弁当を省エネルギーでつくる調理方法を考える。
		復習 省エネクッキングを経験し、環境に配慮した暮らしを見直す。
5回目	(講義) 乳児期の食生活とは	予習 乳汁栄養（母乳栄養・人工栄養）について調べる。
		復習 乳児期の食機能の発達と成長をまとめる。
6回目	(実習) 離乳食づくり	予習 教科書のカラー版 P1～7「離乳食の食事」を見てくる。
		復習 離乳食の必要性和役割についてまとめる。
7回目	(講義) 幼児期の食生活とは	予習 幼児期の食機能の発達と成長を調べる。
		復習 幼児期の食事の役割についてまとめる。
8回目	(実習) 幼児食とおやつづくり	予習 教科書のカラー版 P8～13「幼児期の食事」P16「幼児の間食」を見てくる。
		復習 間食の必要性和意義についてまとめる。
9回目	(講義) 食物アレルギーとは	予習 食物アレルギーに関して、教科書 p142～146を読んでおく。
		復習 食物アレルギーの概要を知り、保育現場での対応ができるように理解する。
10回目	(実習) アレルギー食づくり	予習 食物アレルギーに対応する代替食品を調べる。
		復習 代替食品を使ったアレルギー食づくりを理解する。

11回目	(講義) 栄養に関する基礎知識1	予習	食欲、消化、吸収、排泄の仕組みを調べる。
		復習	五大栄養素の種類を調べ、体内での働きをまとめる。
12回目	(講義) 栄養に関する基礎知識2	予習	日本人の食事摂取基準の概要を調べる。
		復習	食事構成に関する知識や食品表示を理解する。
13回目	(講義) 小児の栄養と食生活の意義	予習	小児期の栄養の特徴を調べる。
		復習	日本における小児の食生活の実態と問題点をまとめる。
14回目	(講義) 食育について	予習	現代の子どもの食に関する問題点をあげる。
		復習	子どもの食に関する問題点から食育の必要性を考える。
15回目	(試験) 子どもにとっての食の大切さを理解し、現状における問題点を指摘し、望ましい方向に導けるかをみる。	予習	授業を通して学んだことをまとめる。
		復習	食の大切さを理解し、子ども達にどんな関わりができるかを考える。

◇テキスト

『子どもの食生活』上田玲子 編著 ななみ書房

『なにをどれだけ食べたらいいの』監修 香川明夫 女子栄養大学出版

◇学生に対する評価

①筆記試験 50% ②提出物 10% ③実習への意欲や参加の態度 20% ④授業への取り組み 20%

保育指導法

担当 小林愛子

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（１）各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

（２）保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

乳幼児教育における理解を深め、発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

◇授業の概要

保育の原点は子ども理解からであり、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。その際、保育映像や写真等の視聴覚教材を活用し、できるだけ実際の姿をイメージしながら臨めるようにする。

◇授業計画

	内 容	
1回目	保育の基本及び子ども理解から始まる「保育方法」を理解する。	予習 保育指導法・子ども理解とは何か、教科書を読み解きこれから学ぶ内容をイメージして授業に臨む。
		復習 保育指導法について又、子ども理解についてまとめ今後の授業の見通しをもつ。
2回目	0～2歳の発達の時期に応じた保育方法	予習 0～2歳、この年齢の特徴的な姿について調べてくる。
		復習 0～2歳、この年齢の特徴的な姿を知り保育者の役割についてまとめる。
3回目	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法① 実際の保育現場の子どもの映像から育ちの違いや発達の連続性を学ぶ。	予習 3・4・5歳、この年齢の特徴的な姿について調べてくる。
		復習 3歳を基準に子どもの育ちの一年間の発達変容及び保育者の関わりと援助についてまとめる①。
4回目	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法②	予習 3・4・5歳の発達の違いについて調べてくる。
		復習 3歳を基準に子どもの育ちの一年間の発達変容及び保育者の関わりと援助についてまとめる②。
5回目	子どもにふさわしい園生活と保育形態及び保育者の役割	予習 子どもにふさわしい園生活とは何かについて自分の考えをまとめておく。
		復習 保育形態及び保育者の役割についてまとめる。
6回目	子どもにふさわしい保育のデザインを考える。1日の流れ	予習 実習で行った指導案について振り返り、改善点をまとめてくる。
		復習 保育をデザインすることの異議を学び、重要性をまとめる。
7回目	環境を生かした保育の重要性と保育者の役割	予習 幼稚園教育要領の基本を読み解き、環境を生かした保育について自分の考えをまとめてくる。
		復習 幼稚園教育要領の基本に書かれている内容を理解し整理する。
8回目	遊びを通しての総合的な指導法 絵本を題材にしたOHPや子どもの作品をポートフォリオ等ICTを活用した指導の在り方、展開の在り方を学ぶ。	予習 自分が幼少期に経験した遊びを思い出し保育の中でやってみたい遊びを発表する。
		復習 遊びを通して総合的な指導法について学び、保育にどう生かすかを整理する。
9回目	個と集団を生かした保育方法・エピソードを通して学ぶ。	予習 教科書に書かれているエピソードを読み、個と集団の在り方について自分の考えをまとめてくる。
		復習 個が生かされる集団の在り方についてまとめる。
10回目	保育計画・実践・評価・指導案を書く教材及び音楽再生機器等の効果的な活用の検討を含める。	予習 保育の計画はなぜ必要なのかについて教科書を熟読しておく。
		復習 長期に渡る保育の計画を実際に立ててみる。
11回目	保育計画・実践・評価とその実際 現場における実際の情報機器及び教材の効果的な活用方法、展開の在り方を学ぶ。	予習 保育の計画と評価の考え方について自分の考えをまとめてくる。
		復習 自分で立てた計画を振り返り、子どもが主体となる保育の計画と実践を生み出す評価についてまとめる。
12回目	配慮を要する子どもへの保育方法	予習 配慮を要する子とは、どんな子どもの事を言うのか調べてくる。
		復習 保育の実際について学び、園内及び家庭との連携についてまとめる。
13回目	家庭・地域との連携を生かした保育 写真や映像等の視聴覚教材を活用し、子ども達の理解をより深める為の方法を学ぶ。	予習 現在の子育て事情及び保護者の抱える不安について調べてくる。
		復習 家庭・地域との連携の重要性と保護者に向けた情報発信について整理する。
14回目	保・幼・小の実状と連携	予習 スタートカリキュラムについて調べてくる。
		復習 幼少期の教育と小学校教育の接続についてまとめる。
15回目	まとめ 定期試験	予習 今までの授業をふり振り返りまとめる。
		復習 授業を通して学んだ事の総括をする。

◇テキスト

『新しい保育講座⑥ 保育方法・指導法』大豆生田 啓友・渡邊 英則 編著 ミネルヴァ書房 2020年

◇参考書・参考資料等

「保育記録のとり方・生かし方」関 章信 編著 すずき出版

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

試験 60% レポート提出・授業態度 40%

特別支援の理論と方法

担当 吉田梨乃

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。

到達目標：1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。

2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。

3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。

(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。

到達目標：1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。

2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。

3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。

4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。

(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援

一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

到達目標：1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

◇授業の概要

この授業では、発達障害や知的障害などによって特別の支援を必要とする子どもたちの発達およびその支援の方法について学ぶ。また、障がいはいなくても、経済的な貧困や母国語などの問題により特別の教育的ニーズのある子どもの困難さとその対応についても学ぶ。

	内 容		
1回目	子どもの発達と特別支援教育の理念	予習	これまでに障害のある人との関わりがあればその経験を、なければ障害のある人について知っていることを思い出しておく。
		復習	本科目で学ぶ内容をシラバスを通して理解し、今後の授業内容のイメージをもつ。
2回目	子どもの発達と特別支援教育の制度	予習	特別支援教育では、どのような子どもが対象となっているのかを調べておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
3回目	発達障害の理解（１）－自閉スペクトラム障害	予習	自閉スペクトラム症とはどのような障害かを調べ、まとめておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
4回目	発達障害の理解（２）－ADHD：学習障害	予習	自閉スペクトラム症以外の発達障害について調べ、どのような障害があるかを調べておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
5回目	様々な障害のある子どもの理解	予習	障害のある子どもと障害のない子どもがともに過ごす際に、どのような問題があるか想像し、思いつくものを箇条書きにする。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
6回目	特別の支援を必要とする子どもの学習について	予習	これまでの授業で学習した「発達障害」を持つ子どもたちが、小学校へ進学した際に特に授業中にどのような困難があると考えられるか、自身の経験もふりかえって、思いつくものを書き記す。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
7回目	「通級による指導」と「自立課題」	予習	個別の課題の違いを踏まえ、より子ども一人ひとりの発達課題にあわせた支援を行うためにはどのような仕組みが必要か、考えておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
8回目	個別指導計画の作成と留意点	予習	子ども一人ひとりの指導計画を立てるためには、どのような情報が必要か調べておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
9回目	保育者と保護者の連携	予習	障害のある子どもをもつ保護者はどのような葛藤を抱えているか、保護者の視点に立ち、その思いを想像し書き記す。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
10回目	特別支援コーディネーターとの連携	予習	特別支援教育をスムーズに行うために必要なことは何か、これまでの授業を踏まえて考える。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
11回目	教室のなかの子どもたち（１）－貧困家庭で暮らす子ども	予習	現在の日本の子どもの「貧困」について、インターネットや新聞などを用いて調べ、発表できるようにまとめておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
12回目	教室のなかの子どもたち（２）－児童養護施設で暮らす子ども	予習	児童虐待や親の死など、さまざまな理由によって自分の親に育てられない子どもたちはどのような場所で誰と過ごすのか、調べておく。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
13回目	教室のなかの子どもたち（３）－外国籍の子ども	予習	日本の学校で生活する外国籍の子どもたちについて調べる。
		復習	授業中に配布のプリント及び教科書の指定した箇所を読み、今日の授業の内容の理解を深めるとともにわからないところはメモしておく。
14回目	教室のなかの子どもたち（４）－子どもたちの関係性を結びなおす	予習	さまざまな支援が必要な子どもたちがいることを理解し、その上で改めて特別支援教育の目的を読み直し、特別支援教育の理念が説明できるようにする。
		復習	これまでの授業プリントを全てそろえ、わからないところがあればメモする。

15回目	関係性の中での育ち 定期試験	予習	期末試験に向けて、授業プリント及び教科書を熟読し、授業中に指定した重要語句を自分で説明できるようにしておく。
		復習	試験を振り返って、自分が本科目で学んだことを深め、今後の実習で子どもたちとの関わりに活かせるようイメージをする。

◇テキスト・参考書・参考資料等

『教育心理学の最前線』 斎藤富由紀・守谷賢二 編 八千代出版 2019年

◇参考図書

授業の中で適宜資料を配布する。

◇学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業で提出するコメントシート（20%）

教育課程と保育計画

担当 兼重祐子

講義 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

学習指導要領を基準として各学校において構成される教育課程についてその意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

(1) 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

- 1) 学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格及び位置づけ、教育課程の編成の目的を理解する。
- 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の変遷、社会的背景を理解している。
- 3) 教育課程が社会において果たしている役割・機能を理解する。

(2) 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

- 1) 教育課程編成の基本原則を理解する。
- 2) 教科・領域をまたぎ教育内容を選択し、配列することができる。
- 3) 学期・学年をまたいだ長期的な計画から乳幼児、児童、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を立案する重要性を理解している。

(3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

- 1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
- 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

◇授業の概要

幼稚園や保育園でその日の保育はどのように決めているのか疑問に思う学生もいるのではないかな。保育者は子どもが小学校就学前まで、目的に応じて計画を作成し、実践していく。このような計画を幼稚園では「教育課程」、保育園では「保育の計画と評価」という。

教育課程と保育計画では、教育・保育計画を作成する際、発達過程を押さえ、見通しを持った教育・保育が展開されるよう記入することを学んでいく。月間指導計画、週案の書き方を学ぶと同時に5領域が保育にどう作用しているのかを考えていく。尚、「自分で幼稚園を開園してみよう」のグループ発表で優勝したチームの年間指導計画、月案、週案を作成する。

◇授業計画

	内	容
1回目	①オリエンテーション ②教育課程とは何かについて学ぶ。 ③教育課程の編成について知る。	予習 テキスト第3章、保育計画の実践と変遷の3を読んでおくこと。
		復習 「幼稚園を開園してみよう」で担当するところを調べ、まとめる。
2回目	「自分で幼稚園を開園してみよう」(1) ①カリキュラム・マネジメントとは何か ②保育方針、園目標、園の特徴等、どのような幼稚園を開園したいのかグループで話し合う。	予習 「幼稚園を開園してみよう」で担当するところを調べ、まとめる。
		復習 本日のグループでの話し合いを振り返り、担当箇所の作業を進めておく。
3回目	「自分で幼稚園を開園してみよう」(2) ①保育時間、年間行事、預かり保育等を考えながら作ってみる。②カリキュラム・マネジメントを基にし、見通しを持って作業を行う。	予習 グループで話し合い内容を事前に調べ、まとめておく。
		復習 本日のグループでの話し合いを振り返り、担当箇所の作業を進めておく。
4回目	「自分で幼稚園を開園してみよう」(3) ①パンフレットの作成を行う。 ②カリキュラム・マネジメントの表に今日の作業状況と振り返りを書きこむ。	予習 グループで話し合い内容を事前に調べ、まとめておく。
		復習 本日のグループでの話し合いを振り返り、担当箇所の作業を進めておく。

5回目	「自分で保育園を開園してみよう」(4) ①グループの発表を通し今までの学びを確認する。②相手にわかりやすく発表する力を身につける。	予習	グループで話し合い、役割分担した内容を事前に調べ、まとめる。
		復習	本日のグループでの話し合いを振り返り、担当箇所の作業を進めておく。
6回目	「自分で保育園を開園してみよう」(5) ①グループ発表を通し今までの学びを確認し、優勝チームを決定する。②カリキュラム・マネジメントのまとめを行う。	予習	相手にわかりやすく伝えることをねらいにし、グループ発表の練習を行う。
		復習	発表の振り返りを行い、レポート課題を完成させる。
7回目	保幼小の連携の理解 ①スタートカリキュラムとは何か。②保幼小連携のDVDを見て更に理解を深める。	予習	テキスト第9章、小学校との連携の1を読んでおくこと。
		復習	11月の保育実習で保幼小の連携で質問したい内容を書きまとめる。
8回目	保育園における行事の位置づけについて 保育行事 誕生会、ひな祭り、端午の節句を準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。	予習	テキスト第7章、園行事と生活の充実を読みどのような行事があるのか予備知識を深める。
		復習	行事の由来を調べ課題を行う。
9回目	保育行事(1) 節分、クリスマス会、おもちゃつきを準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。	予習	日本の季節行事の歴史の変遷を調べる。
		復習	行事の由来を調べ課題を行う。
10回目	保育行事(2) お月見、じゃが芋ほり、お泊まり保育を準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。	予習	行事の由来を調べ課題を行う。
		復習	行事の由来を調べ課題を行う。
11回目	年間指導計画の作成(1) ①長期の授業計画の作成と留意事項について学ぶ。②優勝チームの教育理念に基づき年間指導計画を作成する。	予習	テキスト第3章、保育計画の実践と変遷の4を読んでおくこと。
		復習	年間指導計画を作成する。
12回目	年間指導計画の作成(2) ①保育行事を柱にしながら指導計画作成の続きを行う。②指導計画の作成から連続性のある保育について学ぶ。	予習	年間指導計画を作成する。
		復習	年間指導計画を仕上げる。
13回目	教育実習の振り返りと短期指導計画 ①保幼小の連携グループディスカッション及び発表(6月の教育実習から)を行う。②短期の授業計画の作成と留意事項について学ぶ。	予習	保育実習で質問してきた保幼小の連携について発表できるように準備しておく。
		復習	保幼小の連携の発表内容を自分の言葉でまとめる。
14回目	月案の作成 ①月初めから月末にかけて流れのある保育を考えながら作成する。②作成することにより領域がからみあうことに気付く。	予習	月案を書くにあたり、1～3月の四季を感じるものを調べたり考えたりしておくこと。
		復習	連続性を意識しながら月案を仕上げる。
15回目	週案の作成 ①先週作成した月案に基づき、流れのある保育を捉えながら作成する。②雨天時の保育も週案に組み込む。	予習	配布したプリントから週案の書き方のポイントを理解する。
		復習	年間指導計画・月案・週案の振り返りレポートを書きあげる。

◇テキスト

『改訂版 保育方法の基礎』柴崎正行編 わかば社 2018年

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業中の態度(20%)・提出物(40%)・グループ発表(40%)等により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育内容総論

担当 兼重祐子

演習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育、保育園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対象的で深い学びが実践する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育及び基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、保育所保育指針における保育の基本、各領域のねらい及び内容、全体構造を理解している。
 - 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園、保育園における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域ごとに乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 乳幼児の知識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - 2) 各領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
 - 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

本講義では『保育所保育指針』に示されている養護・教育及び『幼稚園教育要領』の5領域の変遷を領域毎に調べ、グループ発表を行う。現今の養護、5領域を要約する作業を行い少しずつ自分の言葉でまとめられる力を身に付けていくとともに、領域のねらい及び内容とつながりに気づき、「子どもは遊びを通して育つ」ことを確認していく。授業の後半は事例問題から子どもへのアプローチ方法を学んでいく。また、領域が絡み合うことを押さえた上で保育環境を考えながら模擬保育を行い、子ども達の興味・関心を高める為の情報機器教材の活用方法とその意図の理解及び指導法を身につけていくことを目的として行う。模擬保育の経験から指導案の構成を理解するとともに振り返りを行い、改善していくことの必要性を知る。

◇授業計画

	内	容
1回目	①オリエンテーション ②『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』の基本及び保育の内容を確認する。 ③『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』のDVDを観て更に理解を深める。	予習 第1章, 保育の基本と保育内容を読んでおくこと。
		復習 グループ発表で自分が担当する箇所の情報を集めまとめておくこと。
2回目	養護、5領域の発表準備を行う。(グループワーク)	予習 グループ発表で自分が担当する箇所の情報を集めまとめておく。
		復習 グループ発表で自分が担当する箇所の話す内容をまとめておくこと。

3回目	養護から①保育における養護の歴史について グループ発表。②『保育所保育指針』『養護』の内容を理解し要約する。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の1を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
4回目	領域の健康から ①保育における健康の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』『健康』の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の健康の内容に違いがあるか確認してみる。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の2を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
5回目	領域の人間関係から ①保育における人間関係の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』『人間関係』の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の人間関係の内容に違いがあるか確認してみる。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の3を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
6回目	領域の環境から ①保育における環境の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』『環境』の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の環境の内容に違いがあるか確認してみる。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の4を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
7回目	領域の言葉から ①保育における言葉の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』『言葉』の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の言葉の内容に違いがあるか確認してみる。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の5を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
8回目	領域の表現から ①保育における表現の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』『表現』の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の表現の内容に違いがあるか確認してみる。	予習	テキストの第2章、保育内容の歴史の変遷の6を読み流れを押さえておく。
		復習	発表した内容を振り返り、自分の言葉で書きまとめておくこと。
9回目	保幼小の連携について ①保幼小の連携の背景をつかむ。 ②スタートカリキュラムについて学ぶ。 ③保幼小連携の取り組みのDVDを観て学びを深める。	予習	テキストの第5章、保育実践の多様な展開の5を読み流れを押さえておく。
		復習	自分が住んでいる地域のHPを見て、保幼小の連携がどのように行われているか調べまとめておくこと。
10回目	模擬保育の発表会 ～手遊び、歌唱指導を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める。）	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておくこと。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。
11回目	模擬保育の発表会～造形活動を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める。）	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておく。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。
12回目	模擬保育の発表会～パネルシアター・エプロンシアター・ペープサートを中心に～	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておく。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。
13回目	模擬保育の発表会～室内、戸外で行う運動遊びを中心に～	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておく。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。
14回目	模擬保育の発表会～素話、絵本、紙芝居を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める。）	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておく。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。
15回目	模擬保育の発表会～簡単にできるゲームを中心に～	予習	模擬保育発表会の準備・練習・指導案の作成をしておく。
		復習	模擬保育の発表を通して指導案に振り返りを記入する。

◇テキスト

『改訂版 保育内容の基礎と演習』柴崎正行 編著 わかば社 2018年

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針解説 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2018 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

授業中の態度、積極的参加（10％）グループ発表（30％）提出物（20％）模擬保育（40％）の発表により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育内容演習Ⅰ（健康）

担当 熊澤桂子

演習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領に提示された幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「健康」において幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び、小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育内容を計画し、その方法を身につけることで、実践力を養う。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等と視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器、及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
 - 4) 模擬保育との振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。
 - 5) 領域「健康」の特性に応じた子どもを取り巻く現代社会の課題や、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解する。そして、子どもの健康な心身を育くみ、子ども自らが健康で安全な生活を主体的につくり出す力を養うために、必要な知識・技術を身につける。また、乳幼児期の健康に関わる生活習慣の習得や、心身の発達・発達、運動の発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける。

模擬保育においては、教材及び音楽再生機器等の効果的な活用を検討したり、振り返りの際に ICT を活用し視覚化したりなどしながら、学生同士が意見を交換する等、協議する機会を設ける。

◇授業計画

	内	容
1回目	保育における「健康」とは何か～幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解	予習 授業科目概要の「一般目標及び到達目標」を確認する。教科書第1章 1、2を読む。
		復習 WHO「健康」の定義を確認し、自身の生活を振り返って、健康的な生活についてまとめる。
2回目	基本的生活習慣の形成を支える援助～食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助(配慮を必要とする子どもへの援助を含む)	予習 教科書第2章「子どもの身体の発達・発達」を一読する。
		復習 現代社会において、乳幼児の睡眠、食事、活動を阻害する要因をまとめる。
3回目	健康管理と安全能力を育む援助 ～健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助(リスクとハザードの確認)(配慮を必要とする子どもへの援助を含む)	予習 教科書第4章「乳幼児期の安全教育とけがの予防」を一読する。
		復習 「リスクとハザード」の意味と、その違いを短い文章でまとめる。

4回目	健康な心身を育む保育の構想(保育計画の立案①)～健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導の計画	予習	園生活における、保健指導、安全指導について、年間活動から必要な行事、内容等を調べる。
		復習	授業で計画した「保育計画」の補足し、次回への提出準備をする。
5回目	健康な心身を育む保育の構想(教材研究①)～健康指導、安全指導の実践生活習慣(手洗い・うがい等)の正しい方法をビデオ視聴後、ICTを活用し子ども同士が手洗いの場面を撮影し合い、比較しながら学ぶ指導案の作成	予習	「手洗い」等の保健指導に関する動画を探し、具体的な指導案作りをするための要素をまとめる。
		復習	授業内に作成した指導案を次回、グループ発表するためにより詳しい内容を加えて、完成させる。
6回目	健康な心身を育む保育の実践(模擬保育①)～幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導、安全指導のあり方(第5回の指導案をもとに保育者・子ども役で、ロールプレイを実施)	予習	「指導案」をグループ発表するための、メモづくりを行う。
		復習	自身が作成した指導案の振り返りと、他者の発表の感想をまとめる。
7回目	健康な心身を育む保育の評価と課題①～幼児理解と保育の視点を基盤とした評価(ICT活用の効果についても、グループで振り返る。)	予習	発表後の振り返りメモの準備、及び、よりよい指導案作りのための意見を考える。
		復習	他者の発表から、今回の指導案作りの課題と、新たな意見をまとめる。
8回目	多様な動きの経験を促す援助～園庭遊び等、外遊びや自然に親しむなどの遊び体験や、その活動と連動した生活習慣からの様々な経験を促す環境構成と援助子どもたちが考えた「鬼ごっこ」を実際に行ない、その場面をデジタルカメラ等で撮影する。その後、子どもと撮影したものを視聴することを想定し、子どもの多様な動きを促進するための保育者の言葉掛け、関わり方を考察する。	予習	教科書、第6章「乳幼児期の遊びと運動」を一読する。
		復習	この時期の子どもに、なぜ「運動遊び」が必要か、短い文章でまとめる。
9回目	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助～現在社会における子どもの健康の課題と、子どもの特性を踏まえた援助のあり方	予習	教科書第9章「領域『健康』を巡る現代的課題」を一読する。
		復習	子どもの発育・発達を阻害する要因と園と保護者との連携のあり方をまとめる。
10回目	健康な心身を育む保育の構想(計画の立案②)～運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導園庭などを活用したサーキットづくりを子どもと共に設定・実施することを想定した指導案を考える。	予習	「運動遊び」の指導案を作成するため、実習園の園庭、1日活動内容を確認し、作成の準備活動を行う。
		復習	作成した指導案を振り返り、加筆をして実施可能な内容を目指す。
11回目	健康な心身を育む保育の構想(教材研究②)～運動遊びの指導の実践 園庭遊具や園庭でのボール・なわ等を使用した遊びを子どもたち自身がICTを使用し、取材することを想定し「遊びの場面」と「遊びの楽しさ」を語る映像づくりの指導方法を考察する。また、その映像を子どもと共に視聴し、運動遊びを導き出す手順を考える。	予習	指導案を作成する際、子どもが利用可能なICTに関する教材を探してみる。
		復習	グループ内で行ったICT使用を試みた教材研究を含み、各自が作成した指導案の良い点をまとめる。
12回目	健康な心身を育む保育の実践(模擬保育②)～幼児の動機づけ、意欲等に配慮した運動遊びの指導方法(考察した運動遊びの実際と、それを学生同士で撮影する。)	予習	授業内で実際に一部を発表できるように支援方法を考える。
		復習	実演された内容を振り返り、自身の指導案との相違、良い点、また改善点を考える。
13回目	健康な心身を育む保育の評価と改善②～幼児理解と「運動遊び」の保育実践のふりかえりと評価	予習	前回の授業で発表した内容から、自身の指導計画案の良い点と課題を挙げておく。
		復習	グループ内での振り返りをもとに、更に工夫した実施可能な指導案の作成を目指す。
14回目	幼児期に育まれる健康な心身と、就学後の生活等に生かされる力～「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校教科との関連	予習	教育要領、保育指針等から、「健康」の分野を付箋を付けて確認する。
		復習	五領域の中での「健康」の保育者の役割、特に小学校教育とのつながりを認識し、まとめる。
15回目	まとめ 領域「健康」をめぐる現代社会での課題と保育のあり方～家庭、地域社会等、幼児を取り巻く環境からの健康の課題と、求められる保育 定期試験	予習	半期のまとめとして、各項目ごとにレジュメを確認し、試験に備える。
		復習	試験内容を思い出し、再度、自分のものとするように確認する。

◇テキスト

『演習保育内容 健康—基礎的事項の理解と指導法—』河邊貴子・吉田伊津美 編著 建帛社 2019年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇参考書・参考資料等

- ・授業において適時、参考資料を配布する。
- ・幼児の運動遊びのDVD等映像の使用あり。

◇学生に対する評価

- ①事前学習を含む、授業への取り組む姿勢、意欲や態度（グループ活動への意欲、取組み等）（40%）、
- ②指導計画の立案、模擬保育の実践と自己評価（レポート、提出物の評価）（30%）
- ③講義内容等に関する試験（30%）

保育内容演習Ⅰ(人間関係)

担当 鶴田一女

演習 2年前期

室井眞紀子

◇一般目標及び到達目標

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域の全体構造、領域「人間関係」のねらい、内容を理解している。
 - 2) 領域「人間関係」のねらい、内容を踏まえ、自律心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験」と、小学校以降の生活や教科書等とのつながりについて理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」の具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用する等の留意点を理解している。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている
 - 5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園教育要領、領域「人間関係」に示されているねらい及び内容について、保育場面の映像資料等、事例を丁寧に読み解き幼児の心情を理解しながら幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。また、グループワークやロールプレイとその振り返りを通して、発達にふさわしい保育の実現のために情報機器を活用することも考えられるようにしながら、実践する方法を身に付ける。

◇授業計画

	内 容		
1回目	幼稚園教育要領における5領域と領域「人間関係」	予習	シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習	授業の学びについてまとめる。
2回目	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い	予習	幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」の部分を読んでおく。
		復習	ねらい、内容、内容の取り扱いをまとめる。
3回目	教師との信頼関係の形成、幼稚園生活における安定感の援助	予習	教科書pp. 91-99を熟読する。
		復習	信頼関係の形成についてまとめる。
4回目	心身の発達と自立心を育む援助	予習	教科書pp. 165-169を熟読する。
		復習	自立心を育む援助についてまとめる。

5回目	子ども同士のいざこざと教師の援助	予習	教科書pp. 26-34 pp. 53を熟読する。
		復習	教師の援助についてまとめる。
6回目	自己発揮と自己抑制, 折り合いをつけることについて	予習	教科書pp. 135-141を熟読する。
		復習	幼稚園教育要領解説pp. 174-175, 184をまとめる。
7回目	生活におけるきまりと葛藤, 教師の援助	予習	教科書pp. 44-54を熟読する。
		復習	教師の援助についてまとめる。
8回目	ルールのある遊びと教師の援助	予習	教科書pp. 37-43を熟読する。
		復習	幼稚園教育要領解説pp. 186-187についてまとめる。
9回目	個と集団の育ちを考える	予習	教科書pp. 80-87を熟読する
		復習	個と集団の育ちを促す保育内容を考える。
10回目	協同的な活動で育ち合う長期的な保育の展開	予習	協同的な活動とは何か、事前に調べ自分なりの考えをまとめてみる。
		復習	協同的な活動について学んだ内容をまとめる。
11回目	行事のねらいと協同的な活動の指導	予習	幼稚園教育要領解説pp. 114を熟読する。
		復習	授業内容を踏まえ、協同的な活動としての行事の在り方について自分なりに考えをまとめる。
12回目	個の育ちと共同性の育ち	予習	幼稚園教育要領pp. 173-176, 184を熟読する。
		復習	個と共同性の育ちについて学んだ内容をまとめる。
13回目	領域「人間関係」と幼小の接続	予習	資料（幼保小連携）を熟読する。
		復習	幼稚園教育要領解説pp. 90-93についてまとめる。
14回目	地域の中における幼稚園のあり方	予習	幼稚園教育要領解説pp. 131-136を熟読する。
		復習	授業の学びを踏まえ、地域における幼稚園の役割について学んだ内容をまとめ整理しておく。
15回目	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題 定期試験	予習	教科書pp. 157-163を熟読する
		復習	これまでの学習内容を復習する。

◇テキスト

『最新保育講座8 保育内容「人間関係」』森上史朗 他著 ミネルヴァ書房

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

定期試験60%、演習内容20%、レポート20%

保育内容演習Ⅰ(環境)

担当 真木千壽子

演習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。

- 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域「環境」に幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

- ・領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
- ・領域「環境」に関する素材や教材に親しみ、指導上の留意点を理解する。
- ・領域「環境」とPDCAサイクルについて理解する。
- ・身近な環境と保育実践上の現代的課題について理解する。
- ・指導案作成や模擬保育では、効果的な形式や提示の方法の工夫として、情報機器の活用を試み、保育の構想への活用の在り方を理解する。

◇授業計画

	内 容	
1回目	保育の基本としての「環境による保育」と、領域「環境」の考え方について学ぶ。	予習 シラバスの授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習 「環境による保育」と領域「環境」について学んだことをまとめる。
2回目	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱いなどについて学ぶ。	予習 保育現場において「環境」が重視される社会的背景について調べてくる。
		復習 領域「環境」のねらいや、「環境を通して行う保育・教育」との関係についてまとめる。

3回目	幼児期にふさわしい環境と環境構成について映像教材を通し学ぶ。	予習	子どもが長時間過ごすのにふさわしい保育室はどのようなものか考えて、具体的に図面に描いてみる。
		復習	子どもの発達と、それぞれの発達に応じた環境構成についてまとめる。
4回目	幼児にとって身近な生き物（カブト虫やザリガニ等）の生態、飼育方法、かかわり方などについて絵本や図鑑、情報機器の特性を活かし調べる。	予習	子どもが育てやすい身近な生き物について調べたり、生き物との触れ合いなどの体験から学んだことをまとめる。
		復習	身近な生き物の飼い方や、飼育することの意義を理解する。
5回目	幼児にとって親しみやすい植物（朝顔や二十日大根）の栽培方法について、図鑑や情報機器を活用し調べる。	予習	四季の変化を感じる植物と、植物の栽培や収穫の時期を調べてくる。
		復習	栽培の意義を理解する。幼児にとって親しみやすい植物の栽培方法についてまとめる。
6回目	数量・図形等にかかわる活動の実践について学ぶ。	予習	日常生活の中での数量の体験を思い出し、数を唱える歌や手遊び、運動遊びなど調べてくる。
		復習	園生活での数量とのかかわり、文字環境などをどのように構成することが望ましいかまとめる。
7回目	自然事象や社会事象にかかわる活動の実践について学ぶ。	予習	季節感を感じるとは何か、身近な自然事象や社会事象を見る目を養う。
		復習	子どもの遊びを通して、自然事象や社会事象が「環境」とどのようなかかわりがあるのか、学んだことを整理する。
8回目	地域の自然環境を取り入れた活動の実践について学ぶ。	予習	地域の自然環境とのかかわりを考えてみる。近隣のおさんぽマップを作ってみる。
		復習	子どもの活動から自然環境とのかかわりを通して育つものは何かをまとめる。
9回目	地域の文化、社会資源、施設等を活用した保育の実践について学ぶ。	予習	地域社会に子どもが参加・見学できる施設や自然に触れる場所があるか調べたり、園の行事について調べてくる。
		復習	地域の文化、社会資源、施設等を活用した保育の実践について学んだことをまとめる。
10回目	幼児期の発達に即した計画の作成をする。	予習	乳幼児期の発達について調べてくる。
		復習	乳幼児期の発達特性を踏まえた指導計画を作成する。
11回目	身近な素材や自然物の収集と指導計画の作成をする。	予習	身近な素材や自然物にはどんなものがあるか、生活や遊びに取り入れるにはどのような指導計画を立てればよいか考える。
		復習	身近な素材や自然物を使った指導計画の作成をする。
12回目	身近な素材や自然物を活用した保育の実践（模擬保育）	予習	身近な素材や自然物を活用した保育を考え、教材などを用意する。
		復習	身近な素材や自然物を活用した保育実践をしてみる。（模擬保育）写真や動画でのドキュメンテーションでの記録をする。
13回目	保育実践の振り返りとドキュメンテーション（映像・情報機器の活用）	予習	保育実践の活動の振り返りをする。
		復習	保育実践をドキュメンテーションを通して分析し、課題について話し合う。
14回目	領域「環境」評価の視点	予習	保育実践などを通して、評価の視点を考える。
		復習	評価・反省を通して気づいたことや、ねらいが達成されたかどうか、今後の課題についてまとめる。他の事例からも学ぶ。
15回目	領域「環境」に対する現代的課題（環境、インクルーシブ保育） 定期試験	予習	領域「環境」の変遷と現代社会の課題について調べてくる。
		復習	子どもを取り巻く環境の変化と現代的課題について整理する。

◇テキスト

『保育内容 子どもと環境―基本と実践事例―』 田尻由美子・無藤 隆 編著 同文書院

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』 文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に提出するレポート（30%）、授業の参加・態度（20%）

保育内容演習Ⅰ（言葉）

担当 藤村公三郎

演習 2年前期

◇授業の全体目標

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域とも関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

◇一般目標及び到達目標

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 - 5) 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園で過ごす子どもたちの様子を描いた映像を視聴したり保育現場等において参観したりすることにより、乳幼児に特徴的な「言葉」の様相・実態を把握する。また、園の許可を取り、言葉のやりとりを録音したり、動画を撮ったりして子どもの変化、発達の度合いを捉える。

「絵本」「紙芝居」「言葉遊び（ゲーム）」などの実践的な保育技術習得をねらいとして、自分たちで音声や映像を記録しその向上に役立てるなど、学生自身がICTの特性や使用方法等を理解し活用できるように、必要に応じてICTの活用を試みる。

その際、少人数のグループを単位として取り組み、グループディスカッションやグループワークをなどの機会を設け、協働的に学ぶ過程を大事にする。学生自身の「主体的・対話的深い学び」が実現されるよう工夫する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	保育における「言葉」とは 幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容について「キーワード」を出し合い、その内容や構造について理解を深める。特に保育者の援助は言葉が生まれる基盤を幼児と共に丁寧に形成していく点にあることを確認し合う。	予習	「幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容を読み、キーワードに線を引く。
		復習	幼児共に丁寧に形成していくとはどのようなことか自分の考えを書く。
2回目	子どもの言葉の発達過程(1) 言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋について、視聴覚教材により、保育者と子どもの表情や身振りなどの非言語的表現による関わりや、信頼関係の構築をねらう場面を捉え、グループで検討し合い、発達に則した援助の在り方を学ぶ。	予習	言語的表現とはなにか、それに対し非言語的表現とはなにか思いつくことを書く。
		復習	保育者と子どもとのコミュニケーションの基盤はなにか学んだことを自分の言葉でまとめる。
3回目	子どもの言葉の発達過程(2) 「いま、ここ」を越えて広がる世界と言葉の発達について、どんな言葉が文字になっているか、絵本や物語を使つての活動を、実際に幼稚園を見学したり映像で確認し合い、言葉の豊かさ、伝える楽しさをグループディスカッションし、全体に発表することで、言葉の発達とその援助の在り方を理解する。	予習	「いま、ここ」を超える世界とはなにか、言葉に視点をあて自分の考えを書く。
		復習	文字による表現にはどんな活用のある場面があるかまとめてみる。
4回目	言葉を育む環境構成と援助(1) 保育の事例や映像に描かれた様子を参考にして、その事例、場面を、保育者と子どもに分かれてグループでロールプレイを行い、その振り返りをグループディスカッションし、全体に発表し、聞いている時に気持ち良かったことをまとめ発表する。「聞きたい」、「話したい」意欲を育む援助の視点を学ぶ。	予習	相手と向かい合い、聞きたいと思う状況、話したいと思う状況、その反対は何かまとめてみる。
		復習	会話の中でどんなことに留意するか、幼児に向かってはどんなことに注意するか、それぞれ書いてみる。
5回目	言葉を育む環境構成と援助(2) 「生活に必要な言葉の習得」について4つ事例を提示し、それぞれにテーマを設ける。個々に選び指導案を書き、グループでこどもたちの言葉の習得に必要な援助の仕方について話し合い、ICTを活用して発表することを通して、援助の仕方を学び合う。	予習	生活に必要な4つの事例の中から、2つを選び話題として取り上げるテーマを用意する。
		復習	ことばの習得に必要な援助について良いと思った事例や方法について整理しまとめる。
6回目	言葉を育む環境構成と援助(3) 映像教材や事例を使い、気持ちのすれ違いや気持ちが伝わらないもどかしさをもった子ども(非言語表現も含め)たちの活動を見る。その改善の援助について考え、グループに分かれロールプレイを行い、グループディスカッションをする。特に、演技者それぞれの言葉の使い方の良さについて留意する。	予習	相手の話すことや気持ちがお互い通じない時はどんなときか、例を考える。
		復習	事例における良さと発表グループのプレイの良さをもう一度考えまとめてみる。
7回目	言葉を豊かにする環境構成と援助(1) ～言葉による丁寧な伝え合いを育む援助 保育者と子どもの1対1のやりとりの場面を視聴して、その保育者の意図についてグループディスカッションする。1対1で対応する具体的なケースをグループごとに想定し、指導案を作成する。指導案をパワーポイントで写しながら、模擬保育を行い、言葉の使い方の良さ、改善すべき点を話し合いその視点を身に付ける。	予習	子どもに対して分かりやすい援助とはなにか考え、書いてくる。
		復習	保育者の意図がうまく表現されていた発表はどれか、どうしてそう感じたかまとめておく。
8回目	言葉を豊かにする環境構成と援助(2) ～文字などで楽しさを伝える援助 事例や幼稚園の案内板・掲示物の写真を見て、図柄や話し言葉から書き言葉(文字)への発達段階を理解する。環境も少数の親しい特定者から、不特定の一般者に変化している。この「一次的ことば」と「二次的ことば」をつなぐ保育者の援助の方法を理解し、身に付ける。	予習	1年で学習した「一次的ことば」「二次的ことば」の特徴を思い出してくる。
		復習	個の関係から取り巻く周囲との関係のステップアップの方法をまとめておく。
9回目	子どもの言葉を豊かにする教材:児童文化財 児童文化財「絵本」「紙芝居」等の保育の場での活かし方について学び合う。具体的な作品に出合いながら、それらの基礎的知識と幼児の発達にとっての児童文化財の意義について確認する。その作品を実際に演じ、自分たちで自分たちの読み聞かせや紙芝居の映像記録をとり、方法についての評価や言葉に対する感覚の豊かさや、言葉の楽しさ美しさについて取り上げ話し合いその視点を豊かにする。	予習	自分が気に入っている絵本、紙芝居をどちらか一つ選んでくる。
		復習	発表とその後の話し合いを思い出し、心に残ったことばの豊かさや楽しさ美しさをまとめる。

10回目	言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊び（しりとり・言葉集めなど）をグループを作り実際に行い、子どもたちが言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにするにはどういうことに気を付けたらよいか話し合う。併せて、それを保育の中にどう取り入れたらよいか、時、場所、方法などを出し合いグループディスカッションをする。具体的な活動と上記のまとめ発表し合い実践力を養う。	予習	自分の知っている言葉遊びをいくつか発表できるように準備してくる。
		復習	発表とその後の話し合いを思い出し、良いと思ったことを後日活用できるよう書きまとめる。
11回目	子どもの言葉を育む保育の実際 模擬保育に向けての保育観察と教材研究を行う。発達段階と言葉、言葉に対する保育者の援助、言葉の豊かさについて幼稚園を参観する。テーマごとに分かれてグループディスカッションをする。模擬保育に向けて必要に応じてICTの活用を試みながら自分のテーマ・課題をまとめ、全体に発表し共有する。	予習	ことばを育む保育をテーマに自分はどういう視点で保育観察するか書いてくる。
		復習	予習したことなども思い出しながら、実際に子どもたちの前に立つかまとめてみる。
12回目	子どもの言葉を育む保育の構想 前回のまとめを参考に、「絵本」「紙芝居」など具体的な取り組みを想定した指導案の作成を行い、グループディスカッションを行う。各グループで一つ選び、ICTを活用して発表し合う。各グループの良さを共有する。また、その運営の仕方を学ぶ。	予習	前時で実際に行いたいと思った言葉を育む保育の指導案略案を考えてくる。
		復習	各グループ発表の良さをまとめる。その取り組みで良いと思ったことも書き留める。
13回目	子どもの言葉を育む保育実践についての「評価」について 前回までの活動を受け、部分模擬保育をグループの代表が行う。保育者、子ども役、参加者に分かれそれぞれから意見を出し合う。改善点や良かったことをまとめ、その場でICTを活用し発表し、同時に資料を配布し、結果を共有する。	予習	決められた役割分担の準備をしてくる。
		復習	活動の評価について、それぞれの立場での視点の違いについて書き留めておく。
14回目	子どもの言葉を育む保育の評価と改善 事前に以下のテーマを示して置き、「評価内容」、「評価場面とその方法」、「ねらいと評価」、「評価の伝達」等のテーマを事前に示して置き、テーマごとにグループディスカッションを行い、プレゼンテーションを行う。全体でそれを評価し合う。「PDCAサイクル」、「指導と評価の一体化」について学ぶ。	予習	保育実践に対する評価について、4つのテーマから一つ選び考えをまとめておく。
		復習	グループの中で言えたこと他人の意見で分かったこと。全体発表で良かった点をまとめる。
15回目	まとめ 領域「言葉」にかかわる現代的課題として、人間関係の希薄化などからくる言葉の貧しさや言葉遣いの変容などについて学習する。講座受講の振り返りと学習の確認。定期試験	予習	教科書の領域「言葉」に関わる課題を呼んで、キーセンテンスに線を引いていく。
		復習	実際職に就いた時、言葉とのかかわりでどんな支援をしたいかまとめてみる。

◇テキスト

『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』無藤隆 監修 編集代表 高須裕子 萌文書林

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

授業への参加度（50%）、提出課題（20%）、最終レポート（授業での学びの振り返りと今後の展開）（30%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長（30年）・教育委員会にて教育相談員（2年）の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者（3年）・文部科学省中央指導者研究会講師（4年）、学童保育所（4年6ヶ月）にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

保育内容演習Ⅰ(表現)

担当 嶋原晶子

演習 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、実践する力を身に付ける。

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領に提示された幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「表現」において幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び、小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器、及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。
 - 5) 領域「表現」の特性に応じた子どもを取り巻く現代社会の課題や、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」領域「表現」のねらいと内容に沿って、乳幼児の豊かな成長のために、具体的な実践を体験しながら、相互に学び合い、乳幼児の表現活動を豊かに発展させるための知識・技能・表現力を身につける。

◇授業計画

	内	容
1回目	領域「表現」の狙い及び内容について、乳幼児の表現する姿と関連付けることを通して理解する。	予習 『幼稚園教育要領』の【表現】を熟読する。
		復習 色々表現について整理しまとめる。
2回目	様々な「表現」を確認し、具体的に理解を深め、幼児の表現活動の指導法について考える。	予習 『保育所保育指針』の各【表現】を熟読する。
		復習 前回まとめた各表現に関して、加筆訂正を加える。
3回目	表現活動の事例やレポートなどを情報機器を活用して調査し、その動向や課題を知る。	予習 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の【表現】を熟読する。
		復習 乳児の表現活動について調べ、まとめる。

4回目	インクルーシブ保育における表現活動や遊びについて、内外の事例から学び保育実践へつなげる手立てを考える。	予習	居住地近辺にある「美しいもの」を探す。
		復習	『美しいもの図鑑』の目次を作る。
5回目	「美しいもの（形・色・音・匂い・・・）」を探し、各自『美しいもの図鑑』を作成する。	予習	学校近辺にある「美しいもの」を探す。
		復習	『美しいもの図鑑』の目次を加筆訂正する。
6回目	『美しいもの』と表現活動のコラボレーションについて検討する。	予習	幼児の表現活動の事例を調べ発表できるようにしておく。
		復習	幼児の表現活動について調べておく。
7回目	身体を使う表現活動を体験し、その面白さに気づき、留意点を考察する。	予習	事前にストレッチなどをして身体を整える。
		復習	授業で取り上げたパフォーマンスをまとめる。
8回目	自然物を使った表現活動を体験し、その面白さや年齢・発達毎の発展方法や留意点を考察する。	予習	身近にある春の植物についてまとめる
		復習	身近にある夏の植物についてまとめる。
9回目	身近な素材・廃材を使った表現活動を体験し、その面白さや年齢・発達毎の発展方法や留意点を考察する。	予習	自然物を使用した幼児向けの指導案を考える。
		復習	『美しいもの図鑑』に掲載する写真などを集める。
10回目	表現活動を発展させるためのドキュメンテーションやポートフォリオ等、ICTを活用した指導計画や学習記録、幼児にわかりやすい教材や提示資料作成の在り方を学ぶ。	予習	紹介したい絵本を2～3冊選ぶ。
		復習	幼児の活動と小学校の教科との関連をまとめる。
11回目	幼児期の表現活動と小学校の教科（体育・音楽・図画工作・生活）と学びの連続性について具体的に学ぶ。	予習	乳幼児が使用できる道具・素材を調べる。
		復習	乳幼児が使用できる道具・素材を整理する。
12回目	総合的な表現方法を実践するため、実習等の体験を持ち寄りながらグループ毎に指導案を作成する。	予習	体験学習で知り得た表現活動を整理する。
		復習	保育の場で必要な保育者の表現力についてまとめる。
13回目	グループ毎に作成した指導案に沿った教材研究をドキュメンテーションやポートフォリオ等、ICTの活用も考慮して深め合う。	予習	発表に備えて準備を行う。①
		復習	他学生の発表を聞いて学んだことを整理する。①
14回目	グループ毎に立案・準備した指導案に沿って、保育シミュレーションを行い、相互に補い合い、学び合う。	予習	発表に備えて準備を行う。②
		復習	他学生の発表を聞いて学んだことを整理する。②
15回目	今までの学びと総合的な表現活動の実践を通じて、保育の場における「表現」について考察する。定期試験	予習	授業のまとめと試験の準備を行う。
		復習	授業の振り返りとまとめを行う。

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指新 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年（他教科と共有）

◇学生に対する評価

授業への参加姿勢や態度（30%）、作品や保育シミュレーションの発表（30%）
各国の授業内容をまとめたポートフォリオの提出（40%）

乳児保育Ⅰ

担当 兼重祐子

演習 1年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①乳児保育の意義・目的、現状と課題を理解する。
- ②3歳未満児の発達を踏まえ、保育者の関わり方や保育上の留意点を学ぶ。
- ③乳児保育における職員間の連携、保護者や地域の関係機関について理解する。

◇授業全体の内容の概要

乳児とは児童福祉法において1歳未満児の事とされているが、本教科では3歳未満児を対象としている。人間形成の初期にあたる乳児期という発達過程における生活、発達の援助方法、保育内容等、多様な角度から理解を深めていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育実習等、これから経験していくことを踏まえながら乳児保育の専門的な知識と技術の基礎をつくる。

◇授業計画

	内	容
1回目	①オリエンテーション ②乳児保育の意義・目的について ③保育所における乳児保育・保育所以外の児童福祉施設について	予習 テキストの第1章、レッスン2を読み要点をまとめておくこと。
		復習 自分の住んでいる地域の乳児院、乳児専門の保育園を検索し特色をまとめる。
2回目	①乳児保育の歴史的変遷と保育内容について	予習 日本の乳児保育の始まりについて調べておくこと。
		復習 明治期から昭和までの乳児保育の変遷を自分の言葉でまとめておくこと。
3回目	①乳児保育の役割と機能について ②乳児保育における子育て支援と今後の課題 ③子育て支援のDVDから理解を深める。	予習 テキストの第4章、レッスン15を読み授業の振り返りを記入する。
		復習 テキストの第1章、レッスン1を読み要点をまとめておくこと。
4回目	(1)年齢別発達と保育内容 0歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③0歳児前半のDVDから理解を深める。	予習 テキストの第2章、レッスン3の①～③を読み要点をまとめておくこと。
		復習 この時期に適した保育者とのふれあい遊びを調べてみる。
5回目	(2)年齢別発達と保育内容 0歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③0歳児後半のDVDから理解を深める。	予習 テキストの第2章、レッスン3の④～⑤を読み要点をまとめておくこと。
		復習 この時期に適した保育者とのふれあい遊びを調べてみる。
6回目	(3)年齢別発達と保育内容 1歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③1歳児前半のDVDから理解を深める。	予習 テキストの第2章、レッスン4の①を読み要点をまとめておくこと。
		復習 この時期に適した保育者とのふれあい遊びを調べてみる。
7回目	(4)年齢別発達と保育内容 1歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③1歳児後半のDVDから理解を深める。	予習 配布したプリントから1歳児後半の姿を読み、子どもの発達の特徴を押さえる。
		復習 この時期に適した絵本を選びなぜ選んだか理由を書いておくこと。
8回目	(5)年齢別発達と保育内容 2歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③2歳児前半のDVDから理解を深める。	予習 テキストの第2章、レッスン4の②を読み要点をまとめておくこと。
		復習 この時期に適した制作を考え実際に作ってみる。

9回目	(6)年齢別発達と保育内容 2歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる。③2歳児後半のDVDから理解を深める。④3歳以上児の保育に移行する時期の保育について	予習	配布したプリントから2歳児後半の姿を読み、子どもの発達の特徴を押さえる。
		復習	中間試験に向けプリントをまとめておくこと。
10回目	中間テスト	予習	中間試験に向けプリントをまとめておくこと。
		復習	配布したプリントから乳児の発達の復習を行うこと。
11回目	乳児クラスの日 ①デイリープログラムとは ②慣らし保育の進め方について ③複数担任と保育場面での役割分担について	予習	テキストの第2章、レッスン6を読み要点をまとめておくこと。
		復習	複数ある0歳児の流れを表にしてまとめておくこと。
12回目	乳児期にふさわしい保育環境とは ①生活の場面・遊びの場面から	予習	テキストの第3章、レッスン8を読み要点をまとめておくこと。
		復習	複数担任の役割や保育者の具体的な動きを書き出してみる。
13回目	乳児の遊びと生活 ①環境を踏まえた遊びや玩具理解	予習	テキストの第3章、レッスン9を読み要点をまとめておくこと。
		復習	手作り玩具の材料を準備し作り始める。
14回目	手作り玩具の作成	予習	手作り玩具を安全面に配慮しながら作る。
		復習	手作り玩具を仕上げる。
15回目	手づくり玩具の発表会	予習	みんなの前で手作り玩具の発表する内容を書き出しておくこと。
		復習	手作り玩具を作ってみての振り返り、課題レポートを作成する。

◇使用テキスト・参考文献

『MINERVA はじめて学ぶ保育7 乳児保育』馬場耕一郎 編著 ミネルヴァ書房 2017年

◇単位認定の方法及び基準

授業中の積極的参加（20％）・課題発表（30％）・中間テスト（50％）により総合評価をする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

乳児保育Ⅱ

担当 木村明子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえつつ、援助や関わりの基本的な考えかた・取り組みの実際について理解し、優れた乳児保育実践者としての資質を養う。

◇授業全体の内容の概要

3歳未満児の成長発達の基本、および、その生活や人との関わりについて、映像や事例等を通して理解する。また、保育所保育指針にある保育士の役割を踏まえ、乳児保育実践者としての資質について考察を深める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育所保育指針に示された「乳児・1歳以上3歳未満児」の保育に関わるねらい及び内容を、映像や見学等の実体験を通して理解し、発育・発達および成育環境に対する理解・配慮等も踏まえ、短期・長期・個別の指導計画立案する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容	
1回目	赤ちゃんの不思議に触れよう。「乳児保育Ⅰ」の基礎的学びを振り返り、学習意欲を高める。	予習 「乳児保育Ⅰ」での学びを授業ノートなどを読み返し、振り返っておく。
		復習 映像（乳児の成長関連映像）を思い返し、改めて感じる事々をノートに記しておく。
2回目	指針を自分の座右の書としよう。「保育所保育指針」をていねいに読む。重要用語等確認も。	予習 「保育所保育指針」第2章の1および2を一通り読んでおく。
		復習 「保育所保育指針」の、授業で扱った箇所を読み直し、重要用語を挙げておく。
3回目	発達を虫の目・鳥の目で見よう。心と体の発達をこまやかに見つめ、俯瞰するまなざしも。	予習 1年次に取り組んだ「0歳～6歳」までの発達の流れを振り返っておく。
		復習 教科書「第2回」を再度読み込みつつ重要箇所を挙げておく。
4回目	保育者の関わり。「応答性」に見る、子どもの権利を尊ぶ保育の基本的姿勢について。	予習 「子どもの最善の利益」とは何か、自分なりに考え、ノートに記す。
		復習 「応答性」がもたらす願わしい発達とはどういった姿か、授業を振り返り400字程度で記す。
5回目	保育者の関わり。「担当制」等に見る、乳児保育ならではの保育上の工夫。	予習 「担当制」とは何か、教科書「第1回」の「2」を読んでおく。
		復習 教科書「第1回」の1～3を読み直し、演習課題に取り組む。
6回目	乳児期の生活。基本的生活要素「食事」「排泄」「睡眠」への理解を深める。	予習 乳児期の基本的生活要素「食事」「排泄」「睡眠」について、知りたい事柄を挙げてみよう。
		復習 乳児期の基本的生活「食事」「排泄」「睡眠」について、教科書「第3回」～「第5回」の重要と思われる点をノートに記す。
7回目	乳児期の生活。「清潔」「衣服着脱」などから、「基本的生活習慣の獲得」を考える。	予習 乳児期の基本的生活習慣の獲得とは、子どもに何をもちたすか、考えてみよう。
		復習 教科書「第6回」「第7回」を読み返し重要と思われる点をノートに書き出す。
8回目	乳児期の「遊びと学び」（前）。乳児期ならではの成長を支える環境を知り、視点を深める。	予習 園の環境要素を挙げておく。サンプル平面図等を手に、乳児期ならではの大切な環境の在り方を思いめぐらせる。
		復習 乳児保育園見学に備えて、当該園の環境を確かめておく。
9回目	乳児期の「遊びと学び」（後）。園見学等を通し、配慮十分な乳児保育環境の実際を知る。	予習 見学先の園の様子を資料等から確認しておく。
		復習 見学した園の環境を振り返り、主なポイントをノートに挙げておく。

10回目	「安全・安心」な人的物的保育環境。乳幼児突然死症候群（SIDS）、水関連事故等の抑止。	予習	新聞・雑誌・ネットニュースなどから、乳幼児の死傷事故事例を挙げておく。
		復習	発達に即した事故防止策を振り返っておく。
11回目	現代的・社会的な問題に目を向けよう。「待機児童」「虐待」「孤育で」。子育て支援のこれから。	予習	新聞・雑誌・ネットニュースなどから「乳児保育」に関わるニュースをピックアップしておく。
		復習	予習の際に取り上げたニュース内容を、指定のフォームに記しておく。
12回目	読み返したくなる記録を書こう。乳児期の保育の質を向上を期した「記録」のありかた。	予習	配布された「保育日誌」フォームの記載内容を確認しておく。
		復習	授業中に見た映像を振り返り、「保育日誌」フォームに映像内容を記載する。
13回目	保育の計画。計画～実践・評価・改善～再度計画立案の過程を踏まえつつ、年齢別に立案。	予習	教科書「第12回」を読んでおく。
		復習	授業を振り返りつつ、教科書「第12回」の「評価」の項をよく読み、「計画」との関係性を考える。
14回目	乳児期ならではの遊びと玩具。子どもたちから学ぼう～玩具の選び方、手作りのポイント。	予習	乳児向けおもちゃにはどのようなものがあるか、画像を集めておく。
		復習	授業を振り返り、集まった「乳児向けおもちゃ」の画像を確かめながら、それぞれ人間（乳児）の五感のどこに響くか考える。
15回目	まとめ。乳児保育の現状と課題。	予習	これまで14回分の授業ノートを読み返しておく。
		復習	乳児保育の今後の課題について、ノートに800字程度で記し、まとめとする。

◇使用テキスト・参考文献

『演習で学ぶ 乳児保育』善本眞弓 編著 小山朝子・亀崎美沙子 著 わかば社 2020年

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年度告示』厚生労働省 フレーベル館（他） 2017年

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度、グループワークなどへの参加状況、レポートおよび期末テストの成績から総合的に評価する。

子どもの健康と安全

担当 小林光子

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

保育実践していくために必要な知識や技能を身に付ける。

具体的な事例をあげながら考察し、対応方法など、緊急時に行動できる力を身に付ける。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の子どもが健康で安全に過ごすために必要な知識を学び深める。集団生活の場で、子どもが健康で安全に過ごすために保育者として保育環境の整備や病気やけがの予防と対応について演習を通して身に付ける。演習内容に応じたワークシートを配布する。授業内容と自己学習によりワークシートを完成させる。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 乳幼児に配慮すべき保健、安全について理解し、実践できる。
2. 乳幼児の安全な生活、病気やケガの予防と対応について理解できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	保健計画・健康教育	予習	『子どもの保健』の履修内容を復習しておく。
		復習	保健と安全を意識した計画を理解する。
2回目	生理機能の発達と測定の実際	予習	バイタルサイン等の測定方法について事前学習をする。
		復習	測定結果と測定値の評価について復習する。
3回目	健康観察 受け入れ時の観察、保護者との連絡、情報共有	予習	健康観察の場面と対応について事前学習をする。
		復習	健康状態の評価と管理方法について復習する。
4回目	3歳未満児の健康管理	予習	乳児の身体ケア（沐浴・オムツ交換・歯磨き等）について事前学習をする。
		復習	身体ケアの手技のポイントを整理する。
5回目	体調不良児への対応	予習	体調不良のサインについて事前学習をする。
		復習	体調不良時の対応について整理する。
6回目	感染症対策（1）予防策・集団保育の健康管理	予習	『母子健康手帳』を用意し自身の予防接種状況を確認しておく。
		復習	感染予防の立場から感染症対策を理解する。
7回目	感染症対策（2）発生時・後の対応	予習	『保育所における感染症対策ガイドライン』（2018厚労省）を読んでおく。
		復習	感染症発生時の対応について理解する。
8回目	事故防止（1）保育環境の整備	予習	『保育所の事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年内閣府）を読んでおく（①）。
		復習	事故につながる要因を考察する（①）。
9回目	事故防止（2）園外保育・異年齢保育・行事等の留意点	予習	『保育所の事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年内閣府）を読んでおく（②）。
		復習	事故を繰り返さないための対策を考察する（②）。

10回目	応急処置	予習	傷害が発生する場面を考える（事前課題）。
		復習	場面に応じた救急処置を復習する。
11回目	災害時の対応（１）避難訓練と年齢別配慮	予習	平常時における安全管理について事前学習する。
		復習	避難訓練計画・防災マニュアルを作成する（提出課題）。
12回目	災害時の対応（２）地震、火災、水害時の緊急対応	予習	場面に応じた動きについて事前学習をする。
		復習	災害を想定した対応について復習する。
13回目	地域や保護者との連携	予習	虐待のリスクと要因について事前学習する。
		復習	保育施設と職員に求められている役割を認識する。
14回目	慢性疾患や障害を持つ乳幼児の健康管理	予習	個別配慮が必要な児について事前学習をする。
		復習	健康と安全面からの対応を理解する。
15回目	救命処置	予習	一次救命処置についての事前学習をする。
		復習	救急時における初期対応について復習する。

◇使用テキスト

『これだけはおさえて！「子どもの健康と安全」』鈴木美枝子 編著 創成社

◇参考文献

『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省 2018年3月

『教養・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』内閣府 平成28年3月

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加・課題提出（60%）、試験（40%）

障害児保育

担当 林 典子

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育者として現場で働くために必要である、障害児保育の知識と基本的な考え方を身につける。一人ひとりの特性や課題を理解し、援助の方法や環境の工夫、個別支援計画の作成、保護者への支援、関係機関との連携や地域ネットワークについて学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

障害のある子どもにとって、人間形成の土台を築く乳幼児期に適切な支援がなされることはたいへん重要である。様々な障害について理解を深め、一人ひとりの発達特性や興味・関心のあることを捉え、支援計画の作成や援助の具体的な方法、家庭への支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容	
1回目	障害の概念と対象 障害があるということ	予習 シラバスに記された授業の目的、授業概要、到達目標等を熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習 障害児の持つ困難を身近な体験から考察しておく。
2回目	障害児保育の歴史的変遷 障害児保育の発展と充実	予習 第2講を読み、戦前より前の障がい児者への支援などを理解しておく。
		復習 障害児教育の改革によって障害児保育に生じた影響をまとめる。
3回目	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助	予習 第5講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習 予想される保育上の課題を項目化し、ノートにまとめておく。
4回目	肢体不自由児の理解と援助	予習 第3講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習 予想される保育上の課題を項目化し、ノートにまとめておく。
5回目	知的障害児の理解と援助	予習 第4講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習 予想される保育上の課題を項目化し、ノートにまとめておく。
6回目	発達障害児の理解と援助 I	予習 第6講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習 予想される保育上の課題を項目化し、ノートにまとめておく。
7回目	発達障害児の理解と援助 II	予習 発達障がいのある人の「生きにくさ」について想像する。
		復習 「大人の発達障がい」について、保護者への支援のあり方を考察する。

8回目	障害のある子どもの発達と環境 個々の発達を促す生活と遊び	予習	第9講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	一人一人に合った支援計画を立てることの意義をノートにまとめておく。
9回目	子ども同士のかかわりと育ち合い インクルージョンの理解	予習	第1講のうち、「現在の障害児保育」について読み、さまざまな保育形態を理解しておくこと。
		復習	統合保育、分離保育、包括保育のメリット・デメリットを理解したうえで、どのような場面にふさわしいか考察する。
10回目	重症心身障害児、医療的ケア児、特別な配慮を要する子どもの理解と援助	予習	第7講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	医療的ケア児への支援の難しさを思い起こし、支援のあり方を考察する。
11回目	指導計画、個別支援計画の作成 計画の立て方と合理的配慮	予習	第8講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	社会的障壁にかかる合理的配慮について、授業で取り組んだ以外の場面について考察する。
12回目	保護者や家族への支援 障害の とらえ方とこころの過程	予習	第12講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	障がいのある子どもの親が抱く思いを、乳児から児童、青年期と、成長過程に伴う思いの変化を考察する。
13回目	関係機関との連携 巡回相談と 地域の専門機関	予習	第13講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	保育士以外の職員の役割を思い返し、事例について保育士以外の専門職の役割を考察する。
14回目	小学校との連携 障害のある 子どもの就学に向けての支援	予習	第14講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	小学校に進学することによる「段差」をどのように減らしていくのがよいかを考察する。
15回目	障害児保育の動向と展望 障害児 に関する制度の変化と地域ネット ワーク（まとめ）	予習	第15講を読み、ノートに要点を整理しておく。
		復習	障がい児者にかかる制度について、現在の課題を考察する。

◇使用テキスト・参考文献

『新・基本保育シリーズ 障害児保育』公益財団法人 児童育成協会 監修 西村重稀・水田敏郎 編集 中央法規出版

◇単位認定の方法及び基準

授業中の参加態度 10%、レポート 20%、試験 70%により総合評価する。

社会的養護Ⅱ

担当 熊澤桂子

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①子どもの権利擁護と、社会的養護の基本的な考え方を知る。
- ②施設養護、家庭養護における具体的な支援方法や考え方を学ぶ。
- ③今後の社会的養護のあり方と、その課題や展望について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

子どもの権利擁護を視点に、社会的養護で育まれる子どもの支援方法を知る。特に、子どもの最善の利益を考え実践する方法や、入所する子どもの特性を捉え、保育士として求められる子ども・親への関わり方を事例等で学習する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①社会的養護の基本的な内容が理解でき、子どもの置かれている現状、特性等がわかる。
- ②社会的養護に関わる相談援助の方法・技術を理解している。
- ③子どもへの不適切な関わりを防ぎ、その子どもや家庭支援について理解している。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	子どもの権利擁護	予習	児童の権利に関する条約について、調べる。
		復習	「子どもの最善の利益」「意見表明権」を理解し、授業内で行った演習課題をもう一度読む。
2回目	社会的養護における保育士等の倫理綱領、及び責務	予習	保育者として、子どもを支援するとき、大切だと思うことを文章でまとめる。
		復習	実習先の「保育士等の倫理綱領」検索し、大切な点をまとめる。
3回目	施設養護の特性及び実際Ⅰ（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）	予習	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設の施設特性を1年次の教科書から確認しておく。
		復習	社会的養護の状況にある子どもの、支援のポイントをまとめる。
4回目	施設養護の特性及び実際Ⅱ（障がいのある子どもの施設）	予習	障害児入所施設の施設特性を1年次の教科書から確認しておく。
		復習	障害のある子どもの支援と留意点をまとめる。
5回目	家庭養護の特性及び実際（里親、ファミリーホーム、養子縁組制度等）	予習	里親制度について、1年次教科書やデータブックで復習する。
		復習	里親養育の課題、子どもへの支援方法まとめる上で、授業内の「演習課題」をもう一度読んでみる。
6回目	社会的養護におけるケアマネジメント	予習	事前に指定した社会的養護にある子どものケースについて、問題点などを挙げておく。
		復習	グループ討議で発案された支援方法について、まとめる。
7回目	自立支援計画とその作成方法	予習	個別支援計画を作成するにあたり、施設での支援方法をもう一度確認しておく。
		復習	個別支援計画の作成する意味や、保育者としての支援方法を事例をもとにまとめてみる。
8回目	日常生活支援に関する事例検討と分析（障がいのある子ども等を例に）	予習	授業で指定した「障害のある子どもの支援」の事例課題を読んでおく。また課題点をあげる。
		復習	障がいの特性の理解と、支援するときの留意点を、自身の実習先をイメージしてまとめる。

9回目	心理的支援に関する事例検討と分析 (被虐待児童等を例に)	予習	授業で指定した「被虐待児」の事例を読む。また、保育者としての支援方法を2、3点挙げる。
		復習	被虐待児の特性を整理し、支援の留意点をまとめる。
10回目	自立支援に関する事例検討と分析 (退所後の児童のアフターケアを中心に)	予習	施設退所後の生活支援の箇所について、指定された教科書の箇所を読んでおく。
		復習	退所後の子どもたちの生活課題をまとめる。
11回目	記録の方法と自己評価(ケースカンファレンスへの取り組み)	予習	授業内で配布した資料に目を通す。仮想家族を考えてくる。
		復習	ジェノグラム、エコマップの書き方を確認する。
12回目	社会的養護における保育士の役割	予習	授業内に指定した児童虐待の事例を読み、関わり方を考えてみる。
		復習	施設保育士としての心得、子どもの権利擁護について、大切な点を確認する。
13回目	社会的養護におけるソーシャルワーク	予習	教科書第3章Ⅲ社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践を読む。
		復習	ソーシャルワークの原理、保育者としての支援のポイントを確認する。
14回目	施設の小規模化と地域連携、その課題と展望	予習	教科書：第4章社会的養護の課題と展望を読む。
		復習	社会的養護の地域連携、家庭支援の留意点をまとめる。
15回目	まとめ:社会的養護の課題と展望(より家庭的な養護をめざして)	予習	半期のレジュメを整理し、項目ごとに大切な点を確認する。取り扱った事例に再度目を通し、試験に備える。
		復習	社会的養護の今日的課題、保育者の倫理綱領、支援のあり方を振り返る。

◇使用テキスト・参考文献

『児童の福祉を支える 演習 社会的養護』吉田眞理 編著 萌文書林

『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック』中央法規（1年時「子ども家庭福祉」で利用したもの）

◇単位認定の方法及び基準

授業での事例等への取り組み 30%、課題の提出 20%、試験 50%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来 29 年間勤務。厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2 年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5 年）の実績を持つ。

子育て支援

担当 木村明子

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育士が行う子育て支援の意義や、具体的な内容を理解する。
- ②子育て家庭の保護者のニーズを理解し、その子どもや家庭に、具体的な相談、助言等を支援する方法を実践的な例や、ロールプレイ等を通じて学ぶ。
- ③様々なニーズを抱える子育て家庭について、その具体的な支援方法を事例等で具体的に理解する。

◇授業全体の内容の概要

今日、仕事と子育ての両立による悩みは、保護者のみで解決が難しい現状がある。そこで、子どもの健全育成を実践する専門職として保育士が行う子育て支援の方法、地域社会を視野に入れた子育て支援の展開や技術を、事例等を通し実践的に学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①保育士が行う子育て支援の活動内容、支援について理解している。
- ②保護者の悩みや家庭の背景を把握し、保護者と共に子どもの育ちの支援方法を考えられる。
- ③社会資源の活用や他機関との連携を通じて、子育て支援が展開できることを理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	子どもの育ちの支援と、保育士が行う子育て支援の意義	予習	シラバスに示された授業概要等を熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習	保育士が取り組む子育て支援の意義について、自分なりの考えを授業ノートに記しておく。
2回目	継続的に関わる保護者との関係作り（相互理解と信頼関係の獲得）	予習	教科書Lesson1を読み、保護者のさまざまな生活状況、家庭的背景について考える。
		復習	授業で扱ったケースをもとに、自分なりに対応を考え、ノートに記す。
3回目	子育て中の保護者のニーズ把握と、保育士の子育て支援	予習	子育て中の保護者にはどのようなニーズがあると考えられるか。箇条書きで挙げておく。
		復習	授業を振り返り、保護者のニーズの多彩さを確認しておく。
4回目	地域の子ども・子育て家庭に関わる活動と、支援方法	予習	自分の地域近隣にはどのような子育て支援グループ（NPO法人）があるか調べておく。
		復習	授業を振り返り、地域の子育て支援グループ（NPO法人）の活動の考えられる成果を挙げる。
5回目	保護者の相談援助①（基本的な相談援助の考え方、方法を理解する。）	予習	テキストLesson5の「事例」を読み込んでおく。
		復習	子育て支援の基本的技術について振り返り、自分が考えるところを授業ノートに記しておく。
6回目	保護者の相談援助②（相談の実際を想定し、インタビューとアセスメントを試みる。）	予習	教科書Lesson7を読み込んでおく。
		復習	「記録」で用いられる文体について、実例を添えつつノートにまとめておく。
7回目	保護者の相談援助③（支援計画、支援のための環境を整える。）	予習	子育て支援のための環境とは何か。考えをめぐらしておく。
		復習	支援のための環境を考える際に、必要な要素は何かを振り返り、授業ノートに記しておく。

8回目	保護者の相談援助④（記録の取り方、評価、カンファレンス）	予習	教科書Lesson 7 を再度読み込んでおく。
		復習	ケーススタディで頻出する用語を挙げ、その意味を確認する。
9回目	職員間の連携・協働と他機関との連携	予習	自分が勤務する園を想定し、園内の職員関係（人間関係）を円滑にしていくための手立てを考え、具体的に挙げておく。
		復習	授業を振り返り、支援のために必要な他機関にはどのような施設等があったか確認しておく。
10回目	子育て支援の実際①～事例検討やロールプレイを中心に～（保育所等における支援）	予習	教科書Lesson 8 を読み込んでおく。
		復習	保育所内で保育士が保護者支援に取り組む際の「話し方」について振り返っておく。
11回目	子育て支援の実際②（地域の子育て家庭に対する支援）	予習	教科書Lesson12 を読み込んでおく。
		復習	居住地の行政が配布している地域の子育て支援マップなどを集め、記述内容を確認する。
12回目	子育て支援の実際③（障がいのある子どもと家庭に対するの支援）	予習	別教科「障害児保育」での学びを振り返っておく。
		復習	障害をもった子どもと家庭への支援について、授業内容を振り返りまとめておく。
13回目	子育て支援の実際④（特別な配慮を必要とする子ども及びその家庭に対する支援）	予習	教科書Lesson 3 を読み込んでおく。
		復習	「子どもの最善の利益」とは何か、自分の考えを800字ほどで記しておく。
14回目	子育て支援の実際⑤（要保護児童等の家庭に対する支援）	予習	教科書Lesson4 を読み込んでおく。
		復習	地域の社会的資源との連携とはどういう取り組みを指すか、授業を振り返りまとめておく。
15回目	まとめ：多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と保育士の役割	予習	教科書Lesson15 を読み込んでおく。
		復習	教科書その他をもつて学んだことを振り返り、今後の保育所による子育て支援の可能性について800字ほどで記しておく。

◇使用テキスト・参考文献

『子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子 著 萌文書林 2018 年

『保育所保育指針 平成 29 年度告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度、グループワークなどへの参加状況、レポートおよび期末テストの成績から総合的に評価する。

教育方法論

担当 藤村公三郎

講義 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

（１）教育の方法論

一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

到達目標：１）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。

２）これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。

３）学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。

４）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」

（２）教育の技術

一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

到達目標：１）話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

２）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

（３）情報機器及び教材の活用

一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

到達目標：１）子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。

※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」

２）子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

◇授業の概要

子供の自発性、子どもたちに育みたい資質・能力を伸ばすために必要な教育方法のあり方(主体的・対話的で深い学びの実現等)を理解し、保育者として成長していくための土台を培う。

主体性を活かしながら、環境を通しての教育、遊びを通しての教育、一人ひとりの発達の特性に合った教育方法と技術を学ぶ。講義と演習を行い、演習はアクティブラーニングの手法を取り入れたり、情報機器を活用したりして行う。

◇授業計画

	内 容		
1回目	幼児教育にふさわしい教育方法とはなにか。教育方法について学ぶ意義を理解する。	予習	教科所の「はじめに」「編集委員の言葉」「目次」それぞれの「章」の構成を理解してくる。
		復習	それぞれの「章」の末にある「研究課題」「推薦図書」の中で興味があるものに下線を施す。
2回目	環境を通しての教育について理解する。	予習	教育と保育は何が違い何が同じか思いつくことを書いてみる。
		復習	保育の持つ意味を多角的視点で捉える。
3回目	幼稚園の遊びについて理解を深め、遊びを通しての指導について学ぶ。	予習	人間にとって「環境」とはなにか思いつくことを書いてみる。
		復習	事例の中から子どもと保育者の環境との多様なふれあいを感じとれたか。
4回目	幼児理解を根幹に置いて幼児の主体性を重視した保育について学びあう。	予習	主体性とはどんなことだろう。30字以内でまとめてみる。
		復習	子どもの主体性を伸ばす保育者の営みをいくつか挙げてみる。
5回目	主体的・対話的で深い学びの意義を理解し、方法の演習を行う。	予習	小学校・中学校を思い出し、主体的・対話的で深い学びとは何か書いてみる。
		復習	今日の授業で「主体的」「対話的」「深い学び」はどこにあったか。書いてみる。
6回目	様々な方法の保育形態について学び、評価についても理解する。自由保育 一斉保育など	予習	「遊びを通しての指導」とはなにか思いつくままに書いてみる。
		復習	遊びの特性 遊びを育む環境とは何と理解したかを考え短文でまとめてみる。
7回目	様々な方法の保育形態について学び、評価についても理解する。統合保育など。	予習	「見える保育」「見えない保育」とはなにか予想して書いてみる。
		復習	「見える保育」「見えない保育」との違いを80字以内で書いてみる。
8回目	領域の活動の具体的な場面について話し合い学びあう。言葉の指導方法を取りあげる。	予習	5領域とは何か書きだしてくる。領域と学校の教科の違いを説明できるようにまとめておく。
		復習	学んだ保育者の資質の向上を繰り返し読み、職に就いた時の自分の姿を想像する。
9回目	領域の活動の具体的な事例について話し合い学びあう。造形遊びの指導・技術を取りあげる。	予習	要領・指針の「表現」の部分を読んで理解してくる。
		復習	造形遊びにおける子どもの主体性を育む保育者の活動を事例の中で良いと思うところをまとめる。
10回目	日本の幼児教育に影響を及ぼしたフレーベルの幼児教育について学ぶ。	予習	フレーベル(の幼児教育)について3分位で話せるようにまとめておく。
		復習	グループや全体での話し合いの中で心に残る内容をまとめる。発表や運営の仕方でもよいと思った方法などのメモを整理し書き残す。
11回目	日本の幼児教育に影響を及ぼしたモンテッソーリの幼児教育について学ぶ。	予習	モンテッソーリ(の幼児教育)について3分ぐらいで話せるようにまとめておく。
		復習	グループや全体での話し合いの中で心に残る内容をまとめる。発表や運営の仕方でもよいと思った方法などのメモを整理し書き残す。
12回目	保育現場でとり上げられることの多い児童文化財に付いて学び幼児教育に活かす方法を学ぶ。	予習	児童文化財とはなにか30字以内にまとめて書く。
		復習	保育のなかで児童文化財への関わり方のポイントを整理しておく。
13回目	絵本を取り上げ、実際に読み聞かせを行い、互いに評価しあい、より良い指導技術を探る。	予習	自分が子どもたちに読み聞かせたい本を選んでおく。
		復習	それぞれの発表の中で心を動かした作品、その方法、話し合いの中身に ついて一覧表にまとめておく。
14回目	今までの講義や演習で行ったICTを振り返り、その活用方法、リテラシーについて学ぶ。	予習	学習した教科書、レジュメ、シートを整理して発表できるようにしておく。
		復習	発表した「私の学んだ幼児教育の方法」を見直し気付いた点を直したり書き加えたりする。
15回目	本講座のまとめ	予習	「私の学んだ幼児教育の方法」から二つの発表テーマを選んでおく。
		復習	自分で選んだ二つのテーマをそれぞれ800字以内でまとめる。

◇テキスト

『幼児教育の方法―保育の内容・方法を知る―』小田 豊 青井倫子 編著 北大路書房 2009 年

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇参考書・参考資料等

必要に応じ提示し、紹介する。レジュメ・資料・ワークシートを配布する

◇学生に対する評価

テスト (50%) 演習 (25%) レポート (25%)

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長 (30年)・教育委員会にて教育相談員 (2年) の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者 (3年)・文部科学省中央指導者研修会講師 (4年)、学童保育所 (4年6月) にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

幼児理解と教育相談

担当 会田朋世

講義 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

（１）教育の意義と理論

学校における教育相談の意義と理論を理解する。

- １）学校における教育相談の意義と課題を理解している。
- ２）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

（２）教育相談の方法

教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。

- １）幼児、児童及び生徒の不応適や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
- ２）学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
- ３）受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

（３）教育相談の展開

教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

- １）職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
- ２）いじめ、不登校、不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
- ３）教育相談の計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解している。
- ４）地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

幼児理解の理論及び方法

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

幼児理解の意義と原理

（１）幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。

- １）幼児理解の意義を理解している。
- ２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。
- ３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。

（２）幼児理解の方法

幼児理解の方法を具体的に理解する。

- １）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
- ２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。
- ３）幼児のつまづきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。

4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

◇授業の概要

教育相談は、幼児が人格形成の基礎を培う時期に人と関わることを楽しみながら教職員との信頼関係を築き、集団の中で適応する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児の発達の状況に即しつつ、個々の特質や課題を捉え、支援するために必要な基礎的な原理や技法を学ぶ。また、専門機関と連携して子どもと保護者を支えていくことの必要性を理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	幼児教育相談の意義—幼児教育相談が必要とされている背景を学ぶ	予習	シラバスを読む。
		復習	相談の役割を理解する。
2回目	子どもの発達の理解と援助—乳幼児の発達と保育者の援助を理解する	予習	乳幼児の発達の知識を復習する。
		復習	乳幼児期の保育について理解する。
3回目	幼児教育相談の理解と方法—カウンセリングの基礎知識と相談の基本的な進め方	予習	相談しやすい態度や言葉について考え、ノートにまとめる。
		復習	相談技術の基本についてノートにまとめる。
4回目	幼児教育相談の活用—個々の状況に応じた相談の段階と保育者の役割	予習	相談の内容を想像する。
		復習	相談の段階についてノートにまとめる。
5回目	幼児教育相談と保育①—不登園の事例を通して学ぶ	予習	不登園の子どもの気持ちを想像し、ノートにまとめる。
		復習	不登園の子どもと保護者への対応について、ノートにまとめる。
6回目	発達障がい理解—子どものニーズへの対応と保護者の障がい受容について考える	予習	障がいに関する知識を復習する。
		復習	発達障害のある子どもについて、プリントにまとめる。
7回目	幼児教育相談と保育②—つまずきの場面から子どもの育ちを考える	予習	発達障害の子どもに関する知識を復習する。
		復習	発達障害のある子どもの生活について、レポートを作成する。
8回目	子育ての支援のあり方—保護者への支援と子育て環境	予習	幼稚園実習で見聞した相談について、ノートにまとめる。
		復習	子育て支援の概要についてノートにまとめる。
9回目	地域社会・関係機関との連携—社会資源とのネットワーク作り	予習	関係機関に関する知識について、復習する。
		復習	関係機関との連携について、ノートにまとめる。
10回目	カウンセリングの基本的技法と相談の基本的態度の実践	予習	第3回の内容について復習する。
		復習	学んだことについて、プリントに記入する。
11回目	幼児教育相談と保育③—支援が必要な家庭の事例を通して目標の立て方と支援の進め方を理解する	予習	肯定的な言葉と否定的な言葉をプリントに書き出す。
		復習	学んだことについて、プリントに記入する。
12回目	保育者のメンタルヘルス—子どもの発するシグナルに気づくには	予習	ストレス解消法について考え、ノートに書き出す。
		復習	保育者として成長を続けるための方法をノートにまとめる。

13回目	幼児教育相談の現状と今後の課題	予習	これまで授業で学んだことをまとめ、試験に備える。
		復習	学んだことについて、ノートにまとめる。
14回目	アセスメントと子ども理解—子ども理解の意味と方法	予習	アセスメントに関する知識を復習する。
		復習	アセスメントの実際をプリントにまとめる。
15回目	援体制の整備と家庭や地域との連携—園内の協力体制と連携のあり方 まとめ 定期試験	予習	これまで授業で学んだことをまとめ、試験に備える。
		復習	これまで授業で学んだことを整理し、保育者の相談対応についてノートにまとめる。

◇テキスト

『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月』内閣府・文部科学省・厚生労働省
フレーベル館 2017 年

◇参考書・参考資料等

『親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック』

清水 勇・阿部裕子 著 学事出版 2006 年

◇学生に対する評価

授業中の参加態度・提出物・レポート（30%）、試験（70%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に 15 年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。
 - 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
 - 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
- (2) 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成の重要性を理解する。
 - 1) 乳幼児期の体の発達の特徴を説明できる。
 - 2) 乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
- (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。
 - 1) 乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
 - 2) 乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
 - 3) 危険に関してリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。
- (4) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を実践的に理解する。
 - 1) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
 - 2) 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
- (5) 多種多様な運動遊びを通して育つ資質・能力を把握する。
 - 1) 多種多様な運動遊びの持つ教育的な意義を脳科学的な視点から捉えられるようになる。
- (6) 身近な運動環境のもつ教育的な価値を理解する。
 - 1) 人と人との運動的な関わりの楽しさとその意義を体験的に理解する。
 - 2) 身近なもの（なわ、ボール、フープ、お手玉など）の価値の多様性を理解する。
 - 3) 身近なものを柔軟な発想で様々な利用し遊びを工夫したり考えたりすることが出来る。
- (7) 運動技能獲得の過程にある様々な資質・能力の育ちとその支援の在り方を理解する。
 - 1) 運動技能の獲得における人の存在の重要性について理解する。
 - 2) 今出来ていることを認める支援在り方の重要性について理解する。
 - 3) 運動技能獲得の実態を体験的に理解しながら支援の在り方を深める。
 - 4) 運動技能の運動技能獲得の達成感のみではなく、獲得のための多くの失敗経験に貴重な教育的な価値が存在していることを理解する。
- (8) 乳幼児期の健康課題について主体的に学ぶ姿勢を身につける
 - 1) 主体的に乳幼児期の健康課題について学び、発表する方法を理解する。

◇授業の概要

健康な心と体の育成に関して、温かい養護的な環境を基本として自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うため、領域「健康」の指導の基礎となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達、運動遊びにおいて、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて実践的に理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	オリエンテーション：乳幼児期の健康課題	予習	シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等についての事前確認。
		復習	乳幼児の健康課題について整理する。
2回目	乳幼児期の身体の発達の特徴・生理的機能の発達と特徴	予習	乳幼児の身体諸機能の発達について教科書を確認しておく。
		復習	乳幼児の身体諸機能の発達について整理し理解を深める。
3回目	乳幼児の健康・体力と生活：栄養・休養・運動の重要性	予習	基本的生活習慣とは何か、生活リズムの確立について教科書を確認しておく。
		復習	乳幼児の食育の支援のあり方について考察しまとめる。
4回目	乳幼児の健康・体力と生活：着脱衣・清潔・排泄等の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成とその意義	予習	着脱衣・清潔・排泄の習慣について教科書を確認しておく。
		復習	生活リズムの確立の支援のあり方について考察しまとめる。
5回目	乳幼児期の運動発達の特徴	予習	人間が歩くようになるためにはどれくらいの時間がかかり、何が必要なのかを考える。
		復習	乳幼児の動きの獲得に必要な支援について整理し理解を深める。
6回目	乳幼児の安全教育と危機管理	予習	安全生活の習慣や態度の形成について教科書を確認しておく。
		復習	安全管理及び安全教育のねらいと内容について整理し理解を深める。
7回目	乳幼児と安全・救急の基礎的知識及び技術・病気の予防	予習	乳幼児の不慮の事故及びリスクマネジメントについて教科書を確認しておく。
		復習	乳幼児の主な事故・病気とその対策・対応について整理し理解を深める。
8回目	運動技能獲得による子どもの資質・能力への影響とその支援の在り方	予習	人間が歩くようになるためにはどれくらいの時間がかかり、何が必要なのかを考える。
		復習	運動技能獲得についてのキーワードを整理し理解を深める。
9回目	運動遊びを通して育つ資質・能力とその支援の在り方 課題解決の過程の重要性	予習	実習での運動遊びを振り返り印象に残るものを選んでおく。
		復習	各自が選択した実習園での運動遊びについて、幼稚園教育要領を参照しながらその教育的意義を考察する。
10回目	運動遊び1 鬼ごっこの原点と代表的な鬼ごっこ	予習	自分の子ども時代の遊びについて振り返るとともに生活にみる遊びの変化の実態について教科書を確認しておく。
		復習	授業で取り上げた鬼ごっこを整理し考察する。
11回目	運動遊び2 お手玉・けん玉を使っ ての運動遊び	予習	お手玉を作成する。
		復習	授業で取り上げたお手玉使った遊びを整理し考察する。各自選択した健康課題及び運動課題に取り組む。
12回目	運動遊び3 短縄を使っ ての運動遊び	予習	自分の子ども時代の縄跳び遊びを振り返る。
		復習	授業で取り上げた縄を使った遊びを整理し考察する。各自選択した健康課題運及び動課題に取り組む。
13回目	運動遊び4 ボールを使っ ての運動遊び	予習	自分の子ども時代のボール遊びを振り返る。
		復習	授業で取り上げたボールを使った遊びを整理し考察する。各自選択した健康課題及び運動課題に取り組む。
14回目	運動遊び5 身近なもの（タオル・新聞紙）を使っ ての運動遊び	予習	身近なものを使っ ての運動遊びを考えておく。
		復習	授業で取り上げた遊びを整理し考察する。各自選択した健康課題及び運動課題に取り組む。
15回目	まとめ：領域「健康」に関わる研究課題発表会 定期試験	予習	健康に関わる課題発表のための準備を行う。
		復習	授業全体を振り返り総括する。

◇テキスト

「子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」改定第2版 ～乳幼児から幼児期の終わりまでを見通して～」 池田裕恵編著 杏林書院 2018年

◇参考書・参考資料等

『ここがポイント！3法令ガイドブッケー新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解のためにー』無藤隆 著 汐見稔幸 著 砂上史子 著 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、レポート・課題への取り組みと成果（50%）

言葉

担当 藤村公三郎

演習 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

自分と言葉の関係を常に見直し、人間にとっての言葉の意義や機能について理解し説明できる。言葉に対する感覚を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて理解する。幼児の言葉を育て想像する楽しさを広げる児童文化財について基礎的な知識を身につける。

◇授業の概要

日常生活の中で何気なく使っている言葉を、人間にとっての言葉とは何か、言葉を獲得することの意味は何か、人間と言葉の関係を自分に問い見直す。それを踏まえたうえで、幼児の言葉の獲得、言葉の発達過程、文字の習得の過程について理解し、言葉に対する感覚を豊かにする。想像する楽しさを広げるという視点から、児童文化財の意義について理解する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	人間にとって「言葉」とは何か；1)人間と言葉について 2)生活の中の言葉 3)言葉の不思議 4)保育における言葉	予習	教科書全体を大まかに読んでくる。教科書の編成の仕方を読み取る。
		復習	教科書の特徴、授業の進め方等の理解。言葉についての関心をもつ。
2回目	言葉の機能と意義について学ぶ；1)言葉の機能 2)コミュニケーションの道具としての言葉 3)思考の道具としての言葉 4)自己調整機能としての言葉	予習	人間にとって言葉とは何か、30字以内で書いてみる。
		復習	エピソードで挙げた様々な言葉の機能を自分の言葉で説明できるか。
3回目	言葉獲得の理論について学ぶ；1)言葉獲得の理論と基礎的要因認知論	予習	言葉を獲得するとはどういうこと、30字以内で書いてみる。
		復習	基礎的要因認知論を自分の言葉で説明する。
4回目	育ちと言葉について学ぶ；1)言葉の発達と環境要因 2)生活と言葉 3)対人関係と言葉 4)育ちと言葉	予習	子どもの成長と言葉の関わりを誕生から小学校入学まで説明する。
		復習	4つの項目を学び言葉についての新しい理解があったら書いておく。
5回目	言葉に対する感覚①；1)言葉のやり取りを楽しもうとする言葉に対する感覚を伸ばす。 2)泣き声・喃語・片言を育む保育者の愛着について学ぶ。 3)音声言語の発達と保育者の関わりについて学ぶ。	予習	言葉の感覚とは、愛着とは、音声言語の発達。言葉の意味として調べる。
		復習	それぞれの項目について具体的イメージはもてたか。疑問点を書き抜く。
6回目	言葉に対する感覚②；1)体験の中から話したいことを言葉にする感覚を磨く。 2)良き聞き手である保育者・愛着・子ども同士が話し合う機会の醸成・保育者自身の言葉について学ぶ。	予習	相手に話したくなる時は、その逆に嫌になる時はどんな時かまとめておく。
		復習	言葉の感覚の育成は愛着の関係や機会の醸成が大切であることをまとめておく。
7回目	言葉に対する感覚③；1)周りに対して注意して聞き、分かるように話す感覚の育成。 2)人間関係の中の言葉・言葉 とものを結ぶ。 3)言葉と行動・自然環境と言葉について学ぶ。	予習	どういう時に言葉を使うか、書き出してみる。
		復習	言葉の周囲に対する働きについて理解したことを確認する。
8回目	言葉に対する感覚④；1)日常のあいさつにおける言葉の感覚を大切に育てる。 2)人間関係の中での言葉・児童文化活動としての言葉について学ぶ。	予習	人とのあいさつのことばはどんなものがあるか、出来るだけ書き出す。
		復習	児童文化活動としての言葉を自分の言葉で説明できるようにする。
9回目	言葉に対する感覚⑤；1)言葉の楽しさや美しさに対する感覚の育成。 2)好きな人との対話から始まる言葉の発達過程、話す・聞く楽しさの気づきについて学ぶ。	予習	自分が感じる楽しい言葉や美しい言葉を出来るだけ書き出す。
		復習	話す聞くの楽しさ、美しい言葉との出会い。書き出してみる。

10回目	言葉に対する感覚⑥；1) 日常生活のなかで文字を使って伝える楽しさを味わう。 2) 文字言葉の豊かさ、園における文字環境の在り方、子ども個々への細やかな対応について学ぶ。	予習	話し言葉でなく書き言葉によって表現するものにはどんなものがあるだろう。
		復習	文字言葉の豊かさ、保育における文字環境の大切さをまとめる。
11回目	言葉を育て、想像する楽しさ①；1) 様々な児童文化財の概要を知る。 2) 児童文化財の歴史・その種類・子どもにとっての児童文化財の意義を理解する。	予習	児童文化財とはなにか調べてみる。
		復習	子どもたちにとっての児童文化財の利用、その大切さを捉えなおしてみる。
12回目	言葉を育て、想像する楽しさ②；1) 児童文化財と出会うことが子どもの発達についてどう影響するのか、様々な知見や研究実践を通して具体的に理解する。	予習	今までに自分が感動した児童文化財を思い出しまとめておく。
		復習	保育者になったら自分は児童文化財をどう利用するか考え挙げてみる。
13回目	言葉を育て、想像する楽しさ③；1) 絵本や物語に親しみ、想像する楽しさ、豊かな言葉の育ちを学ぶ。 2) 話の手順・素材の選択等の基礎的な知識について学ぶ。	予習	今までに一番感動した絵本・物語はと聞かれたら何と答えるか用意する。
		復習	早速、話題になった絵本や物語をさがしに図書館や書店に行ってみる。
14回目	言葉を育て、想像する楽しさ④；1) 言葉を育む楽しい種々の演出法や歴史を知り、言葉の発達過程や言葉の楽しさや美しさに対する感覚の育成。 2) 話す・聞く楽しさへの気づきについて総合的に考える。	予習	ことばに関しての楽しさをグループに発表できるよう準備する。
		復習	グループや全体での話し合いを思い出し、気に入った方法を試してみる。
15回目	まとめ；1) 講座の受講の振り返りと学習の確認 定期試験	予習	教科書とレジュメ、答えた課題を読み言葉について考えたことを書いてみる。
		復習	講座の受講の振り返りをし、言葉の豊かさについて800字でまとめる。

◇テキスト

『演習「保育内容 言葉」―基礎的事項の理解と指導法―』戸田雅美 編著 建帛社

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇参考書・参考資料等

必要に応じ提示し紹介する。DVD・レジュメ・資料・ワークシートを配布する。

◇学生に対する評価

試験（50％） 演習（25％） レポート（25％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長（30年）・教育委員会にて教育相談員（2年）の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者（3年）・文部科学省中央指導者研修会講師（4年）、学童保育所（4年6月）にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

音楽表現Ⅰ

担当 志田尾恭子

演習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
 - 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
 - 2) 表現を生成する過程について理解している。
 - 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
- (2) 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
 - 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

◇授業の概要

領域「表現」（音楽）の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

◇授業計画

	内	容
1回目	領域「表現」のねらい及び内容の理解 自分自身の表現を振り返り、その生成過程における「感じる・気付く・考える」といった内的な作用の重要性を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	予習 事前に授業科目概要を読んでおく。 領域「表現」のねらい及び内容を読んでくる。
		復習 声の表現について授業を通して気付いたことや学んだことをまとめる。
2回目	幼児の表現の発達の理解 乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解するとともに、乳幼児の音楽的表現について考える。	予習 幼児の表現の発達について調べてくる。
		復習 幼児の表現の芽生えや発達についてまとめる。
3回目	環境との対話① 身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性（気付き・思考・イメージ）を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性的な出会いの豊かな環境と表現の関係について理解する。	予習 「表現」と「環境」の関連性について自分の考えをまとめてくる。
		復習 本授業での気付きをワークシートにまとめる。
4回目	環境との対話② 「環境との対話①」において得られた感性的な出会いを、幼児の音楽的な表現活動に展開する可能性を探る。	予習 前回の授業で配布したワークシートに気付きをまとめ、発表できるように準備する。
		復習 「環境」と「表現」の関係性についてまとめておく。
5回目	イメージから音への表現 心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使って表現する。	予習 授業で指定する子どもの歌の歌詞を音読し、歌唱練習をしてくる。
		復習 授業を通して学んだことや気付いたことをまとめる。
6回目	歌唱・声を中心とした表現活動① 保育現場で歌われる、子どもの歌、季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような表現豊かな歌唱表現を身に付ける。またグループワークとして、幼稚園の一日の生活において、どのような場面で音楽活動を取り入れることができるかを考える。	予習 保育現場で歌われる、子どもの歌、季節の歌や行事の歌を調べる。
		復習 グループで話し合った内容をまとめておく。

7回目	歌唱・声を中心とした表現活動② 「歌唱・声を中心とした表現活動①」のグループワークにおいて考えた、幼稚園の一日の生活における音楽活動をグループごとに協働して表現する。歌唱や演奏の技法を深めるとともに、幼児の育ちや保育のねらいに合った教材やアレンジの仕方について考え実践する。	予習	前回、グループワークで取り組んだ内容をもとに指導案を作成する。
		復習	グループワークにおける自分の役割を理解しまとめておく。
8回目	歌唱・声を中心とした表現活動③ 「歌唱・声を中心とした表現活動①・②」におけるグループワークの発表を行い、表現することの楽しさを実感する。また他のグループの発表を通して、他者の表現を受け止め、共感し学び合い、より豊かな表現について考える。	予習	発表に必要な練習を行う。
		復習	自身の発表の振り返りをする。
9回目	歌唱・声を中心とした表現活動のまとめ 「歌唱・声を中心とした表現活動①・②・③」のまとめとICTを活用した振り返りを行い、表現する楽しさを生み出す音楽的要因について考える。	予習	自身や他者の発表を振り返り、気付いたことや学んだことを200字程度でまとめておく。
		復習	子どもの歌の歌唱表現における、楽しさを生み出す音楽的要因についてまとめておく。
10回目	音・歌遊びの「学び」の視点からの捉え方 幼児のわらべうたや手遊び歌を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。	予習	わらべうた、手遊び歌について調べる。
		復習	わらべうたや手遊び歌の特徴や意義を理解し、まとめる。
11回目	豊かな表現のために① 様々な音楽表現（声楽・器楽など）を鑑賞してイメージを豊かにし、表現の多様性を体験する。	予習	声楽曲や器楽曲について調べる。
		復習	鑑賞を振り返り、レポートを作成する。
12回目	豊かな表現のために② 唱歌・童謡を用いて、より豊かな音楽表現を身に付ける。	予習	唱歌、童謡について調べる。
		復習	唱歌や童謡の特徴や意義を理解し、まとめる。
13回目	豊かな表現のために③ アンサンブル（輪唱）を通して音や声の重なり合う美しさを体験する。また、様々な音楽表現（伝統芸能など）を鑑賞してイメージを豊かにし、表現の多様性を体験する。	予習	輪唱、合唱について調べる。日本の伝統芸能について調べる。
		復習	世界各国の民族音楽にどのようなものがあるか調べてまとめておく。
14回目	豊かな表現のために④ アンサンブル（合唱）を通して音や声の重なり合う美しさを体験する。	予習	前回の授業で取り組んだ合唱曲の練習をする。
		復習	輪唱や合唱の特徴や意義を理解し、まとめる。
15回目	総括 学習のまとめと振り返り 最終レポート 定期試験は実施しない	予習	これまでの授業を振り返り、学びや気付きを整理する。
		復習	領域「表現」のねらい及び内容を再確認し、自己課題をまとめておく。

◇テキスト

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林 2017年

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年

音楽ファイル

◇参考書・参考資料等

授業の資料として、必要に応じてプリントを配布する。

◇学生に対する評価

授業への取り組みに対する意欲や態度・提出課題等（60%）、グループワークへの取り組みと発表（30%）、最終レポート（10%） 以上により総合的に評価する。

音楽表現Ⅱ

担当 引地敦子

演習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
 - 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
 - 2) 表現を生成する過程について理解している。
 - 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
- (2) 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
 - 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開することができる。

◇授業の概要

領域「表現」（音楽）の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の音楽表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

◇授業計画

	内	容
1回目	音楽表現の源に出会う ―身体・気付き・対話をもとに― 表現とは何か、その源に出会う体験（伝え合う―受け止め合う）を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	予習 シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習 領域「表現」のねらい及び内容について理解したことをまとめる。
2回目	幼児の音楽表現の発達の理解 映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、幼児の素朴な表現に気付き、共感することができる。また、小学校低学年音楽科での学習内容を低学年の学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。	予習 実習での経験を思い出し、幼児の音楽表現の姿、発達についての事例をまとめておく。
		復習 授業で指導を受けた事柄と実践の場での幼児の音楽表現について結び付け理解する。
3回目	文化との対話① ―児童文化財「絵本」の実際と保育の中での活かし方―ある絵本を例に挙げ、そのお話の内容からどんな音楽活動ができるかを考える。	予習 絵本と音楽表現について調べる。
		復習 音楽表現活動へ繋げられる絵本を3冊探す。
4回目	文化との対話② ―児童文化財「絵本」や「ミュージックパネル」の実際と保育の中での活かし方―絵本やミュージックパネルを使って、お話の世界にいざない、子どもの“こころ”を育む想像的な音楽表現活動を考える。	予習 「パネルシアター」と「ミュージックパネル」の違いについて調べる。
		復習 「ミュージックパネル」を作成してみる。
5回目	素材との対話 ―スカーフの特性を活かして―身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を活かして音楽表現を体験し、幼児の表現活動に展開する可能性を探る。スカーフを色々なものに例え、イメージを豊かにし、想像的な音楽表現活動を行う。	予習 素材(スカーフ)を使ってどんな音楽表現活動ができるか想像し考える。
		復習 子どもと行うことを想定し、素材(スカーフ)を用いた音楽表現活動の簡単な指導案を考える。

6回目	他者との対話① ―コミュニケーションとしての表現活動―これまでに扱ってきた素材を活かし、子どもの歌に合わせ、グループで音楽表現を考える。	予習	グループで素材(スカーフ)を用いた音楽表現活動を行うため、一人ずつ動きの案を考える。
		復習	グループで決めた動きの確認をする。
7回目	他者との対話② ―コミュニケーションとしての表現活動―音楽表現活動のグループ発表	予習	素材(スカーフ)を用いた音楽表現活動のグループ発表のための練習を行う。
		復習	グループ発表の動画を観て振り返る。
8回目	手遊び歌を「学び」の視点から捉える。手遊び歌を体験することを通し、保育の中での活かし方や音楽的な「学び」について考える。	予習	手遊び歌が保育のどのような場面で活かされるか、音楽的な「学び」とは何かを調べる。
		復習	手遊び歌について学んだことをまとめる。
9回目	わらべうたを「学び」の視点から捉える。わらべうたを体験することを通し、保育の中での活かし方や音楽的な「学び」について考える。	予習	わらべうたが保育のどのような場面で活かされるか、音楽的な「学び」とは何かを調べる。
		復習	わらべうたについて学んだことをまとめる。
10回目	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。絵本の中の登場人物の心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。	予習	生活や遊びの中にある声や音に興味を持ち、保育の中での身近な声、音、楽器について調べる。
		復習	生活や遊びの中にある声や音、楽器が音楽表現活動に繋がることを考え、まとめる。
11回目	豊かな表現のために① 器楽合奏曲の分析(3歳児、4歳児、5歳児)を行う。	予習	幼児が器楽合奏を行うための楽器はどのような楽器がふさわしいか調べる。
		復習	年齢別にアレンジした器楽合奏曲の分析を行い、理解する。
12回目	豊かな表現のために② 器楽合奏(アンサンブル)を通じ、音の重なり合う美しさを体験する。	予習	年齢別にアレンジした器楽合奏曲を譜読みし、保育者として指導する際の注意点を考える。
		復習	授業で指導を受けた事柄を踏まえ、幼児が器楽合奏を行う際の進め方をイメージし理解する。
13回目	音楽遊び指導の実際 子どもの発達に即したねらいを定め、グループでテーマ、内容を考える。	予習	幼児と音楽表現活動を行うための指導案作成を考案するにあたり、一人ずつ内容を考える。
		復習	グループで話し合い、決定した自分の役割の部分を実践する。
14回目	音楽表現活動の実践、学習のまとめ・発表① 音楽を用いた主活動の実践	予習	自分の役割をシミュレーションして授業に臨む。
		復習	全体を見通しながら自分の立ち位置、役割を理解し改善する。
15回目	音楽表現活動の実践、学習のまとめ・発表② 音楽を用いた主活動の実践 定期試験 音楽表現活動の振り返り、レポート	予習	全体を捉えながらグループでの発表に向けて練習し臨む。
		復習	グループ発表を終え、自己、他者評価の意見を参考に振り返りをする。

◇テキスト

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林 2017年

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年

授業の資料として、必要に応じてプリントを配布する。

音楽ファイル

◇参考書・参考資料等

『すてきな保育者をめざして』改訂第2版 兼重祐子 監修 東京教育専門学校 2017年

◇学生に対する評価

①授業への取り組みに対する意欲や態度、発表等(40%) ②指導計画の立案、模擬実践(40%)

③最終レポート(20%)

造形表現

担当 鈴木一夫

演習 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 領域「表現」のねらい、内容を理解し、造形表現について、様々な表現の知識・技能・表現力を身につけ、感性を豊かにする。
- 1) 様々な素材・教材を通して、特性をいかした表現ができる。
 - 2) 表現することの楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について理解できる。
 - 3) 協同して表現することを通し、他者の表現を受け止め、より豊かな表現につなげることができる。
 - 4) 他領域、小学校低学年の表現の関連性について理解できる。
 - 5) 事例、ICT、映像を活用して表現活動を行うことができる。
- (2) 遊びや表現の違い方法について発達過程を理解する。
- 1) 遊びや生活における表現について理解できる。
 - 2) 表現の耐用性を理解し共感できる。
 - 3) 発達過程における表現方法や環境構成について理解できる。

◇授業の概要

領域「表現」のねらい、内容を理解し、幼児の表現の姿や、その発達過程を促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境構成などについて、他領域との関連を考えながら、主体的に知識・技能・表現力を身につける。

◇授業計画

	内	容
1回目	オリエンテーション・領域「表現」のねらい及び内容の理解 アンケート「小・中学校の造形表現」「制作物」	予習 領域「表現」を読んでおく。
		復習 表現について学ぶことをまとめる。
2回目	素材の特性、教材、用具についての理解 造形表現で用いる身近な素材、教材用具を具体的に調べる。	予習 教材、用具について何があるか考える。
		復習 制作にどのようにつながるかまとめる。
3回目	豊かな感性、表現する力を養い創造性を豊かにする。 様々な素材を用いて創造的な活動表現を楽しむ内容を考え、表現する。	予習 創造性を豊かにするものは何か考える。
		復習 表現活動に適しているものは何かまとめる。
4回目	生活や遊びの中で興味のあるものや経験したことの表現 興味のあるものや経験したことを、各自が選択し、かいたりつくったりする。	予習 あそびについて調べる。
		復習 あそびと表現についてまとめる。
5回目	表現の発達過程の理解 園見学、映像資料等を用いて具体的に表現活動について考える。	予習 発達過程について調べる。
		復習 発達過程に適した表現についてまとめる。
6回目	身近な自然環境との関連 自然、園内外、各施設等表現活動に関連するものを調べる。	予習 身近な自然環境を調べる。
		復習 環境に適した表現をまとめる。
7回目	身近な自然や身の回りのものへの関心を持ち、形、色、手触り等を楽しむ。 花、土、枝、水等を用いて表現をする。	予習 自然、身の回りのものについて調べる。
		復習 自然のものを利用した表現をまとめる。

8回目	形、色、手触り、大きな数量について考え、表現を楽しむ。様々な素材を用いて、イメージを豊かにし、工夫してかいたりつくったりする。	予習	表現を楽しむものは何か考える。
		復習	素材に適した表現をまとめる。
9回目	表現したものを室内に装飾し、適切な室内環境について考える。興味、関心を持てる室内環境について意見交換し具体的にしていく。	予習	室内環境について考える。
		復習	環境についてまとめる。
10回目	共同製作を通した、対話の大切さ、共感、違いの理解する。グループ別にテーマを選び制作する(季節、室内外装飾等)。	予習	共同制作の意味について考える。
		復習	共同制作の意見交換をまとめる。
11回目	伝統行事・遊びに親しみ表現する。行事・遊びに関するものを造形・身体・言葉・音楽表現等の関係を理解する。	予習	行事、遊びについて調べる。
		復習	表現の関連をまとめる。
12回目	具体的な保育内容を想定した指導案を作成する。素材、テーマ別に意見交換を行なう。	予習	表現指導について考える。
		復習	表現、テーマについて見直し、まとめる。
13回目	具体的な制作過程の検討する。グループ別に発表会等の原画を考え、制作過程の意見交換を行なう。	予習	制作過程とはなにか考える。
		復習	制作過程の意見交換についてまとめる。
14回目	造形表現のねらい、内容、学習内容をまとめる。表現等レポートにまとめる。	予習	表現について具体的に考える。
		復習	表現レポートを見直す。
15回目	まとめ・振り返り 表現について、ポートフォリオ、制作物、小学校との連携について	予習	全課題をふりかえる。
		復習	表現について全過程を整理する。

◇テキスト

『保育をひらく造形表現』槇 英子 著 萌文書林 2018年

◇参考書・参考資料等

適宜資料を配布・提示する

◇学生に対する評価

授業で製作した提出物 (70%)、提出レポート (30%)

音楽Ⅰ

担当 引地・志田尾・岩瀬・久道 演習 1年前期
中倉・森・中井

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①保育者の表現技術として必要とされるピアノの基礎的な奏法を学習する。
- ②楽譜を読み、理解することができる。
- ③正しい音（音程）、リズム、ハーモニーで演奏することができる。
- ④音楽の強弱、ニュアンスを表わすことができる。

◇授業の概要

教育・保育現場では、保育者が正しいピアノの奏法技術を持って、幼児と音楽との関わりを援助していくことが必要とされる。子どもの感性は、保育者の豊かな音楽表現力によって引き出されていくものである。音楽を通して、保育者と子ども達が一体となって感動を共有できるような保育者の豊かな音楽性を育てることを目指していく。

◇授業計画

	内 容		
1回目	ピアノ学習のための目的と心構え、 進め方等説明 ト音記号、ヘ音記号 ／音名その① 及び関連楽曲	予習	事前に授業科目概要を読む。ヘ音記号、ト音記号について調べる。 ピアノ教本のNo. 1～8の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 1～8他、指導を受けた点を復習する。
2回目	音名その②／リズムその①（四分音符、二分音符、付点二分音符、全音符、休符）及び関連楽曲	予習	音名、音符の種類について調べる。ピアノ教本No. 9～16他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 9～16他、指導を受けた点を復習する。
3回目	ハ長調の音階その①（構成とその弾き方、英米音名の理解）及び関連楽曲	予習	ハ長調の音階を調べる。ピアノ教本No. 17～23他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 17～23他、指導を受けた点を復習する。
4回目	拍子（4拍子、3拍子、2拍子） 及び関連楽曲	予習	拍子の仕組みについて調べる。ピアノ教本No. 24～26他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 24～26他、指導を受けた点を復習する。
5回目	和音について（二和音） 及び関連楽曲	予習	ピアノ教本No. 27～29他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 27～29他、指導を受けた点を復習する。
6回目	リズムその②（八分音符、タイと付点四分音符）及び関連楽曲	予習	タイの演奏法を調べる。ピアノ教本No. 30、31他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 30、31他、指導を受けた点を復習する。
7回目	音名その③（加線について、新しい音域）及び関連楽曲 まとめの曲の課題発表、選曲	予習	ピアノ教本No. 32～36他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 32～36他、指導を受けた点を復習する。
8回目	三和音の構成／主要三和音について（コードネームの理解）及び関連楽曲	予習	主要三和音について調べる。ピアノ教本No. 37～39他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 37～39他、指導を受けた点を復習する。
9回目	ハ長調における主要三和音とその使い方、及び関連楽曲	予習	ピアノ教本No. 40～44他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 40～44他、指導を受けた点を復習する。

10回目	リズムその③(十六分音符, 付点八分音符)	予習	ピアノ教本No. 45～47他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 45～47他、指導を受けた点を復習する。
11回目	速度標語、強弱記号の説明 及び関連楽曲	予習	速度標語、強弱記号を調べる。ピアノ教本No. 48～50他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 48～50他、指導を受けた点を復習する。
12回目	まとめの曲指導① 暗譜で弾く	予習	ピアノ教本No. 51、52、まとめの曲の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 51、52、まとめの曲の指導を受けた点を復習する。
13回目	まとめの曲指導② 表現力をつける	予習	ピアノ教本No. 53、54、まとめの曲の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 53、54、まとめの曲の指導を受けた点を復習する。
14回目	まとめの曲指導③ 仕上げ	予習	まとめの曲の予習をする。
		復習	指導を受けた点を復習する。
15回目	学習のまとめ ピアノ演奏・発表	予習	まとめの曲の予習をする。
		復習	指導を受けた点を復習する。

◇テキスト

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年

音楽ファイル

中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まとめの演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%

音楽Ⅱ

担当 引地・志田尾・岩瀬
中倉・森・中井

演習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①保育者のさらなるピアノ奏法技術の向上と、豊かな音楽表現力を高める。
- ②子どもたちが心地良く歌うことのできる「子どもの歌の伴奏法」を身につける。
- ③主要コードネームを理解し、簡易伴奏ができる。

◇授業の概要

保育者の奏でる心地よい音楽は、子どもの心や感性に響き、表現の芽の育ちにつながるがいえよう。ピアノの学びを通して、子どもの音楽表現を豊かに引き出していくことができる保育者の感性や音楽表現力を伸ばすことを目指していく。音楽Ⅰ（ピアノ）で取得した技術をさらに高め、子どもの歌の伴奏や主要コードネームによる簡易伴奏等の保育現場に必要な実践力を習得する。

◇授業計画

	内 容		
1回目	ト長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲	予習	事前に授業科目概要を読む。ト長調の音階構成を調べる。ピアノ教本のNo. 55～58の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 55～58他、指導を受けた点を復習する。
2回目	ト長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲	予習	ト長調の主要三和音を調べる。ピアノ教本No. 59、60他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 59、60他、指導を受けた点を復習する。
3回目	ト長調その③（コードネームのしくみ）/速度記号 及び関連楽曲	予習	ト長調で用いられるコードネームについて調べる。ピアノ教本No. 61、62他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 61、62他、指導を受けた点を復習する。
4回目	ヘ長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲	予習	ヘ長調の音階構成を調べる。ピアノ教本No. 63～66他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 63～66他、指導を受けた点を復習する。
5回目	ヘ長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲	予習	ヘ長調の主要三和音を調べる。ピアノ教本No. 67、68他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 67、68他、指導を受けた点を復習する。
6回目	ヘ長調その③（コードネームのしくみ）及び関連楽曲	予習	ヘ長調で用いられるコードネームについて調べる。ピアノ教本No. 69、70他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 69、70他、指導を受けた点を復習する。
7回目	ニ長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲 まとめの曲の課題発表、選曲	予習	ニ長調の音階構成を調べる。ピアノ教本No. 71～74他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 71～74他、指導を受けた点を復習する。
8回目	ニ長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲	予習	ニ長調の主要三和音を調べる。ピアノ教本No. 75、76他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 75、76他、指導を受けた点を復習する。
9回目	ニ長調その③（コードネームのしくみ）及び関連楽曲	予習	ニ長調で用いられるコードネームについて調べる。ピアノ教本No. 77、78他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 77、78他、指導を受けた点を復習する。

10回目	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ハ長調）及び関連楽曲	予習	ハ長調のコード（C、F、G、G7）を練習する。ピアノ教本No. 79～82他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 79～82他、指導を受けた点を復習する。
11回目	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ト長調）及び関連楽曲	予習	ト長調のコード（G、C、D、D7）を練習する。ピアノ教本No. 83、84他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 83、84他、指導を受けた点を復習する。
12回目	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ヘ長調、二長調）及び関連楽曲	予習	ヘ長調のコード（F、B♭、C、C7）、二長調のコード（D、G、A、A7）を練習する。ピアノ教本No. 85～89他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 85～89他、指導を受けた点を復習する
13回目	まとめの曲指導① 表現力をつける	予習	まとめの曲他の予習をする。
		復習	まとめの曲他、指導を受けた点を復習する。
14回目	まとめの曲指導② 仕上げ	予習	まとめの曲の予習をする。
		復習	まとめの曲の指導を受けた点を復習する。
15回目	学習のまとめ ピアノ演奏・発表	予習	まとめの曲（仕上げ）の予習をする。
		復習	指導を受けた点を復習する。

◇テキスト

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年

音楽ファイル

中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まとめの演奏・発表（60%）、授業への参加態度及び課題への取り組み（40%）

教育実習（前半）

担当 近喰晴子
木村明子

実習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①教育実習に必要な知識や技能を身につける。
- ②幼稚園の目的や保育内容など、幼稚園の概要を知る。
- ③オリエンテーション、見学、観察、部分参加、責任実習等実習の全体像を理解する。
- ④社会人としてのマナーや実習生として学びの姿勢を明確にする。

◇授業の概要

- ①映像教材を視聴し保育の場、子どもの様子など実習施設を知る。
- ②遊びや造形活動など教材研究をする。
- ③記録や指導案の書き方など実習に必要な書類の書き方や指導案を立案する。
- ④保育者にふさわしい立ち振る舞い方を身に着ける。

◇授業計画（1年次）

	内 容		
1回目	実習計画や教育実習の全体像を理解する。	予習	シラバスや学生便覧の実習に関する箇所を熟読し、実習に対するイメージを持って臨むこと。
		復習	幼稚園の概要を整理する。
2回目	実習に必要な書類を記入する。	予習	自己PRを文章にまとめてくる。
		復習	下書きした書類の清書をする。
3回目	見学実習の進め方と学びの視点。	予習	自己の園生活を思い出しまとめてくる。
		復習	見学実習のポイントをまとめる。
4回目	観察実習の進め方と観察の視点。	予習	身近な事象について観察したことを文章にまとめる。
		復習	観察のポイントについて整理する。
5回目	参加実習と部分実習。	予習	保育を展開するとはどんなことか考えてくる。
		復習	映像視聴後の感想をまとめる。
6回目	実習日誌の意義と記入上の留意点。	予習	なぜ記録を書く必要があるか考えてくる。
		復習	実習日誌の各ページに記入する事柄を整理する。
7回目	エピソード記録の書き方と振り返り。	予習	映像視聴後、印象に残った場面をまとめてくる。
		復習	予習でまとめた文を加筆訂正する。
8回目	実習の抱負と実習課題設定。	予習	実習中学びたいことをまとめてくる。
		復習	実習の抱負、課題をまとめる。
9回目	オリエンテーションの意義とオリエンテーション時に学んでくること。	予習	オリエンテーションとはどんなことか考えてくる。
		復習	オリエンテーションで学ぶことを整理する。

10回目	訪問時のマナー、実習生の心構え。	予習	社会人に必要なマナーを考えてくる。
		復習	実習生のマナー、心構えを整理する。
11回目	実習終了後の振り返りと自己評価。	予習	実習報告書等、提出できるようにしておくこと。
		復習	振り返りシートによる自己評価を行う。
12回目	実習体験報告。	予習	後輩に伝えたいことを整理してくる。
		復習	授業時の発表を整理する。
13回目	実習自己評価と学びの整理。	予習	チェックリストによる自己評価をしてくる。
		復習	自己課題をまとめる。
14回目	実習評価面談。	予習	実習での学びを総合的にまとめておく。
		復習	面談を通し指摘されたことをまとめる。
15回目	後期実習にむけ自己課題の整理と学習計画。 定期試験	予習	実習園で指摘を受けたことを整理する。
		復習	後半実習にむけた学習計画を作成する。

◇テキスト

『教育・保育実習テキストブッカー幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園一』小泉裕子・園田 巖 編著
建帛社 2020年5月

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

実習園評価（40％） 実習日誌評価（40％） 実習書類・レポート（20％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。（近喰）

教育実習（後半）

担当 近喰晴子
木村明子

実習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①幼稚園の機能や役割について理解する。
- ②幼稚園教諭の役割や職務について理解する。
- ③幼稚園や子どもをめぐるさまざまな問題に関心を持つ。

◇授業の概要

- ①前期実習を振り返り、園生活の様子や保育者の役割を整理する。
- ②部分・責任実習にむけ教材研究や指導案の作成をする。
- ③保育者として子どもへの基本的なかかわり方を整理する。

◇授業計画（2年次）

	内 容		
1回目	後期実習のねらいや目標について	予習	前半実習での学びを整理してくる。
		復習	後半実習体験や内容を整理する。
2回目	実習日誌を読み返し、実習園の保育活動や保育者の職務についての整理	予習	前半実習で学んだ保育者の職務を整理してくる。
		復習	保育を司るとはどんなことかまとめる。
3回目	前期実習日誌記入に対する評価と日誌の表記・表現方法などを学びなおし	予習	日誌記入上の諸注意について復習してくる。
		復習	記入上の諸注意をまとめる。
4回目	実習に必要な書類の記入	予習	実習書類の下書きをしてくる。
		復習	必要書類について提出できるように整えておく。
5回目	実習課題や学びの視点の作成	予習	後半実習の実習課題を考えてくる。
		復習	実習課題を日誌にまとめる。
6回目	部分実習・責任実習の意義と指導案について	予習	絵本を1冊用意してくる。
		復習	絵本の読み聞かせについて指導案を作成する。
7回目	教材研究と活動提案型指導案の作成	予習	責任実習で取り上げたい活動を考えてくる。
		復習	指導案を作成する。
8回目	責任実習指導案の作成	予習	幼稚園の1日の生活の流れを整理してくる。
		復習	主活動を中心とした責任実習指導案を作成する。
9回目	オリエンテーションや実習園訪問時のマナー	予習	訪問時のマナーについて復習してくる。
		復習	オリエンテーション時の学びや質問事項をまとめておく。
10回目	実習中の心得	予習	守秘義務、情報管理の必要性を調べておく。
		復習	実習中のルールについてまとめておく。

11回目	実習終了後の振り返り（「振り返りシート」を用いて個人的にまとめる）	予習	学びを整理し、報告書を記入できるようにしておくこと。
		復習	各種報告書を記入する。
12回目	実習体験を報告する（グループワークでの報告を通して共有する）	予習	体験や学びを報告できるよう準備をしてくる。
		復習	学びの共有化から今後の学習に取り入れたいことをまとめる。
13回目	実習自己評価と学びの整理	予習	書式に則り自己評価をしてくる。
		復習	教育実習学びの総括をする。
14回目	実習評価面談	予習	評価面談のむけ学びを整理してくる。
		復習	面談で指摘されたことをまとめる。
15回目	実習を通して学んだ保育者のかかわり 定期試験	予習	保育者の職務についてまとめる。
		復習	目指すべき保育者像をまとめる。

◇テキスト

一年次に使用したテキストを使用

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

実習園評価（40％） 実習日誌（40％） レポート・提出物（20％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育実習Ⅰ（保育所）

担当 兼重祐子

実習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育者を目指す学生としての自覚をより確かなものにし、これからの保育の学びにつなげる意識を持つ。
- ②観察や子どもとの関わりの中で、乳幼児発達の全体像を把握し、子どもの生活、遊び、興味や関心等を子どもの様子を観察したり関わったりしながら子どもの理解を深める。
- ③一日の流れを踏まえ保育所の機能の全体像を把握する。保育者の役割、仕事の内容を見学観察、または保育に参加するなどして実際から学び、保育環境づくりの重要性と保育者の保育意識を学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

保育園体験学習での学びや既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育・保育士の業務内容、子育て支援等を通して保育所の役割と機能を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

12日間の実習終了後、自己評価・巡回担当と実習評価面談をおこない今後の課題を明確にし、次回の実習につなげていく。

◇内容

保育所実習の内容は、実習園でのオリエンテーション及び12日間の実習によって習得するものである。

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもの援助や理解
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達課題に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

◇単位認定の方法及び基準

評価は、実習前に保育所に提出する書類の準備から始まり、実習園でのオリエンテーション、実習への取り組み(自己課題への取り組み・日誌等の提出物・出勤状況・実習態度)、実習園からの評価により総合評価をする。

保育実習指導Ⅰ(保育所)

担当 近喰晴子

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育者を目指す学生として保育実習の意義や目的を押さえ実習を通し、保育の仕事、子どもの人権、最善の利益の考慮、守秘義務等について理解する。
- ②保育実習を通して自己評価や省察を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
- ③実習日誌及び部分実習案を具体的に書けるようにする。

◇授業全体の内容の概要

保育実習指導Ⅰ(保育所)では、保育園における実際の保育を見学や観察を通して学ぶ事を目的とする。保育に参加することで乳幼児の保育方法、及び援助について知るだけでなく、保育園が持つ機能、保育士の職務内容等について学んでいく。

◇授業終了時の達成課題(到達目標)

実習を経験し、保育計画の必要性を知り、保育日誌や指導案を作成しながら徐々に計画する重要性を深めていく。実習後は直後指導や評価面談を通し、新たな課題や学習目標を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション ①保育実習の目的と意義 ②子どもの人権と最善の利益と考慮 ③プライバシーの保護と守秘義務について	予習	学生便覧、シラバス等を熟読し実習に対する予備知識を持ち授業に臨むこと。
		復習	実習までの予定を整理する。
2回目	実習の自己紹介をみんなの前で発表する。(1)前半グループ	予習	実践できる保育実技を整理してくる。
		復習	実習までに身に着けたい保育実技の目標を設定する。
3回目	実習の自己紹介をみんなの前で発表する。(2)後半グループ	予習	児童福祉法18条を調べてくる。
		復習	全国保育士会倫理綱領についてまとめる。
4回目	実習の内容(1)①実習オリエンテーションとは ②オリエンテーションの日誌の書き方と注意事項を確認し記入する。	予習	体験実習を通して学んだことをまとめてくる。
		復習	日課に沿った保育士の役割を整理する。
5回目	日誌の書き方(1)保育園の一日(午前)朝の準備から給食までの日誌を記入する。	予習	関連教科目を通して学んだことを整理してくる。
		復習	映像から学んだ子どもの様子についてまとめる。
6回目	日誌の書き方(2)保育園の一日(午後)午睡から降園までの日誌を記入する。	予習	保育士の職務についてまとめてくる。
		復習	保育士や子どもから学びたいことをまとめる。
7回目	日誌の書き方(3)保育者の配慮と意図を再確認しよう～事例問題から～ ①オリエンテーション報告書の記入	予習	自己PR、実習の抱負などをまとめてくる。
		復習	訂正箇所を改め、必要書類すべてを清書する。
8回目	中間テスト ①日誌の作成 ②個人票を作成	予習	紹介したいことをまとめてくる。
		復習	自己紹介のための教材を作成する。

9回目	①保育祭に参加し子どものかわりを十分に楽しみ実習生としての心構えを養う。②子ども観察のレポートをまとめる。	予習	実習期間中の保育について保育雑誌などで調べてくる。
		復習	季節、行事、使用教材などをまとめる。
10回目	部分実習案の書き方 (1) ①書き方のポイントを確認する。②ねらいを達成するための保育者の援助方法を学ぶ。③絵本の読み聞かせの指導案を作成	予習	読み聞かせしたい絵本を選び持参する。
		復習	絵本の読み聞かせについて指導案を作成する。
11回目	部分実習案の書き方 (2) ①準備する物や環境構成に配慮し導入、展開、まとめを意識しながら製作の指導案を作成する。	予習	指示された教材を準備する。
		復習	体験を振り返り指導案を作成する。
12回目	中間テスト 部分実習案作成	予習	オリエンテーション時の諸注意をまとめてくる。
		復習	オリエンテーションで学んでくることをまとめる。
13回目	施設実習体験報告会 ①来年の施設実習に向けて2年生から体験談を聞く。②レポートにまとめる。	予習	教育実習での学んだことをまとめてくる。
		復習	レジュメに沿ってまとめる。
14回目	実習直前指導 実習巡回教員による指導 ①実習の課題や目標を明確にする。	予習	見学実習の記録をまとめてくる。
		復習	直前指導で学びたいことをまとめる。
15回目	実習直後指導 実習巡回教員による指導 ①実習報告書記入 ②自己評価をおこなう。	予習	日誌をまとめてくる。
		復習	実習日誌を完成し実習園に提出する。

◇テキスト

『新基本保育シリーズ20 保育実習』監修 公益財団法人児童育成協会 編集 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子
中央法規出版

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業態度、発表会、提出物等から評価する。実習までの授業は特に出席を重視し、欠席回数が多い場合は実習見送りとなる場合がある為、必ず出席する事。(第一回目の授業で詳細は説明する。)その他、保育祭参加、体験報告会、実習直前直後指導も授業同様の位置づけとする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育実習Ⅰ（施設）

担当 会田朋世

実習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

児童福祉施設等の役割や機能を理解すると共に、施設職員の職務や専門性を学ぶ。特に、利用児（者）の人権や最善の利益、プライバシーの保護や守秘義務について、しっかり理解する。

◇授業全体の内容の概要

児童福祉施設等の一日の流れや利用児（者）の個々の生活、施設職員の職務を学び、児童や支援の必要な人への理解を深める。観察や利用児（者）との関わりを通して、様々な問題を総合的に考え、計画に基づく活動と支援を理解する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や利用児（者）との関わりを通して利用児（者）への理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、利用児（者）の保育や支援及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

◇実習の内容

1. 施設の役割と機能
施設における利用児（者）の生活と保育士の援助や関わり方を観察し、支援方法を学ぶ。
2. 利用児（者）の理解
利用児（者）一人ひとりの状態に応じた関わり方や支援の実践。
3. 施設における利用児（者）の生活と環境
計画に基づき、健康管理や安全対策に配慮した利用児（者）の生活を知る。
4. 支援計画と記録
支援計画・記録の活用方法を学ぶと共に自身の記録に基づき省察・自己評価を行なう。
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理、専門職としての保育士の役割を学ぶ。

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

実習の取り組み姿勢、日誌等提出物の内容と提出状況、自己評価票への取り組み等を総合して行なう。

保育実習指導Ⅰ（施設）

担当 会田朋世

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

施設実習の意義や目的について理解するために、それぞれの施設の役割や利用児（者）についての理解を深める。また、利用児（者）の最善の利益を尊重について理解し、施設職員の専門性や倫理、地域との関係について学び、実習における自己課題を明確化する。

◇授業全体の内容の概要

施設の役割や存在意義、それぞれの施設利用児（者）の特性、施設職員の職務と専門性および倫理観についてしっかりと理解し、実習における自己の課題を明確にする。実習に必要な技術や基本的な考え方を身に付け、実習を行う施設に限らず、児童福祉施設に関する知識を獲得し、実習に役立てる。

◇授業終了時の達成課題（到達目標）

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	施設実習の意義と目的 保育士と施設実習	予習	シラバスを確認する。
		復習	履修の諸注意を確認する。
2回目	施設実習への心構えと手続き 実習生としてのマナー	予習	実習開始までの手順を確認する。
		復習	施設実習の特徴を理解する。
3回目	入所施設の役割 日常生活と年間行事	予習	実習配属先を確認する。
		復習	配属施設の概要を調べる。個人票の下書きを作成する。
4回目	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（乳児院）	予習	乳児院に関する知識について復習しておく。
		復習	乳児院の生活と支援についてレポートにまとめる。個人票の清書をする。
5回目	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（児童養護施設）	予習	児相養護施設に関する知識について復習しておく。
		復習	児童養護施設の生活と支援についてレポートにまとめる。
6回目	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（福祉型障害児施設）	予習	障がい児施設（福祉型）に関する知識について復習しておく。
		復習	障がい児施設（福祉型）の生活と支援についてレポートにまとめる。
7回目	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（医療型障害児施設①）	予習	障がい児施設（医療型）に関する知識について復習しておく。
		復習	障がい児施設（医療型）の生活と支援についてレポートにまとめる。

8回目	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（医療型障害児施設②）	予習	保育と医療の連携について考える。
		復習	医療的ケア児の生活と支援についてレポートにまとめる。
9回目	利用児（者）の個別支援計画とは	予習	個別支援計画に関する知識の復習をする。
		復習	個別支援計画の用い方について理解する。実習課題について考える。
10回目	プライバシーの保護と守秘義務 施設利用児（者）の人権と最善の利益	予習	守秘義務に関する知識を復習する。
		復習	オリエンテーション日時の調整をする。
11回目	実習の計画とオリエンテーションの確認 実習日誌の書き方と提出の方法	予習	実習施設に関する情報、実習課題をまとめ発表の準備をする。
		復習	事前指導の内容を日誌に記入する。
12回目	利用児（者）とのコミュニケーション方法と留意点 施設職員としての保育士の役割と専門性	予習	オリエンテーション日時の確認をする。これまでに実習日誌を読む。
		復習	日誌の書き方を確認する。
13回目	他職種との連携の理解	予習	施設職員の職種を調べる。
		復習	チームで行う支援について理解する。
14回目	自己課題の確認と実習に必要な書類の確認	予習	必要書類の確認をする。
		復習	実習に向けて、最終確認を行う。
15回目	実習事後指導 実習自己評価と実習のまとめ	予習	実習内容をまとめる。
		復習	事後報告書を記入する。

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加態度（30%）、レポートの提出状況・内容（70%）で評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

保育実習Ⅱ

担当 兼重祐子

実習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①授業で学んだ乳幼児の発達段階における発達の特徴を実際の子どもの姿から再認識し、子ども理解を深めると同時に、子どもの心の動きを敏感に感じられる感性を培う。
- ②保育環境と子どもの育ちの関連性について実際の子どもの生活・遊び・保育内容から考察し、環境整備者としての役割を学ぶと同時に、自ら積極的に日々の実践を積み重ねる。
- ③子どもの実態に即した指導計画を作成し、実践する。
- ④育児相談、一時保育、延長保育、子育て支援や地域との交流等について理解を深め、保育所の社会的な意義や役割を把握する。

◇授業全体の内容の概要

保育実習Ⅱでは指導案や日誌に保育者の意図や配慮点を記入できることを目指す。保育所の役割、保育士の業務を再認識し、一人ひとりの子どもと関わり個人にあわせた対応をおこないながら学びを深めていく。

◇授業終了後の達成課題（達成目標）

12日間の実習終了後、自己評価・巡回担当と実習評価面談をおこない保育現場に出る前に何をする必要があるのか課題を明確にする。

◇内容

1. 観察に基づく保育理解
 - (1)子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2)保育士の動き、立ち位置等の観察
 - (3)保育所の生活の流れや展開の把握
2. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携
 - (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - (2)地域社会との連携
3. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解
4. 保育士の業務と職業倫理
 - (1)多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理
5. 自己課題の明確

◇学生に対する評価

評価は、実習前の実習園に提出する書類の準備から始まり、実習オリエンテーション、実習への取り組み(自己課題への取り組み、日誌等の提出状況、実習態度)、実習園からの評価より総合評価をする。

保育実習指導Ⅱ

担当 兼重祐子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①全日の指導計画を保育者の意図や配慮を汲み取りながら書けるようにする。
- ②子どもの安全について常に意識できるよう見通しをもって保育することを目指す。
- ③グループ発表会を通し、責任実習でおこなうレパトリーを確実に増やしていく。

◇授業全体の内容の概要

保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅰで学んだ保育所が持つ機能、保育士の職務内容、乳幼児の保育方法、援助等の基礎知識を基に保育者としての実践力を身につけていく事をねらいとする。

◇授業終了後の達成課題(達成目標)

最後の実習になるので、保育者の意図や配慮が書けるような実習日誌や半日、全日責任実習の指導案の書き方を理解できていることを目指す。実習終了後は保育者として自信を持って現場に巣立てるよう授業を通して実践力を身につけていく。

◇授業計画

	内	容
1回目	オリエンテーション ①個人票の作成 ②子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的指導とは ③発表会のグループ決め ④個人票作成	予習 個人票作成にあたり実習の抱負を文章化してくること。
		復習 グループ発表会の担当個所の準備をしておくこと。
2回目	中間テスト 部分実習案の書き方 (復習)	予習 次回の授業で絵本の指導案をしっかりと書けるよう、絵本を選択し内容を理解しておく。
		復習 グループ発表会の担当個所の準備をしておくこと。
3回目	保育の実践技術を活かした保育実践 グループ発表会(1)①乳児向きの製作、ゲーム、手遊び、歌、絵本の紹介を行い、責任実習への意識を高め、技術面を共有する。	予習 グループごとに発表準備と練習を十分にしておくこと。
		復習 グループ発表の内容を実習で生かせるようにまとめておくこと。
4回目	保育の実践技術を活かした保育実践 グループ発表会(2)①幼児向きの製作、ゲーム、手遊び、歌、絵本の紹介を行い、責任実習への意識を高め、技術面を共有する。	予習 グループごとに発表準備と練習を十分にしておくこと。
		復習 グループ発表の内容を実習で生かせるようにまとめておくこと。
5回目	部分実習案の返却 ①再度、保育者の意図・配慮、環境構成、指導案のねらい等、記入する内容を確認する。②記録における今後の自己課題を明確にする。	予習 『子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック』の指定個所を読んでおくこと。
		復習 保育者の意図・配慮で、自分が苦手になっているところを書き出しておくこと。
6回目	実習日誌、指導案の書き方の復習 ①保育者の意図、配慮、環境構成、日誌のねらいやまとめについて見ていく。②オリエンテーション報告書作成	予習 1年生の時に授業で行ったエピソード記録の書き方を確認しておくこと。
		復習 次回の授業で提出できるよう、オリエンテーション報告書を作成しておくこと。
7回目	保育現場における子どもの危険について(1)乳幼児の室内環境において危険なことを予想し改善策を考える。①子どもの保育と保護者支援について	予習 『子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック』の指定個所を読んでおくこと。
		復習 保育現場に潜んでいる危険な場所を書きまとめておくこと。
8回目	保育現場における子どもの危険について(2)実習園でおこった事故、園側の子ども・保護者対応、予防策、また保護者支援の実際を保育実習の場面からグループごとに話し合い発表する。	予習 実習期間中の宿題を授業で発表できるよう、まとめておくこと。
		復習 クラスでの発表を振り返り、配布したプリントに加筆しておくこと。

9回目	実習の自己評価をおこない今後の課題を明確にする。(1) 現場に向けて①ならし保育の進め方について	予習	実習報告書が書けるよう、今回の実習での学びを整理しておくこと。
		復習	次回の授業で提出できるよう、実習概要報告書を記入しておくこと。
10回目	現場に向けて(2)①これだけは押さえておきたい病気と園側の対応を学ぶ②受け渡しのロールプレイング ③おたより帳の書き方と記入	予習	お便り帳の役割は何か自分で考え、書きまとめてくること。
		復習	お便り帳を書いたの振り返りを行い、配慮点を加筆しておくこと。
11回目	現場に向けて(3)①おたより帳の返却 ②クラスだよりとは何か ③書く時のポイント ④クラス便りの作成	予習	クラスだよりをHPで検索し、どのようなことを書くのか事前に調べておくこと。
		復習	クラスだよりを次回の授業で提出できるよう、完成させておくこと。
12回目	保育祭 ①保育祭を通して、子どもとのかかわりを十分に楽しむ。 ②学校環境でどのような物・事が子どもにとって危険なのか配慮し準備をおこなう。	予習	子どもが安全に保育祭を楽しめるよう、環境に配慮しながら準備を行う。
		復習	保育祭中に危険だと思ったことを振り返り、書きまとめておくこと。
13回目	実習体験報告会 ①1年生に、実習の意欲が持てるよう自身の体験を話す。②今までご指導いただいたことを話す。	予習	1年生が実習がどのようなものなのか、わかりやすく説明できるよう、練習しておくこと。
		復習	自分が保育現場に出た時に役立つマニュアルの課題作業を行う。
14回目	実習直前指導 実習巡回教員による指導 ①実習の課題や目標を明確にする。	予習	事前に指定された実習日誌のページを全て記入しておくこと。
		復習	責任実習に向け、指導案等の準備をしておく。
15回目	実習直後指導 実習巡回教員による指導 ②実習報告書の記入 ③お礼状の作成	予習	実習日誌の、実習のまとめを完成させ、誤字脱字、適切な文章表現であるかを確認し完成させておくこと。
		復習	お礼状を自分の言葉で書き上げ、投函すること。

◇テキスト

『子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック』 茗井香保里 編著 大学図書出版

◇学生に対する評価

授業態度、提出物等、学内評価を総合し評価する。実習までの授業は特に出席を重視し欠席回数が多い場合は実習見送りとなる場合がある為、必ず出席する事。(第1回目の授業で詳細は説明する)その他、体験報告会、保育祭参加、実習直前直後指導も授業同様の位置づけとする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育実習Ⅲ

担当 会田朋世

実習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

施設で働く保育士の専門性をより高めるために、施設の役割や利用児（者）についての理解を一層深める。家庭と地域の生活実態に触れて、保護者支援、家庭支援のための知識や技術を養い、個別支援のあり方や多様な専門職との連携について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

これまでの実習、特に保育実習Ⅰ（施設）の学びを発展させ、施設で働く保育士としての専門性を身に付けるために常に課題意識を持って実習を行う。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職倫理について具体的な実践結びつけて理解する。
4. 実習における自己の課題を理解する。

◇実習の内容

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能の理解
2. 施設における支援の実践
 - （1）受容し、共感する態度
 - （2）個人差や生活環境に伴う利用児（者）のニーズの把握と理解
 - （3）個別支援計画の作成と実践
 - （4）利用児（者）の家族への支援と対応
 - （5）各施設における多様な専門職との連携・協働
 - （6）地域社会との連携・協働
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

実習の取り組み姿勢、日誌等提出物の内容と提出状況、自己評価票への取り組み等を総合して行なう。

保育実習指導Ⅲ

担当 会田朋世

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

施設で働く保育士としての専門性をより高めるために、施設の役割や利用児（者）の特性や地域・家庭との関係について理解を一層深めるとともに、職業倫理について考える。また、個別支援のあり方や多様な専門職との連携について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

保育実習Ⅰ（施設）の内容をふまえ、目的をもって実習に臨めるように自己課題を明確にする。また、既習の教科の内容や見学を通して施設の役割と利用児（者）およびその家族の特性に関する理解をより深め、保育士として、利用児（者）の最善の利益を考えた支援とは何かを考える。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	実習の意義と目的および手続き	予習	シラバスを読む。実習配属先を確認する。
		復習	2回目の施設実習の意義を考える。見学する施設について考える。
2回目	過去の実習の振り返り ①乳児院・児童養護施設	予習	1回目の施設実習の内容をまとめる。個人票の下書きを作成する。
		復習	1回目の施設実習の課題をまとめる。オリエンテーション日時を調整する。
3回目	過去の実習の振り返り ②障害児（者）施設等	予習	1回目の施設実習の内容をまとめる。個人票を清書する。
		復習	1回目の施設実習の課題をまとめる。
4回目	実習施設の概要と支援方針 施設利用児（者）およびその家族の 特性について	予習	実習配属施設の概要を調べる。オリエンテーション日時の確認。
		復習	各施設の概要・方針をまとめる。実習自己課題を考える。
5回目	個別支援計画とソーシャルワーク	予習	個別支援計画に関する知識を復習する。
		復習	ソーシャルワークについてまとめる。
6回目	実習概要の確認と自己課題の明確化 保育士倫理について	予習	自己課題を確認する。
		復習	保育士倫理について理解する。
7回目	保育の実践力の育成 利用児（者） の状況に応じた関わり	予習	施設利用者の状況を調べる。
		復習	利用者の状況や特性に応じた支援について考える。

8回目	実習直前指導 実習への心構えおよび自己課題の確認	予習	実習施設の概要、自己課題を確認する。
		復習	実習施設の概要、自己課題を日誌に記入する。
9回目	実習事後指導 実習体験の振り返り 実習での学びおよび自己課題の総括	予習	実習内容をまとめる。
		復習	実習内容報告を日誌に記入する。
10回目	実習報告書・実習事後指導記録の記入	予習	実習内容をまとめる。
		復習	実習事後報告書を記入する。
11回目	施設・福祉関係機関等見学の事前学習①	予習	見学する施設について調べる。
		復習	見学する施設について資料を作成する。
12回目	施設・福祉関係機関等見学の事前学習②	予習	見学する施設で学びたいことをまとめる。
		復習	見学する施設について資料を作成する。
13回目	施設実習体験報告会	予習	2回の施設実習の内容をまとめる。
		復習	報告会のレポートを作成する。
14回目	施設・福祉関係機関等見学	予習	見学の日時・場所を確認する。
		復習	見学のレポートを作成する。
15回目	施設等見学の振り返り 施設保育士の職務と専門性 総まとめ	予習	見学での学び、課題についてまとめる。施設保育士の専門性について考える。
		復習	実習・見学を通して学んだことや感じたことをまとめる。

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加態度（30%）、レポートの提出状況・内容（70%）で評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

教職・保育実践演習

担当 近喰晴子

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①これまでの学びを振り返り、幼稚園教諭に必要とされる知識・技能等について討論し実践力の向上を図る。
- ②幼稚園教諭の役割や職務内容、専門性についてグループ討論等を行うことで幼稚園教諭の職務を総合的に理解する。
- ③映像教材の視聴やロールプレイングを通し幼児理解や指導・援助のあり方を理解する。
- ④子どもや保育周辺の諸問題について関心を持ち、調査・研究を行うことで幅広い視野を持つ。

◇授業の概要

- ①履修カルテを作成することで、自己の学びを振り返り、学びの総括をする。
- ②自己課題を明確にし、卒業までの学びの計画を作成する。
- ③映像や事例を用いてグループで話し合いを行う。
- ④保育周辺の諸問題に関心を持ち、調べたり発表をする。

◇授業計画

	内 容		
1回目	教職実践演習の位置づけ	予習	シラバスを熟読し、科目設定の趣旨を理解したうえで授業に臨むこと。
		復習	配布したレジュメに沿ってレポートをまとめる。
2回目	履修カルテとは	予習	これまでの全ての学びについて整理して授業に臨むこと。
		復習	履修カルテを作成する。
3回目	学びの振り返りと自己課題	予習	作成した履修カルテから自己の学びの傾向をまとめてくる。
		復習	卒業までに自己課題を解決するための方法をまとめる。
4回目	実習の振り返りと保育者の役割	予習	実習を通して学んだ保育者の役割について整理してくる。
		復習	事例に基づき保育者の役割を考察する。
5回目	保育の場における保育実践力とは	予習	保育の実践とはどんな営みか考えてくる。
		復習	保育実践のあり方についてまとめる。
6回目	発達支援と保育者のかかわり、映像教材を通して	予習	発達支援の具体的事例をまとめてくる。
		復習	映像から学んだことをまとめる。
7回目	子ども同士のトラブルへのかかわり、映像教材を通して	予習	実習中体験したトラブル場面を整理してくる。
		復習	多様な保育者の関わり方を整理する。
8回目	配慮を必要とする子どもへのかかわり	予習	実習中体験したトラブル場面を整理してくる。
		復習	専門機関との連携のあり方についてまとめる。
9回目	保育者の専門性、KJ法によるグループ討論	予習	専門性とはどのようなことか調べてくる。
		復習	発表から学んだことをまとめる。

10回目	発信者としての保育者、プレゼンテーション、ドキュメンテーション	予習	保育の場における記録について調べてくる。
		復習	保育の一場面についてドキュメンテーションでまとめる。
11回目	自己省察とPDCA	予習	実習中の振り返りの事例を報告する。
		復習	PDCAサイクルの必要性をまとめる。
12回目	保育を取り巻く現代的課題	予習	各教科で学んだ保育の問題について整理してくる。
		復習	保育雑誌、新聞記事などから保育問題をまとめる。
13回目	課題研究と資料収集	予習	関心を持った問題に関する資料収集をする。
		復習	資料を活用し問題をまとめる。
14回目	研究発表と討論	予習	発表原稿をまとめる。
		復習	発表練習をする。
15回目	学びを総合的に捉えなおす 定期試験	予習	効果的な発表ができるようにしてくる。
		復習	発表後の感想をまとめる。

◇テキスト

『保育・教職実践演習 ―保育者に求められる保育実践力―』小原敏郎 著 建帛社 2018 年

◇参考書・参考資料等

『子ども白書 2019』日本子どもを守る会著 本の和泉社 2019 年

『日本子ども資料年鑑 2019』母子愛育会研究所 KTC 中央出版 2019 年

◇学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加・態度（30%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育原理Ⅱ

担当 清家弘子

講義 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育の意義及び目的、法令制度を再確認する。
- ②「保育」とは何か、現代社会に求められる「保育者」を理解する。
- ③保育の現状や課題を分析し、保育者のあり方を個々に導きだしていく。

◇授業全体の内容の概要

1年次に履修した「保育原理Ⅰ」を踏まえ、より具体的、実践を通して学んでいく。また、他教科との関連を意識し、保育者として知っておきたい知識を再確認、保育理解を行う。本講義を通して、一人ひとりが「子ども観」・「保育観」を見つめ直し、保育現場につながる学びから自分の保育像を深めていく。

◇授業終了時の達成課題(達成目標)

保育の現状や課題の学びから現場でも学び続ける意味とその心構えを授業を通し理解する。

◇授業計画

	内	容
1回目	オリエンテーション (1)保育の目的 ①保育対象としての子ども ②子どもとかわる上で保育者が大切にすること	予習 実習を通して感じた「保育とは何か」をまとめる。
		復習 どんな保育者になりたいか今の気持ちをまとめる。
2回目	保育の基本(1) ①保育の基盤と養護の意味 ②保育者に求められる専門性とは	予習 保育の養護とは何か調べておく。
		復習 実習した中で当てはまる養護を考える。
3回目	保育の基本(2) ①保育所とは ②幼稚園とは ③認定こども園とは	予習 保育所・幼稚園・認定こども園の特色をまとめる。
		復習 それぞれの違いを振り返る。
4回目	保育における様々な配慮(1) ①子どもの健康と安全 ②保育所・幼稚園・認定こども園等における食育	予習 危機管理・食育についてどのようなことが出来るかまとめる。
		復習 保育者になった時、自分は何をしたいかまとめる。
5回目	保育における様々な配慮(2) ①特別な配慮を要する子どもの支援 ②園生活における行事 ③行事の計画及び評価・反省	予習 特別な支援とはどのような事が具体例を挙げる。子どもにとっての行事とは何かまとめてくる。
		復習 子どもたちの生きる力とは何かまとめる。
6回目	保育における様々な配慮(3)保育実習終了後グループで以下について話し合い発表する ①実習園でおこなわれていた食育の取り組み内容 ②障がい児、気になる子どもの関わり方について	予習 実習で経験した食育の取り組み、支援が必要な子についての実践例を紹介できるようにしておく。
		復習 授業を通して知った実践をまとめる。
7回目	保護者支援(1) ①子どもの最善の利益と考慮 ②成長の喜びの共有 ③秘密保持について	予習 保護者との関わりについてどのようなことが想像できるか考えられる事をまとめてくる。
		復習 授業を通して知った実践をまとめる。
8回目	保護者支援(2) ①保育の専門性を活用した保護者支援 ②特別なニーズをもつ家庭への支援	予習 保育者が出来る保護者支援とは何か調べてくる。
		復習 現場に出た時に子どもの存在を真ん中にして保護者と関わることをイメージしておく。
9回目	保育の専門性と質の向上(1) ①保育の質の向上に向けた取り組み ②保育の質の向上と施設長の責務	予習 保育の専門性とは何か考えられることをまとめてくる。
		復習 これまでに学んだ専門性についてまとめる。

10回目	保育の専門性と質の向上(2) ①保育の質とチームワーク ②保育所・幼稚園・認定こども園等における研修	予習	保育現場でのチームワークとは何か考えまとめてくる。
		復習	チームワークが保育の質の向上に繋がる良さを自分なりにまとめる。
11回目	保育の評価と改善 ①保育所における第三者評価授業とは ②幼稚園における学校評価とは	予習	第三者評価・学校評価について調べてくる。
		復習	授業を通して学んだ事をまとめる。
12回目	保育所等における苦情解決制度 ①苦情解決制度とは ②苦情の対応から質の向上へ	予習	苦情解決制度について調べてくる。
		復習	授業を通して学んだことをまとめる。
13回目	諸外国の保育の発表会(1) ドイツ・オーストラリア ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について	予習	ドイツ・スウェーデンの保育の特徴・方法・形態について調べ、発表できるようにしてくる。
		復習	他生徒の発表を聞いて諸外国の保育をまとめる。
14回目	諸外国の保育の発表会(2) アメリカ・中国 ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について	予習	アメリカ・カナダの保育の特徴・方法・形態について調べ、発表できるようにしてくる。
		復習	他生徒の発表を聞いて諸外国の保育をまとめる。
15回目	諸外国の保育の発表会(3) 韓国・イギリス ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について ③後期のまとめ	予習	保育とは何かこれまでの授業を通して学んだことをまとめてくる。
		復習	子どもにとってどのような保育者でありたいかまとめる。

◇テキスト

『0歳～6歳心の育ちと対話する保育の本』加藤繁美 著 学研教育みらい

◇参考書・参考資料等

『保育原理－生きる力を育む基礎 15 のメッセージ』 大戸美也子・新澤誠治・日吉佳代子編著

◇学生に対する評価

授業中の積極的参加・授業態度・課題提出・発表会等により総合評価をする。

児童家庭福祉Ⅱ

担当 北川裕子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

子育て、養育、養護ケアについて多角的な視点をもつ。

児童家庭福祉に関する具体的事例の考察を通じて、保育専門職に必要な知識や、人権尊重の姿勢を身に付ける。

◇授業全体の内容の概要

福祉的観点から養育の責任や人権尊重について深める。これらを通して、保育者の基盤となる知識や理念を理解するとともに、より深い保育観・養育観の形成につなげていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

養育の責任について考え、自分の意見を持ち、事案を冷静に分析する力、問題を筋道立てて解決する力につなげる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容	
1回目	近年の児童家庭福祉について	予習 シラバスの授業の目的、到達目標、業概要等を読み、これから学ぶ内容をイメージする。
		復習 児童家庭福祉Ⅰで学んだことを復習し、児童家庭福祉の課題を考える。
2回目	公的な児童課程福祉サービスと家庭	予習 個人、又はグループで調べ学習を行う予定である。自分がどのようなことを調べ、深めたいかいくつか考えておく。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
3回目	児童虐待の急増とその背景	予習 決定したテーマに沿って、インターネットや書物を利用しながら、調べ学習を進める。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
4回目	児童虐待から児童を守る制度・法システム、行政・民間の取り組み	予習 決定したテーマに沿って、インターネットや書物を利用しながら、調べ学習を進める。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
5回目	児童虐待問題に対する保育所・保育士の役割	予習 決定したテーマに沿って、インターネットや書物を利用しながら、調べ学習を進める。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
6回目	児童福祉施設における児童の人権問題	予習 調べ学習の総括をし、レジメにその内容をまとめる。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。またレジメが未完成の学生は、レジメを作成する。
7回目	児童の保健の現状と課題	予習 調べ学習の発表者の内容について、事前に各自下調べをしておく。発表者は発表に向けた取り組みを行う。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
8回目	ひとり親家庭の福祉の現状と課題	予習 調べ学習の発表者の内容について、事前に各自下調べをしておく。発表者は発表に向けた取り組みを行う。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
9回目	障がい児の福祉の現状と課題	予習 調べ学習の発表者の内容について、事前に各自下調べをしておく。発表者は発表に向けた取り組みを行う。
		復習 授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。

10回目	非行児童の福祉の現状と課題	予習	調べ学習の発表者の内容について、事前に各自下調べをしておく。発表者は発表に向けた取り組みを行う。
		復習	授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
11回目	健全育成の現状と課題	予習	調べ学習の発表者の内容について、事前に各自下調べをしておく。発表者は発表に向けた取り組みを行う。
		復習	これまでの他者の調べ学習の発表を受けて、関心の深かった内容について、レポートする。
12回目	里親制度の現状と課題	予習	児童家庭福祉に関する最近のニュースを検索し、子どもをとりまく状況について、意見交換できるよう準備する。
		復習	授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
13回目	子育て支援と地域福祉の現状と課題	予習	児童家庭福祉に関する最近のニュースを検索し、子どもをとりまく状況について、意見交換できるよう準備する。
		復習	授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
14回目	児童家庭福祉の展望と課題	予習	これまで学んできたことを踏まえ、改めて児童家庭福祉の課題について考えておく。
		復習	授業に関連する事例について取り組み、自分の考えをまとめる。
15回目	まとめ	予習	保育者として、どのようなことを大切に子どもと関わりたいか、まとめておく。
		復習	試験で出された内容について、調べ直し、考察を深める。

◇テキスト

テキストは購入不要。参考文献は必要に応じて紹介する。

◇学生に対する評価

調べ活動、発表など授業中の参加態度（10%）、提出物、レポート（30%）、試験（60%）による総合評価。

臨床心理学

担当 丸林さちや

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

精神内界を理解する理論を学び、人間の発達を臨床的視点から捉えなおす。自己肯定感を育てる保育のために、子どもの育ちをエピソードで描く考え方を学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

子どもや保護者、職場の人々を理解する時の精神力動と関係発達の理論を学び、他者理解をする方法を得る。また子どもの姿をエピソードで描き心理学の知見を活かす。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

他者理解の方法を広げ、保育者としての自己理解にも結び付けられるようにする。保育の場で用いるエピソード記述を理解し、事例を読み解けるようになる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	臨床心理学とは何かー臨床心理学を概説し、導入としてグループ体験を行うー	予習	臨床心理学についての各自のイメージを思い浮かべてくる。
		復習	体験学習から学んだことを書き出す。
2回目	精神分析 無意識 フロイトー無意識、葛藤、自我をキーワードとして、心の構造を学ぶー	予習	無意識とは何か、調べてくる。
		復習	日常生活についての自己決定について、フロイトの自我構造を使い各自で分析をしてくる。
3回目	交流分析① エゴグラム パーソンー自己理解のための質問紙法を用い人格構造を理解するー	予習	自分の長所、短所は何か考えてくる。
		復習	人格構造の5つの視点についてまとめる。
4回目	交流分析② 理論 パーソンー他者との交流パターンの分析や、自己肯定他者肯定を知るー	予習	各自が持つエゴグラムの特徴によって人の交流が生まれる時、どのようなことが起こりそうか予想してくる。
		復習	交流のパターンを理解するため学んだことをまとめる。
5回目	乳幼児期の発達 マーラーー3歳児までの母子関係の変化と、分離個体化の発達を理解するー	予習	乳幼児の心の発達を考えるために、どのような時どんな気持ちになるのか予想しておく。
		復習	乳幼児にとって重要な他者との関係をまとめる。
6回目	生涯発達 エリクソンー人の生涯にわたる発達について、8段階に分け解説するー	予習	生涯の発達を学ぶため、自己の今に影響を与えた人が誰だったか考えておく。
		復習	生涯発達の視点の大切さはどこにあるのか書き出す。
7回目	青年期と児童期の架け橋①ー発達段階の積み重ねを、資料映像を通して考えるー	予習	青年期と児童期の発達課題は何か覚えてくる。
		復習	資料映像の前半部分について、感想を書く。
8回目	青年期と児童期の架け橋②ー資料映像の感想を話し合い、成長がどう遂げられるか知るー	予習	青年期と児童期のつながりにどのような意味があるか、考えてくる。
		復習	人の成長について、資料映像から何を学べたか書き出す。
9回目	来談者中心療法 ロジャーズー他者援助に必要な、受容・共感・自己一致について学ぶー	予習	相談を受ける時の基本として挙げられる、受容・共感・自己一致について調べてくる。
		復習	これら3つのことがなぜ大切なのか、その理由を考える。

10回目	教育場面での子どもの理解ー子どもが聴き合う学級活動の映像から共感について考えるー	予習	これまで体験してきた学校教育で、今の自分に影響を与えてもらった人間関係について挙げてくる。
		復習	映像から学んだことを感想文にしてくる。
11回目	子どもの心の育ちをエピソードで描く①ー見えない心の取り上げ方ー	予習	エピソード記述とは何か調べる。
		復習	見えない心を取り上げる方法とは何かをまとめる。
12回目	子どもの心の育ちをエピソードで描く②ー自己充実欲求と整合希求欲求ー	予習	自己充実欲求と整合希求欲求という文字から、どのようなことだと思えるか想像をしてくる。
		復習	この2つの欲求は、保育場面でどのような様子から見ることができるか考えてくる。
13回目	子どもの心の育ちをエピソードで描く③ー年齢と共に複雑な成長を見せる子どもたちー	予習	子どもの年齢が上がってくことで、心も変化してくる具体例を考えてくる。
		復習	取り上げたエピソードから理解したことを書き出してくる。
14回目	子どもの心の育ちをエピソードで描く④ー自己共感の根・重要なおとなの2つの働きー	予習	自己共感の根とは何なのか、想像をしてくる。
		復習	重要な大人の養護・教育とは何かをまとめる。
15回目	まとめー臨床心理学をベースにした理解の仕方を確認するー	予習	これまで学んできた事柄から、新たな視点を見つける。
		復習	学んできた内容より、心の育ちを理解する方法をまとめる。

◇参考書・参考資料等

プリント

◇学生に対する評価

試験 70% 課題 30%

保育内容演習Ⅱ（造形）

担当 鈴木一夫

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

制作と理論を通して表現を学ぶ。指導、援助の準備、制作過程の配慮すべき点を考え実践力を養うとともに子どもの表現の意義、環境について理解・実践力を養う。

◇授業全体の内容の概要

子どもの造形活動、表現を理解し知識、基礎技能を習得する。様々な素材や道具を使用して、制作を通して楽しみや喜びを体験し、指導援助法を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの表現について理解し、発達段階、制作過程における適切な指導、援助方法を身につける。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション 授業の内容、造形表現について	予習	表現について考える。
		復習	表現とはなにかまとめる。
2回目	デカルコマニー、スパッタリング、ステンシル等（紙を使用したもの）	予習	課題について調べ準備する。
		復習	課題について、内容をまとめる。
3回目	実習の造形について①	予習	子どもと造形について考える。
		復習	案が適切かどうか見直す。
4回目	実習の造形について②	予習	実習の制作の準備をする。
		復習	制作したものを検討する。
5回目	実習の造形案、準備、制作（個人指導）	予習	準備、制作について考える。
		復習	制作過程をまとめる。
6回目	おもちゃづくり（画用紙・ケント紙・ダンボール 他）	予習	素材を調べる。
		復習	制作したものが適したものかまとめる。
7回目	おもちゃづくり（毛糸 布 他）	予習	素材を調べる。
		復習	制作したものが適したものかまとめる。
8回目	年間行事のポスター・デザイン①	予習	年間行事を調べる。
		復習	案をまとめる。
9回目	年間行事のポスター・デザイン②	予習	制作するものの準備をする。
		復習	制作したものの内容、表現方法についてまとめる。
10回目	グループ制作 ①紙、毛糸、布等を使用した装飾・平面	予習	グループ制作の内容を考える。
		復習	意見の交換をしまとめる。

11回目	グループ制作 ①紙、毛糸、布等を使用した装飾	予習	準備、役割を確認する。
		復習	制作したものを展示し意見交換をする。
12回目	グループ制作 ②絵具、くれよん等を使用した装飾・立体	予習	素材の特性を調べる。
		復習	意見の交換をまとめる。
13回目	グループ制作 ②絵具、くれよん等を使用した装飾	予習	準備、役割を確認する。
		復習	制作したものを展示し意見を交換する。
14回目	まとめ 幼稚園教育要領についてレポート	予習	教育要領の確認をする。
		復習	表現内容についてまとめる。
15回目	まとめ 保育所保育指針 認定こども園教育要領について レポート	予習	保育指針、認定こども園教育要領を確認する。
		復習	表現についてまとめる。

◇使用テキスト・参考文献

『保育をひらく造形表現』槇 英子 萌文書林 2018年

◇学生に対する評価

授業で制作した提出物(70%) 提出レポート(30%) 内容などから総合的に判断する。

保育内容演習Ⅱ（生活）

担当 峯 克政

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

園生活における子どもの生活について考える。園生活の中心となる遊びについて、学びの姿、学びをとらえる視点などについて事例や映像教材を通し具体的な活動の姿から理解を深める。

◇授業の概要

保育施設における乳幼児の生活の実態について、実習体験の振り返りや映像教材から理解する。また、家庭、地域、園生活など乳幼児が生活する場について客観的な視点でとらえ、それぞれの場における生活の意味について考える。その上で、発達過程を考慮した遊びの環境や保育者の役割について学ぶ。

◇授業計画

	内 容	
1回目	乳幼児期における生活とは	予習 シラバスに記載された授業の到達目標、授業概要等を読み、学びイメージも描いて授業に臨むこと。 復習 乳幼児期の生活を学び理解したうえで、乳幼児教育の基本についてまとめる。
2回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「人間関係」をテーマに①	予習 今まで学んだ保育の基本を再度振り返り、自分の保育者としての理想像を確立しておくこと。 復習 実践事例における考察を200字程度にまとめる。
3回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「人間関係」をテーマに②	予習 第2回授業時の実践事例について、再度多角的に考察し、発表できるようにしておくこと。 復習 授業時に学び得た保育者としての基本理念や援助方法をまとめる。
4回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「環境」をテーマに①	予習 5領域「環境」のねらい及び内容について調べ、確認しておくこと。 復習 実践事例における考察を200字程度にまとめる。
5回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「環境」をテーマに②	予習 第4回授業時の実践事例について、再度多角的に考察し、発表できるようにしておくこと。 復習 授業時に学び得た動物飼育における援助や子どもの育ちについてまとめる。
6回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「言葉」をテーマに	予習 5領域「言葉」のねらい及び内容について調べ、確認しておくこと。 復習 授業時に学び得た文字や数量の獲得における適切な保育のあり方についてまとめる。
7回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「表現」をテーマに	予習 5領域「表現」のねらい及び内容について調べ、確認しておくこと。 復習 授業時に扱った製作に再度取り組み、保育計画を立案する。
8回目	子どもの生活についての保育実践事例の考察「健康」をテーマに	予習 5領域「健康」のねらい及び内容について調べ、確認しておくこと。 復習 実践事例における考察を200字程度にまとめる。
9回目	保育思想史から保育方法を学ぶ（和田實を中心に）	予習 和田実の保育思想について1年時の授業を振り返り、事前学習をしておくこと。 復習 保育思想史から学び得た保育内容を200字程度にまとめる。
10回目	子どもの生活の児童文化（絵本を中心に）	予習 自分の好きな絵本を3つ選び、読み聞かせの練習をしておくこと。 復習 他の学生が紹介した絵本の感想を記入すると共に、絵本読み聞かせ時の注意点などをまとめる。

11回目	子どもの生活と児童文化（歌遊び・ダンス）	予習	テキストやYouTube動画でうたあそびを5個以上覚えて、発表できるようにしておくこと。
		復習	授業時に体験した歌遊びやダンスを再度練習し、しっかりと習得する。
12回目	食育についての基本と考察	予習	偏食傾向のある子どもへの援助方法を、実習での経験を活かしてまとめて、発表できるようにしておくこと。
		復習	授業で学び得た食育のポイントについて200字程度にまとめる。
13回目	幼少の連携を考える（協同的な学びの保育実践例から）	予習	『幼稚園教育要領』の「小学校教育との接続に当たっての留意事項」について調べておくこと。
		復習	幼児教育と小学校教育の円滑な接続について200字程度にまとめる。
14回目	子どもの生活と家庭との連携	予習	講師が提示する保護者対応について、数通りの答えを用意しておくこと。
		復習	適切な保護者対応について、資料に書き込んでまとめる。
15回目	子どもの生活に関する授業の総括	予習	子どもの実態に即した援助方法や保育者の役割について整理してこること。
		復習	授業を通して学び得たことの総括をする。

◇テキスト

『カツリキのうたあそび&運動会ダンス』 みねかつまさ・岡田リキオ 著 世界文化社

◇参考書・参考資料等

適宜、資料を配布し、参考書を紹介する。

◇学生に対する評価

授業への参加態度と取り組み（60%）、レポート提出（40%）を基に総合的に評価する。

保育内容演習Ⅱ（音楽）

担当 引地敦子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①目白幼稚園の園児との音楽活動を通して、子どもの音楽表現の姿やその発達を理解する。
- ②指導計画と実践を行うことにより、保育者に求められる望ましい音楽的保育内容のあり方を考えていく。

◇授業全体の内容の概要

保育所保育指針に示された領域、表現(音楽)の内容の理解を深め、子ども一人ひとりの表現を受け止め、適切な援助をもって、さらなる音楽表現活動への意欲を高めていく。授業内で、実際に目白幼稚園の園児達と一緒に音楽活動を行うことを予定している。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの感性や創造性を育むと共に保育者の豊かな感性と音楽表現力を高める。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション・領域「表現」(音楽)について	予習	シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習	領域「表現」(音楽)について理解したことをまとめる。
2回目	子どもの発達と音楽的表現	予習	子どもの年齢、発達別の音楽的表現を調べる。
		復習	授業で学んだ事柄についてまとめる。
3回目	遊びの理論～音楽遊び	予習	「ロジェ・カイヨワ」の遊びの理論を調べる。
		復習	「ロジェ・カイヨワ」の遊びの要素が含まれている音楽表現活動の事例を理解する。
4回目	目白幼稚園園児達との音楽表現活動 1 音楽を通してコミュニケーションを取り、子ども達と学生との触れ合いを大切にする。	予習	目白幼稚園児と音楽表現活動を行う準備と心構えを持ち、授業に臨む。
		復習	授業で学んだ事柄についてまとめる。
5回目	目白幼稚園園児達との音楽表現活動 2 手遊び歌や秋の歌を歌い、季節を感じながら音楽活動を行う。	予習	目白幼稚園児との音楽表現活動の中でどのような援助が必要か自分で考える。
		復習	授業で学んだ事柄についてまとめる。
6回目	目白幼稚園園児達との音楽表現活動 3 音楽を聴いて、心で感じたままに身体を動かすことを楽しむ。	予習	目白幼稚園児との音楽表現活動の中で歌った手遊び歌や季節の歌を練習する。
		復習	授業で学んだ事柄についてまとめる。
7回目	目白幼稚園園児達との音楽表現活動 4 まとめの音楽活動を行い、子ども達と音楽表現をする喜びや楽しさを味わう。	予習	目白幼稚園児との音楽表現活動の中で主体的な活動になるような保育者の言葉掛けを考える。
		復習	第4回から第7回までの目白幼稚園児との音楽表現活動を振り返りまとめる。
8回目	指導計画と指導の実際1～子どもの発達に応じて～	予習	音楽表現活動の指導案を作成するための方法を調べる。
		復習	音楽表現活動の指導案を作成するための方法を理解しまとめる。
9回目	指導計画と指導の実際2～豊かな音楽表現活動への発展とは～	予習	子どもの発達に応じての音楽表現活動の発展性について考える。
		復習	子どもの発達に応じての音楽表現活動の発展性についてまとめる。

10回目	指導計画と指導の実際3～指導案の作成①～テーマを考える	予習	音楽表現活動の指導案を作成するにあたり、様々な指導計画実例を参考にする。
		復習	授業で学んだ事柄を指導案に盛り込む。
11回目	指導計画と指導の実際4～指導案の作成②～全体の構成を考える	予習	音楽表現活動の指導案の手直しをする。
		復習	自分で考えた指導案をシミュレーションし、実践に備える。
12回目	指導計画と指導の実際5～ロールプレイング～グループディスカッション	予習	グループで音楽表現活動の実践を行うため、どんな役割があるかを考える。
		復習	グループディスカッションした内容をまとめる。
13回目	指導計画と指導の実際6～ロールプレイング～模擬実践	予習	自分の役割の練習、イメージして授業に臨む。
		復習	授業内で模擬実践したことを振り返り、自分の役割を確認する。
14回目	研究発表	予習	他のグループの指導案を読み、音楽表現活動をイメージする。
		復習	他のグループの実践を見て他者評価をし、実践に役立てる。
15回目	研究発表、学習のまとめ	予習	自分の役割の練習、全体の進行を把握して音楽表現活動の実践に臨む。
		復習	目白幼稚園児と音楽表現活動の実践を振り返り、反省点や改善点を明確にする。

◇使用テキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

◇単位認定の方法及び基準

授業への取り組みに対する意欲や態度40%、指導計画の立案、実践発表40% 提出課題20%

保育内容演習Ⅱ（運動）

担当 茗井香保里

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

実践を通して、乳幼児の発育発達段階に応じた乳幼児の運動あそびの重要性を理解し、実践力の獲得を目指す。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児の体づくりに有効な調整運動と発育発達を踏まえた運動あそびの援助法を習得し、かつ、子どもたちの創造性や感性を豊かにする指導内容を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

乳幼児を、心地よく運動あそびへと導き、十二分に遊ばせる技を習得できたかどうか。発育発達の理解・環境の準備・整備・ことば掛け等。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション・基本体操とその理論・四足位の重要性	予習	シラバスを熟読し、15回の授業の全体像を把握しておくこと。
		復習	オリエンテーションで、最も興味をもったことについて、ノートにまとめる。
2回目	マットを使った運動あそび（道として用いる）	予習	教科書のP30～33「運動遊び」について読んでおくこと。
		復習	マットの機能についてまとめる。
3回目	マットを使った運動あそび（用具として用いる）	予習	教科書のP34～35「乳幼児期と運動遊び」を読んでおくこと。
		復習	マットを使った運動遊びについてノートにまとめる。
4回目	巧技台を使った運動あそび（名称・組み方・遊び方）	予習	教科書のP36～41「巧技台の活用」を読んでおくこと。
		復習	資料やインターネットを使って「巧技台遊び」について調べ、ノートにまとめる。
5回目	ボールを使った運動あそび（一人一ケの基本のあそび）	予習	教科書のP40～45「運動遊びの実例」を読んでおくこと。
		復習	授業で実践したボール操作についてノートにまとめる。
6回目	ボールを使った運動あそび（二人以上の集団あそび）	予習	教科書のP46～47「ゲーム的な運動遊び」他を読んでおくこと。
		復習	授業で実践した「ボール遊び」についてノートにまとめる。
7回目	短縄を使った運動あそび（一人一本の基本のあそび）	予習	短縄遊びの起源について調べておくこと。
		復習	授業で実践した「短縄遊び」についてノートにまとめる。
8回目	短縄を使った運動あそび（二人以上の集団あそび）	予習	資料やインターネットを使って「巧技台遊び」について調べ、ノートにまとめておくこと。
		復習	授業で実践した「短縄遊び」を基に遊びを考案し、ノートにまとめる。
9回目	長縄を使った運動あそび（乳児向け・幼児向け・親子）	予習	資料やインターネットを使って幼児の「長縄遊び」について調べ、ノートに書き留めておくこと。
		復習	授業で実践した「長縄遊び」についてノートにまとめる。

10回目	フープを使った運動あそび（一人一本～二人以上の集団あそび）	予習	資料やインターネットを使って幼児の「フープ遊び」について調べ、ノートに書き留めておくこと。
		復習	授業で実践した「フープ遊び」を基に遊びを考案しノートにまとめる。
11回目	タオルを使った運動あそび（一人一本～二人以上の集団あそび）	予習	資料やインターネットを使って「生活用品を使った運動遊び」について調べ、ノートに書き留めておくこと。
		復習	タオル以外の生活用品を使用した運動遊びを考案し、ノートにまとめる。
12回目	模擬保育実践（チームごとに実践その1）	予習	教科書のP48～49「運動遊びの指導案」他を読んでおくこと。
		復習	模擬保育を体験し、保育者の立場から、保育内容を振り返り、ノートにまとめる。
13回目	模擬保育実践（チームごとに実践その2）	予習	教科書のP66～69「安全へのまなざし」を読んでおくこと。
		復習	模擬保育を体験し、子どもの立場から、保育内容を振り返り、ノートにまとめる。
14回目	まとめ：生涯健康とQOLを目指した「運動あそび」を考える	予習	教科書のP18～23「健康とは何か」を読んでおくこと。
		復習	健康観の変遷についてノートにまとめる。
15回目	まとめ：乳児の発育発達の順序・健康な体づくりに大切なこと	予習	教科書のP24～29「ライフキャリア発達を支える運動」を読んでおくこと。
		復習	人生における健康と運動について、自分の考えをまとめ、ノートに記述する。

◇使用テキスト・参考文献

『幼児の運動・身体表現—生涯健康とライフキャリア発達』 若井香保里 著 推敲舎

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度、準備 40% 課題の内容 30% 確認テスト 30%

音楽Ⅲ

担当 引地・岩瀬・蔵田
中倉・森・中井

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①1年次に習得したピアノの奏法技術をより深め、保育現場で実践できる音楽表現力を高める。
- ②子どもの歌の伴奏を滑らかに且つ、表現豊かに奏することができる。
- ③子どもの表現を見ながら弾き歌いができる。

◇授業全体の内容の概要

本授業では、1年次でのピアノの学びを踏まえ、子どもの表現を見ながら、自信を持って弾き歌いができる等の実践力を身につけ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現技術も学んでいく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもたちが歌ったり、表現したりする際、子どもたちの音楽表現を根底で支え、育み、伸ばしていくことのできる保育者の感性や音楽表現力を養う。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	オリエンテーション／コードによる伴奏付① 及び関連楽曲	予習	事前に授業科目概要を読む。これまでに習った各調のコードを五線紙等にまとめておく。ピアノ教本のNo. 90、91の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 90、91他、指導を受けた点を復習する。
2回目	コードによる伴奏付② 及び関連楽曲	予習	ピアノ教本No. 92、93他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 92、93他、指導を受けた点を復習する。
3回目	コードによる伴奏付③ 6/8拍子 及び関連楽曲	予習	6/8拍子の仕組みについて調べる。ピアノ教本No. 94、95他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 94、95他、指導を受けた点を復習する。
4回目	楽曲に合ったいろいろな伴奏法① 及び関連楽曲	予習	ピアノ教本No. 96、97他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 96、97他、指導を受けた点を復習する。
5回目	楽曲に合ったいろいろな伴奏法②（アルベルティ・バスの伴奏等） 及び関連楽曲	予習	アルベルティ・バスの奏法について調べる。ピアノ教本No. 98、99他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 98、99他、指導を受けた点を復習する。
6回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等① コードを見て、瞬時に和音を押さえられるようにする。	予習	コードを見て瞬時に弾く練習をする。ピアノ教本No. 100、101他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 100、101他、指導を受けた点を復習する。
7回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等② まとめの曲の課題発表、選曲	予習	コードを見て瞬時に弾く練習をする。ピアノ教本No. 102、103他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 102、103他、指導を受けた点を復習する
8回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等③ 一つの曲で、いろいろな伴奏型を体験する。	予習	コードを見て、様々な伴奏型を練習する。ピアノ教本No. 104他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 104他、指導を受けた点を復習する。
9回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等④ 曲の雰囲気やイメージに合わせた伴奏型を自分で選択できるようにする。	予習	曲のイメージや雰囲気に合わせた伴奏型を考え練習する。ピアノ教本No. 105他の予習をする。
		復習	ピアノ教本No. 105他、指導を受けた点を復習する。

10回目	子どもの歌弾き歌い伴奏① ピアノ曲と子どもの歌の曲想を感じ取り、曲を理解できるようにする。	予習	曲想を感じ取り練習をする。まとめの曲他の予習をする。
		復習	まとめの曲他、指導を受けた点を復習する。
11回目	子どもの歌弾き歌い伴奏② 曲の構成を理解し、ピアノ技術の向上を目指す。	予習	曲の構成を理解し練習する。まとめの曲他の予習をする。
		復習	まとめの曲他、指導を受けた点を復習する。
12回目	子どもの歌弾き歌い伴奏③ 暗譜で弾けるよう練習を重ね、表情豊かに表現できるようにする。	予習	暗譜で弾けるように練習する。まとめの曲他の予習をする。
		復習	まとめの曲他、指導を受けた点を復習する。
13回目	子どもの歌弾き歌い伴奏④ 音楽的な表現力を身につけていく。	予習	これまでの取り組みを振り返り、練習する。まとめの曲他の予習をする。
		復習	まとめの曲他、指導を受けた点を復習する。
14回目	子どもの歌弾き歌い伴奏⑤ 子どもの歌弾き歌いは、先生役になってピアノを弾く練習をする。	予習	保育現場での活動をイメージして練習する。まとめの曲の予習をする。
		復習	まとめの曲の指導を受けた点を復習する。
15回目	学習のまとめ、ピアノ演奏・発表	予習	まとめの曲（仕上げ）の予習をする。
		復習	指導を受けた点を復習する。

◇使用テキスト・参考文献

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校

中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まとめの演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%

音楽Ⅲ終了時まで、『たのしく弾くピアノ教本』の105番「思い出のアルバム」まで到達していること。

音楽（ピアノ）

担当 引地・岩瀬・蔵田

演習 2年後期

久道・中倉

◇授業の目的・ねらい

- ①2年前期までに習得したピアノの表現技術をより深め、保育現場で実践できる音楽表現力を高める。
- ②楽曲を正しく、且つ表現豊かに奏することができる。
- ③子どもの音楽表現を豊かに引き出していくことができる。

◇授業全体の内容の概要

本授業では、実習で弾く子どもの歌や、就職試験対策、又、最後に校内発表会を行うことを予定しているので、2年間の学びの総まとめとなるような曲等、各人の希望に合わせた内容で実施される。担当教員と相談の上、自身の目標を設定し、達成していくことを目指す。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育現場で求められる、子どもの遊びを豊かに展開するために必要なピアノの奏法技術を習得する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容		
1回目	ピアノ学習のための目的と心構え。 学習計画及び楽曲の選定、就職試験対策等	予習	事前に授業科目概要を読む。
		復習	これからの学習計画をたてる。
2回目	個人のレベルによりスタート点を決め、レッスン開始	予習	事前に図書室等で楽譜を探し、授業に持参する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
3回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 1	予習	演奏する曲の作曲家について調べる。
		復習	指導を受けた点を復習する。
4回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 2	予習	演奏する曲の構成を考察する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
5回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 3	予習	演奏する曲の構成を理解し練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
6回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 4	予習	演奏する曲の曲想を感じ取り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
7回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 5	予習	演奏する曲の曲想にあった表現を工夫し練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
8回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 6	予習	速度や強弱変化を工夫し練習する
		復習	指導を受けた点を復習する。
9回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 7	予習	これまでの取り組みを振り返り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。

10回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 8	予習	これまでの取り組みを振り返り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
11回目	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 9	予習	これまでの取り組みを振り返り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
12回目	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 1	予習	これまでの取り組みを振り返り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
13回目	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 2	予習	暗譜で弾けるように練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
14回目	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 3	予習	これまでの取り組みを振り返り練習する。
		復習	指導を受けた点を復習する。
15回目	校内発表会	予習	演奏曲（仕上げ）の予習をする。
		復習	指導を受けた点を復習する。

◇使用テキスト・参考文献

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校

上記の教科書、又は担当教員と相談の上、自由選択する。

◇単位認定の方法及び基準

校内発表会における演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%

言語Ⅱ

担当 藤村公三郎

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて理解し、実践の中で生かせるようにする。幼児にとっての児童文化財の意義を理解する

◇授業全体の内容の概要

領域「言葉」の指導の基盤となる、豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。特に、その過程での環境や人間関係、遊びを中心とした様々な活動をとらえ、特に、子どもの内面の動きを見取った保育者のかかわりの仕方を学びあう。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

人間にとっての言葉の意義や機能を理解し説明できる。言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、乳幼児の発達の姿と合わせて説明できる。児童文化財に付いて基礎的な知識を身につける。絵本、物語、紙芝居等を乳幼児の発達を理解し、それに合わせた実践を行う。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内	容
1回目	オリエンテーション 人間と言葉について考える 領域（言葉）の内容から自分の言葉を見直し、学習の目当てを立てる。	予習 言葉は人間にとってどんな働きをしているか、思いついたものを書き上げてくる。
		復習 学んだ言葉の働きは、領域（言葉）の「ねらい」「内容」との関わりをまとめる。
2回目	幼児教育の基本 幼児教育の目的と領域 幼児期にふさわしい教育 小学校以上の教育の基盤として 子どもの発達と保育内容	予習 幼児教育の目的とその5領域を書き出してくる。
		復習 小学校以上の教育と保育・幼児教育の違いを「5領域」という視点からまとめる。
3回目	幼児教育の基本 環境を通しての教育 環境との出会い 子どもが活動を進め組織し計画する活動を学ぶ。	予習 「保育における環境」と聞かれ、思いつくことはなにかまとめておく。
		復習 子ども達にとって保育者が支える園の環境とはなにかまとめてみる。
4回目	幼児教育の基本 幼児期にふさわしい生活の展開 遊びを通しての双方向的指導ひとり一人の発達の特性に応じた指導 計画的な環境の構成	予習 「遊びを通しての指導」を5領域の視点からどのようなものがあるか考える。
		復習 計画的な環境構成と一人ひとりの発達の特性に応じた指導を3つにわけてまとめてみる。
5回目	保育者の様々な役割 用意し、見守り、支える 指導し、助言し、共に行う。共感し、受け止め、探り出す あこがれとモデルになる。	予習 「保育者の役割」とは何か、どんなものがあるか。思いつくものを書き出してみる。
		復習 授業で学んだ役割の中で、今、自分が一番大切にしたいと思っていることを具体的に挙げる。
6回目	領域「言葉」 領域「言葉」と領域間の関係 言葉の獲得に関する領域「言葉」ことばの基盤を育む領域「言葉」	予習 教科書を読みこれまでの幼稚園教育要領の改訂とそのポイントをノートに書き写す。
		復習 5領域間の関係とは、言葉の獲得とは、言葉の基盤を育むとは、概要が理解できたか考える。
7回目	幼児期の発達とことば からだで感じる世界 自分で広げる世界 広がる活動世界	予習 人はどうやってことばを使えるようになったか、どんな段階があったか考えてみる。
		復習 乳幼児期の成長とことばの発達の関係を大まかに説明できる。
8回目	乳幼児期のことばの発達と大人の存在 心の拠り所となり、内的世界を受け止めるやりとりを支え、広げる。	予習 乳幼児がことばを獲得するにはどんな環境が必要だったのか、思いつくままに挙げる。
		復習 ことばの発達に欠かせないおとなの存在を学び、乳幼児と接する自分について考えてみる。

9回目	ことばの発達をとらえる視点 様々な表現としての言葉 コミュニケーションとしての言葉 耳から親しむ言葉 目で楽しむ言葉	予習	日常、こどもたちはどんな場面で、どのようにことばを使って生活しているのだろうか。
		復習	言葉の発達を考える時保育者にはどんなことが求められるだろうか。800字でまとめる。
10回目	信頼関係から生み出される言葉 言葉にならない表現を受け止める。居場所居方を見つける 行為を通してつながる心	予習	実習体験から、子どもの気持ちや考えを理解するにはどんな方法があったか考えてみる。
		復習	ことばにならない表現から始めてことばでの表現を導いていく方法の保育者としての根幹とは。
11回目	信頼関係から生み出される言葉 言葉で伝え合う生活経験を共有する。言葉で伝えたいくなるようなような体験 実感を伴った体験の積み重ね	予習	子どもたちはどんな時に言葉を発するだろうか、いくつか挙げてみる。
		復習	ことばを使うにはこどもの体験や実感が大切である。保育者になったらどんなことをしたいか。
12回目	イメージ、感覚を共有する。豊かな言葉を生み出す基盤 からだを通した共通のイメージ	予習	事例3-9・10のイメージ、感覚ってどういうことか自分の言葉で書いてみる。
		復習	保育園・幼稚園に勤め、具体的に子どもの感覚を磨く活動の実践を思い描き書いてみる。
13回目	「今、ここ」を超えて広がる世界とことば 書き言葉（文字）が広がる世界 文字に出会う 文字を自分のものにする 文字を介した活動 絵本 てがみ	予習	「今、ここ」を超えて広がる世界とは何か、自分の考えをまとめて書いてみる。
		復習	話し言葉、読み言葉で表せる世界、書き言葉ならではの世界を説明できる。
14回目	ごっこ遊びとことば イメージをふくらませる。言葉を使って考える。役割とことば状況設定とその共有	予習	「ごっこ遊び」とはなにか、友達に説明できるように考えてくる。
		復習	お手紙ごっこを考え、クラスの中でやってみる。
15回目	まとめ 講座の受講の振り返りと学習の確認	予習	今まで学習した言葉についての教科書やレジュメを見直して、二つのテーマを考える。
		復習	自分で選んだ二つのテーマをそれぞれ800字以内でまとめる。

◇使用テキスト・参考文献

『事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉』無藤隆 監修 宮里暁美 編者代表 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

テスト 60% 提出課題 20% 演習への参加態度と内容 20%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長（30年）・教育委員会にて教育相談員（2年）の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者（3年）・文部科学省中央指導者研修会講師（4年）、学童保育所（4年6月）にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

環境

担当 大西明実

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

1. 子ども理解に基づき、領域「環境」の面からも子どもにとって意義ある保育が展開できるような基礎的な知識・技術を身につけることができる。
2. 子どもが主体的に問題解決をする際に適切な指導・助言ができるようになる。そのため、学習者自ら日常生活の中にも不思議なことが潜んでいることに気づき、環境に関する感覚を研ぎ澄ませる習慣を身につけることができる。

◇授業の概要

本授業では、身近な環境との関わりに関する領域「環境」への理解を深める。子どもにとっての身近な環境を捉えるとともに、それらに対する接し方を学ぶ。理論のみでなく保育の現場で実際に直面する「環境」に関して、実物を見たり触れたりする体験も取り入れる。そして子どもの心身の発達を考慮しつつ、領域「環境」に関わる保育を展開できる能力を養う。

なお、作業に必要となる物を事前に連絡することがあるので、よく確かめて出席すること。また天候などにより授業の順番が前後することもある。

◇授業計画

	内 容		
1回目	領域「環境」とは(1):領域「環境」の目的・ねらい・内容を理解する	予習	領域「環境」について、シラバスに記された目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習	幼稚園教育要領等の「環境を通した保育」と領域「環境」について、自分自身が捉えたことをまとめる。
2回目	領域「環境」とは(2):幼児を取り巻く環境を知り、現代における課題を理解する	予習	子どもにとっての環境の意味は何かを200字にまとめ、授業時に発表する。
		復習	授業を通して、現在の乳幼児を取り巻く環境から、その課題について考え、保育者として必要な手立てをまとめる。
3回目	身近な環境を知る(1):植物の観察と栽培	予習	生活の中にある身近な自然に目を向け、気づいたことをまとめる。
		復習	生活の中にある身近な野草を5つ調べ、どのような遊びに取り入れられるのかを考えレポートにまとめる。
4回目	身近な環境を知る(2):連続した植物の観察と栽培	予習	草花遊びについて、授業時に発表できるよう準備しておく。
		復習	植物の栽培を通して、草花や野菜を園で栽培する意義を考えまとめる。
5回目	身近な環境を知る(3):昆虫の観察	予習	公園などで見つけた身近な昆虫について調べたことをまとめる。
		復習	授業を通して気づいた昆虫とのかかわりについて整理する。
6回目	身近な環境を知る(4):生き物の飼育	予習	自分自身の育ちの中で経験した生き物の飼育について振り返り、まとめる。
		復習	授業を通して、園で生き物を飼育する意義を考えまとめる。
7回目	ものに関わる保育の実際(1):自然環境を取り入れた保育	予習	四季折々に出会う身近な自然にはどのようなものがあるか整理する。
		復習	自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ちについてまとめる。
8回目	ものに関わる保育の実際(2):身近な素材を使った保育	予習	廃材などの素材を準備し、どのような遊びが生み出されるかを考えまとめる。
		復習	ものとのかかわりにおける子どもの育ちについてまとめる。

9回目	おさんぽマップ作り(1):おさんぽ地図の作成	予習	五感を意識した近隣の散歩を通して、気づきをまとめる。
		復習	得られた情報を整理し、子どもがかかわることを意識しまとめる。
10回目	おさんぽマップ作り(2):おさんぽ地図の発表会	予習	お散歩地図の発表に向けて自分の役割を整理する。
		復習	各グループの発表から得られた気づきと保育にどのように活かされるのかをまとめる。
11回目	身近な施設の利活用(1):身近な施設の見学	予習	保育が地域と繋がることについて考え、まとめる。
		復習	地域との繋がりから得られる子どもの育ちについてまとめる。
12回目	身近な施設の利活用(2):身近な施設と保育	予習	施設見学を通じた気づきをまとめる。
		復習	身近な施設とのかかわりを保育の中に取り入れる意義についてまとめる。
13回目	年中行事と保育	予習	日本の文化や行事についてまとめる。
		復習	年中行事を保育に取り入れる意義と方法について考えまとめる。
14回目	保育と教育の連続性	予習	保育と教育について調べ、まとめてくる。
		復習	授業を通して、遊びと学びについて考えまとめる。
15回目	領域「環境」のまとめと解説 定期試験	予習	人的環境としての保育者のあり方についてまとめる。
		復習	授業を通して学んだことの総括をする。

◇テキスト

『新版実践保育内容シリーズ「環境」』大澤 力 編著 一藝社

◇参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

授業の取組み姿勢(20%)、レポート(50%)、定期試験(30%)により総合的に評価する。

リトミック・音楽理論

担当 引地敦子

演習 1年前期

志田尾恭子

◇授業の目的・ねらい

- ①ダルクローズ・リトミックを通して、保育者に必要とされる豊かな感性を養い、音楽の持つ力（魅力）や、子どもと音楽の関係について探っていく。
- ②基礎的な音楽理論を併せて学習することにより、更なる音楽理解と体得を深めていく。

◇授業の概要

本授業ではリトミック・アプローチを用いて、子どもの音楽活動を中心とした授業内容を展開し、理論と実践の両面から理解を深め、さらに保育者の豊かな感性と音楽表現力を高めることを目指す。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①保育者の豊かな感性と音楽表現力を高める。
- ②基礎的な音楽理論を理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容	
1回目	オリエンテーション（授業の参加の仕方等）リトミックとは 音楽とコミュニケーション	予習 シラバスに記された授業の目標、意義、授業概要等について熟読し、これから学ぶ内容をイメージして授業に臨むこと。
		復習 「リトミック」という音楽教育について理解したことをまとめる。
2回目	リトミック 手遊び歌①／拍（ビート）を感じる。手拍子回し 音符の長さ① ステップ（四分音符、二分音符）、フレーズ「きらきら星」	予習 拍（ビート）、音符（四分音符、二分音符）について調べる。
		復習 様々な曲に合わせて拍（ビート）を取る。手遊び歌を復習する。
3回目	音楽理論 楽譜のしくみ①、音名と様々な記号①（変化記号）	予習 楽譜のしくみ、音名と様々な記号（変化記号）を調べる。
		復習 授業で指導を受けた点とそれが表記されているピアノ教本の曲とを結び付けて理解する。
4回目	リトミック 手遊び歌②／音符の長さ② ステップ（付点二分音符、全音符、八分音符） 世界の民謡、ダンス／拍の分割（三連符、十六分音符）	予習 様々な音符（付点二分音符、全音符、八分音符、三連符、十六分音符）について調べる。
		復習 授業で指導を受けた様々な音符の理解をする。手遊び歌を復習する。
5回目	音楽理論 楽譜のしくみ②、音符と休符	予習 音符と休符の違いについて調べる。
		復習 授業で指導を受けた点とそれが表記されているピアノ教本の曲とを結び付けて理解する。
6回目	リトミック 手遊び歌③／強弱、アクセントと拍子「あんたがたどこさ」 スキップとギャロップ（付点八分音符と十六分音符）／わらべうた①	予習 アクセントと拍子、スキップとギャロップの違いを調べる。
		復習 様々な曲の拍子を感じ、それぞれの拍子の特徴、ニュアンスを理解する。実際にスキップとギャロップをステップし理解する。
7回目	音楽理論 拍子とリズム①、小節、様々な記号②（速度記号と強弱記号）	予習 速度記号と強弱記号を調べる。
		復習 授業で指導を受けた点とそれが表記されているピアノ教本の曲とを結び付けて理解する。
8回目	リトミック ステップチェックテスト、わらべうた②	予習 わらべうたについて調べる。
		復習 授業で行ったわらべうたを歌い、わらべうたの特徴と意義を理解する。

9回目	音楽理論 拍子とリズム②、様々な記号③（発想記号）	予習	発想記号について調べる。
		復習	授業で指導を受けた点とそれが表記されているピアノ教本の曲とを結び付けて理解する。
10回目	リトミック 音楽と動きの創作身体表現①（グループワーク） ハ長調における主要三和音のハーモニーをトーンチャイムで演奏する。	予習	主要三和音について調べる。
		復習	主要三和音が出てくる曲をピアノで弾き、響きを感じて理解する。
11回目	音楽理論 和音とコードネーム、様々な記号④（奏法を表す記号）	予習	コードネームについて調べる。
		復習	授業で指導を受けた点とそれが表記されているピアノ教本の曲とを結び付けて理解する。
12回目	リトミック 音楽と動きの創作身体表現②（グループワーク） 「きよしこの夜」の曲のメロディーをハンドベル、ハーモニーをトーンチャイムで演奏する。	予習	「きよしこの夜」の曲の旋律（メロディー）を歌い、自分でコードネームをつけてみる。
		復習	「きよしこの夜」の曲やその他の曲をコードネームを見ながらピアノで弾いてみる。
13回目	音楽理論 振り返りと確認	予習	今までの授業で学んだことを復習する。質問したい点をまとめておく。
		復習	授業で指導を受けた点を復習し理解する。
14回目	リトミック 創作身体表現の発表、ハンドベルとトーンチャイムの発表	予習	創作身体表現の練習を行う。
		復習	創作身体表現の発表とハンドベルとトーンチャイムの発表の動画を観て振り返る。
15回目	音楽理論 まとめ	予習	音楽理論の総まとめとして今まで学んだことを整理しまとめておく。
		復習	今までの授業で学んだことを振り返り、「リトミック」と「音楽理論」を結び付けて理解する。

◇使用テキスト・参考文献

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』 改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校

音楽ファイル

『すてきな保育者をめざして』改訂第2版 兼重祐子 監修 東京教育専門学校

◇学生に対する評価

授業への参加態度、実技・発表40%、筆記試験50%、提出課題10%

学校
法人

和田実学園

東京教育専門学校

目白本館：〒171-0031

東京都豊島区目白2-38-4

TEL 03(3983)3385 (代) FAX 03(3983)3386

発行者 東京教育専門学校